





Field Production Mixer with Integrated Recorder

User Guide



Legal Notices

Product specifications and features are subject to change without prior notification.

Copyright © 2016 Sound Devices, LLC. All rights reserved.

This product is subject to the terms and conditions of a software license agreement provided with the product, and may be used in accordance with the license agreement.

This document is protected under copyright law. An authorized licensee of this product may reproduce this publication for the licensee's own personal use. This docment may not be reproduced or distrib-uted, in whole or in part, for commercial purposes, such as selling copies or providing educational ser-vices or support.

This document is supplied as a technical guide. Spe-cial care has been taken in preparing the information for publication; however, since product specifications are subject to change, this document might contain omissions and technical or typographical inaccura-cies. Sound Devices, LLC does not accept responsi-bility for any losses due to the user of this guide.

Trademarks

The "wave" logo and USBPre are registered trademarks, and FileSafe, PowerSafe, SuperSlot, MixAssist and Wave Agent are trademarks of Sound Devices, LLC. Mac and OS X are trademarks of Apple Inc., regis-tered in the U.S. and other countries. Windows is a registered trademark of Microsoft Corporation in the United States and other countries.

FCC Notice

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This devices may not cause harmful interference, and (2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Manual Conventions

Symbol	Description
>	This symbol is used to show the order in which you select menu commands and sub-options, such as: Main Menu > Audio indicates you press the Menu button for the Main Menu, then scroll to and select Audio by pushing the Control Knob.
+	A plus sign is used to show button or keystroke combinations.
	For instance, Ctrl+V means to hold the Control key down and press the V key simultaneously. This also applies to other controls, such as switches and encoders. For instance, MIC+HP turn means to slide and hold the MIC/TONE switch left while turning the Headphone (HP) encoder. METERS+SELECT means to hold the METERS button down as you press the SELECT encoder.
1	A note provides recommendations and important related information. The text for notes also appears in a different color and italicized.
A	A cautionary warning about a specific action that could cause harm to you, the device, or cause you to lose data. Follow the guidelines in this document or on the unit itself when handling elec- trical equipment. The text for caution- ary notes also appears in a different color bold and italicized

633 User's Guide • Rev 4-D • July 10, 2018

This document is distributed by Sound Devices, LLC in online electronic (PDF) format only. E-published &/or printed in the USA.

Revision History

Rev#	Date	Firmware Version	Description
1-A	Feb 2016	v2.11	Initial Official Release of Redesigned Publication
			Includes Firmware feature updates for:
			 CL-12 Integration: "CL-12 Linear Fader Controller" on page 151
			• External TC User Bits: "Setting User Bits" on page 79
			 QR Codes: "Viewing User Guide via Smart Phone QR Code" on page 106
1-B	Apr 2016	v2.11	Minor document edits; fix broken cross-ref links.
3-A	June 2016	v3.10	Includes Firmware feature updates for:
			 Added new chapter on Remote Control of 6-Series mixers. In CL-12 chapter, added new section "Disabling Output Controls" on page 165. In File Storage chapter, added new section "Changing the Take Designator" on page 88.
3-В	July 2016	v3.10	Minor document edits: fix page-numbering realignment.
4-A	Sept 2016	v4.00	Added new chapter "Wingman" covering how to use the Wingman iOS-based app that, when paired with the WM-Connect Bluetooth [®] Smart USB dongle, enables remote control of any 6-Series mixer.
4-B	Feb 2017	v4.50	Added new chapter "MixAssist & Dugan Automixing" covering the new Auto Mixer feature added to the 633.
4-C	Apr 2017	v4.51	Updated Wingman chapter with information on Wingman Password.

目次

目次	•••••		5
管休の概要			9
フロントパウル	0	十四志ぷうれ	10
ノロントハイル	9	右側面ハイル 北西パラル	12
左側面ハイル	12	宵面ハイル	13
滅島画面とユーザーインターフェー	- ス		15
	15	ノノンノー・シュアクトフ	17
	10	レOD し LED のカフターイズ	11
メーターヒューの使い方	16	LCD と LED のルスタマイス	
>->-E==000/>>++1>	16	LCD 71 71 FEFF	18
ヘッドフォン・モニター			19
ヘッドフォンの接続	19	カスタム HP プリヤットの設定	21
ヘッドフォンソースの選択	19	フェイバリット HP プリセットの選択	22
HP エンコーダー・モード	20	HP $y = x - x - y - y - y - y - y - y - y - y -$	
HP プリセットのリスト設定	20	$HP \mathcal{P} - \rho LFD$	
			22
電源			23
633の電源供給	23	PowerSafe [™]	
外部電源の利用	23	クイックブート	
バッテリー電源の使用	24	強制電源オフ	27
電圧とスレッショルド		消費電力	
電源の設定	25		
1 +			90
			29
フィジカル人力コントロール	29	$PAN = \mathcal{V} \land P = \mathcal{V}$	36
人力を有効にする	30	人力設定	
人力設定画面	30	リンキング	
人力ソースの設定	32	MS リンク	38
ハイパスフィルタの設定	33	ファンタム電源	
L, R, X1, X2 へのルーティング	33	PFL トグルモードの設定	
トラックネーム・ショートカット	34	人力と ISO ルーティング	39
入力信号の位相反転	35	入力ディレイ	40
トリムとフェーダーの調整	35		
出力			41
山ノマイククー	41	ALO Output Kouting 画面	44
田刀クインの調登	41	Aux $(X1 - X4)$ $\lambda = 7 + 77$	
出力設定		Aux Output Kouting 画面 王生味の山土岩 しまた	46
出力リンク		冉生時の出力ホート設定	
出力タイノとノミナルレベル		出刀アイレイ	
田刀ルーティンク		トーン信号の出力	
AES 出力ルーティンク	44		
MixAssis & Dugan Automixing			49
Auto Mixer mm	10	MivAcciet オフ・アッテネーション	59
Auto Mixor D On & Off	4 0 50	MixAssist 山の LCD 表示	52 59
オートミキサーヘインプットのアサイン	50	Dugan Automixing の概西	55 54
ベート・ションマンシンシンソフリイン MixAssistの概要	51	Dugan Automixing のICD 主子	
191147155151 沙顶女	91	Dugan Automixing の LOD 衣小	04
リミッター			55
概要	55	スレッショルドの調整	
リミッターを有効にする	55	リミッターのリンク	

録音			57
記録メディアの進備	57	サンプルレート	62
トランスポートコントロール	58	F mode サンプルモード	63
録音トラック	59	ビット深度	63
禄音設定 	60	プリ・ロール	
ファイルタイプとトラックアサイン		スレートマイク	64
WAV (Broadcast WAV)	61	再生	65
MP3	61	認証メディアのリストを QR コードで確認	65
MP3 ビットレート	62	нант / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	
Slate Mic & Returns		•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	67
スレートマイクを無効にする	67	注記としてのスレート使用	69
スレートマイクのゲイン	68	RTN モニター	69
スレートのルーティング	68		
ダイムコードとシンク	•••••		71
Timecode	71	Timecode のジャミング	74
Timecode モードの設定	72	Timecode ジェネレータの設定	74
フレームレートの設定	73	User Bits の設定	
Timdecode Hold Off の設定	73	画面モードの設定	
ファイルストレーン	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
File 構造	77	テイク識別の文字	
ファイルを PC に転送するには	78	最大ファイルサイズの設定	
Take List と File List	78	シーン増加モード	
ファイルリストにアクセス	79	テイク・リセット	85
ファイルとフォルダの削除	80	ファイル再生モード	85
ファイルストレージの設定	80	再生メディアの既定	
フォルダのオプション設定	82	メディアの消去・フォーマット	
サウンドレポートの生成	83		
コカゴーカレティカリフレ			07
メタブータとフィクリスト		••••••	87
Take List の概要	87	シーンリストのクリア	90
Take List にアクセス	88	メタデータの概要	
テイクの冉生		前のテイクを削除・リネーム	92
633 でメタデータ編集		他のブログラムでメタデータを編集	92
ノートにフレーズを使用する			
System			03
	09	フィーガートDANの快工	JU
トーノとハル の設定 Dec/Chan b数生がれ の設定		ノエーターと PAN の校正	
Rec/Stop と警古ハル の の 改正 の 記 の 記 の 記 の 記 の 記 の 記 の 記		USB イールート	100
		ンヨートルツト 「報の 唯認	100
メーター指示符性とヒークホールド ピークオールドの恐空	96	ユーリールイトをスマートノオンで見る	100
レーク 小ールトの改正 ロチト味和パラマー ク訊亭	97	ハーンヨン (同報の) 唯認	101
口112 と時刻ハフメータ設正	97	ノアームリエナ・ナッフアート	101
クイック・ヤットアップ			103
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1በዒ	ヤットアップファイルの削除	104
セットアップファイルのコピー	107	セットアップファイルのロード	105
			100

セッティングの保存	.103
セットアップファイルのコピー	.104

フロントパネル・	ショートカット.	107
----------	----------	-----

ショートカット操作......107

USB キーボード・ショートカット......109

WINGMAN ワイヤレスインタ・	-フェース		111
Wingman をはじめる		トラックネームの編集	119
パスワードの設定	111	トラックのアーム/アーム解除	120
ユーザーインターフェース	112	テイクリスト・ビュー	121
トランスポート・ビュー	114	テイクのメタデータを編集	122
6 シリーズミキサーへの接続	115	レポート・ビュー	123
トランスポートコントロールの使用	117	サウンドレポートの作成	125
サークル と フェイルス のテイク指定	117	ビューについて	125
メータービューの使用	118	スマートフォンのトラックビュー	125

サードパーティ	リモートコン	トロール
Control in the Pa	lm of Your Hand	

Contr	of in the Palm of Your Hand	127
iOS 7	7イヤレスリモートコントロール	128
iOS ワ	7イヤレスリモートコントロール	129
iOS リ	リモート	130

Timecode & Sync..... 137 環境138

寸法と重量......138

131

132

133

Web ベースのワイヤレスリモートシステム Web ベースのリモートの接続図

Web ベースのワイヤレスリモートシステム

アナログ入力	
デジタル入力	
アナログ出力	
デジタル出力/レコーダー	

CL-12 リニアフェーダーコントローラー.....

フロントとバック パネル	139
トップとサイド パネル	141
Top: EQ と Output セクション	142
Left: チャンネルストリップ セクション	143
Right: ボタンと HP エンコーダ	145
変更される機能	147
機能比較表	147
CL-12 サブメニュー	148
1つ以上のインプットチャンネルを選択	149
PFL の使用	150
PFL に SEL 選択を追従させる設定	150
6 シリーズでの Trim レベル調整	150
Trim レベルの調整 (688 only)	151
Trim レベルの調整 (664 only)	151
Trim レベルの調整 (633 only)	151
インプットチャンネルのルーティング	152

	139
Output か Track のレベル調整	. 152
出力メーターの設定 (688 only)	. 153
Output コントロールの無効	. 153
L, R, X1, X2 トラックのアーミング	. 153
3 バンド EQ の使用 (688 only)	. 154
EQ のサブメニューヘアクセス	155
EQのバイパス	157
Q ファクターの設定	157
LF と HP 周波数のデフォルト値	158
LFとHFのフィルタータイプ	158
EQ ルーティングの設定	159
High-pass フィルターの使用	. 159
トラックのネーム	. 159
ユーザーボタンへの機能割り当て	. 160
CL-12の LED 輝度調整	. 161
仕様	. 161

筐体の概要

633 の筐体は軽量で耐久性のあるカーボン ファイバーです。

筐体のフロントパネルには、操作しやすい ように、コントロール、スイッチ、LED、 LCD 液晶ディスプレイがあります。

筐体の側面には、さまざまな機材と柔軟 に接続するための I/O コネクターがあり、 背面にはバッテリーマウントがあります。 このセクションのトピックス

- > 前面パネル
- > 左側面パネル
- > 右側面パネル > 背面パネル
- 「月山八小り」

フロントパネル



フロントパネルは、操作用のボタン、スイッチ、フェーダーコントロール、LCD 液晶ディスプレイがあ ります。



機能	詳細
Power スイッチと LED	633の電源の入切スイッチと電源ステータスです。
タイムコード LED	青色点滅して、内蔵タイムコードジェネレータ(とクィックブート)が 有効であることを示します。
MENU ボタン	メイン Menu にアクセスします。 ショートカットのコンビネーション にも使用されます。
ヘッドフォン・エンコーダ	ヘッドフォン出力レベルの調整に使用します。
HP クリッピング LED	ヘッドフォン出力信号が歪むと赤く点灯します。
RTN/FAV スイッチ	モニターソースのトグル切替スイッチです。
MIC/TONE スイッチ	スレートマイクとトーン信号をトグル切替スイッチです。
Slate/Tone LED	スレートマイクかトーン信号が有効な時に、点灯します。
SELECT エンコーダ	さまざまな目的で、ミキサーの設定に使用されます。
Meter ボタン	メータービューの種類を切り替えます。
トランスポートコントロール	再生と録音のコントロール用です。

フロントパネルには、フェーダー、PAN、トリムなどを含む6個のコントロールがあります。



機能	詳細
PFL スイッチ	デフォルトで、このスイッチはデュアル・ファンクションです。 左に 倒すと 1-3 の PFL と入力設定画面、右に倒すと 4-6 の PFL と入力設定 画面が有効になります。 もう一度スライドさせて機能を無効にできま す。 スイッチの機能は、メニュー Inputs > PFL Toggle Mode で変更 することができます。
	PFL はヘッドフォン・モニターに関係し、マスター出力信号には影響しません。モーメンタリ操作はスイッチを 1 秒以上ホールドします。PFL が有効時は入力シグナル LED が黄色で点滅します。
フェーダー(1-3)	入力 1-3 のフェーダーレベルを調整します。
ミニ・フェーダー(4-6)	入力 4-6 のフェーダーレベルを調整します。
トリム (1-3)	入力 1-3 のトリムレベルを調整します。(入力 4,5,6 のトリム調整は、 Input Settings 画面からそれぞれ調整できます。)
PAN (1-3)	L と R バスへのパンニングです。(入力 4,5,6 にパンが無く、ミキシン グバスの L と R へ Input Settings 画面で別々にルートできます。)
PFL ステータス LED (1-3)	入力信号インジケータと PFL ステータスを表示します。
PFL ステータス LED (4-6)	入力信号インジケータと PFL ステータスを表示します。
MIC	スレート・マイクロフォン

左側面パネル



機能	詳細
XLR 入力 (1-3)	電子バランスのアナログマイク/ライン入力。 Input-1 と 6 は、AES3
	か AES42(Mode1) 信号も入力可能です。
	Pin1=GND, Pin2=Hot、Pin3=Cold
TA3 入力 (4-6)	電子バランスのアナログラインレベル入力。
	(Pin1=GND, Pin2=Hot、Pin3=Cold)
X3/X4 出力	多用途のアナログ出力。アンバランス 2CH の 3.5mm TRS ジャック。
	レベルは、-30dBから 0dB (マイクレベルからヘッドフォンをドライブ
	できるレベル)まで調整できます。
	(Tip=左、ring=右、Sleeve=GND)
バッテリー挿入口	6個の単三型(AA, LR5)電池をバックアップ用に使用できます。 NiMH
	充電電池を推奨します。 挿入口(上)には電池のマイナス側が外を向
	くように、挿入口(下)にはプラスが外を向くように入れます。

右側面パネル



12

機能	詳細
USB B コネクター	ファクトリーユースと市販 USB キーボードをアダプター経由で接続し
	ます。 CL-12 オプションもここに接続します。
コンパクトフラッシュ スロット	録音用のコンパクトフラッシュカードを挿入するスロットです。 CF カ
	ードは Type I と II カードです。 ハイスピード UDMA カードの使用を
	推奨します。
RTN 入力	アンバランス 3.5mm ジャック。
	(Tip=左、ring=右、Sleeve=GND)
X1, X2, 出力	メニュー設定で、Line / -10 / Mic レベルに変更できます。
	(Pin1=GND, Pin2=Hot、Pin3=Cold)
	アンバランス接続時は pin3 をフロートさせます。
DC 電源入力	DC 電圧 10-18V 入力。
	(PIn1=ネガティブ、Pin4=ポジティブ)
SD カードスロット	録音用に SD/SDHC/SDXC カードを挿入するスロットです。ハイスピー
	ドの class10 カードの使用を推奨します。 挿入時はクリック感がある
	までしっかりとスロットに入れます。 抜くときはカードを押すと、リ
	リースラッチでカードが押し出されます。
タイムコード I/O	LEMO®コネクター5-pin の Timecode 入出力。
ヘッドフォン出力	6.3mm のヘッドフォン出力。 8~1000Ωインピーダンスのヘッドフォ
	ンを非常にハイレベルでドライブできます。
	(Tip=左、ring=右、Sleeve=GND)
メイン出力	トランスフォーマ・バランス出力のアナログ出力用 XLR-3M です。L と
	R 別々に、AES3 デジタル信号出力に変更できます。
	(Pin1=GND, Pin2=Hot、Pin3=Cold)
	アンバランス接続時は Pin3 を Pin1 にグランディング。

背面パネル

背面パネルにはワードクロック接続用のコネクターがあります。



機能	詳細
バッテリー・マウント	633 の背面のバッテリー・マウント(B1 と B2)は、Sony®L シリーズ互 換バッテリーを取付けることができ、さまざまな容量タイプに対応しま す。

液<mark>晶</mark>画面とユーザーインターフェース

LCD ディスプレイは 633 を操作するときの、主な 情報ソースとなります。すべての設定は LCD 画面 を通して行われます。 すべての信号レベルは、 LCD 画面のメーターに表示されます。

この章は、Menu表示などの情報がアクティブではないときに表示されるメイン画面にについて説明します。

メータービュー以外の画面情報については、 関連するアプリケーションの項目で説明します。 このセクションのトピックス

> メータービュー
 > メータービューの使い方
 > メータービューのカスタマイズ
 > メインメニューへアクセス
 > LCD と LED のカスタマイズ
 > LCD デイライトモード

メータービュー

633 は、LCD ディスプレイ上で一目でメーター情報を見ることができます。 メータービューは、イン プット、トラック、リターンメーターをさまざまな組み合わせで見ることができます。 デフォルト設 定では、3種類あるメータービューの最初の1つ目が表示されます。 このビューはメイン画面と呼び ます。



3つの前もって設定されたメータービューは:

- LR、X1、X2、1-6 このメータービューはLとRバストラック、X1、X2バス、全6インプットト ラックを示します。
- ・ LR、X1-X4、RTNs このメーターは L、R、X1、X2 バストラックに加えて、X3、X4 とリターン を示します。
- LR、1-3 このメーターは L と R と、インプット 1-3 を示します。

次のイメージは、前もって設定された3種のメータービューです。

				CF:: D:3h00:W/	av I	×					CF:: SD:3h00:W/	av 🖡	×					CF:: SD:3h00:W/	av 🗖
-30	-20	-10		8	20 L	im	-30	20	-10	é .	8	20 Li	m	-30	-2,0	-10	0	8	20 Lim
R				-			L							L					
XI							R							R					
1							1							X1					
2		_					_		-		-			X2 XB				-	
4							2							×4					
5							3							RT N					
23:5	52:06	:20	INT:48000		ILR S		23:5	2:12:1	1 INT:	48000 n:nn.n		ILR S	Г	23:5	2:20:	:01 n	30 ND	0 1.12:34PM (LR ST

Info: LR,X1-X4,RTN メーターでは、小さな RTN メーターの代わりに日付と時刻が表示され ます。また、System>Meter Views オプションで上の3つの例以外のメーターデザイ ンにカスタマイズすることもできます。

メータービューの使い方

633 の LCD 画面は、メイン画面(メータービュー)の他に、メニュー画面と入力設定画面があります。 どの画面タイプが表示されていたとしても、メイン画面に簡単に戻ることができます。

メイン画面に戻る方法:

➢ METER ボタンを押します。

LCD 画面は、メータービューに戻ります。

メータービュー(3種)を切替える方法:

➢ METER ボタンを押します。 ボタンを押すごとに次のメータービューが表示されます。

メータービューのカスタマイズ

633 はデフォルトのメータービューとして 3 種類用意されていますが、これら 3 つの表示はユーザーの 好みに応じて表示される情報をカスタマイズすることができます。

メータービューをカスタマイズする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを回して、 **SYSTEM > Meter Views** を選択します。
- 3. 変更したいメータービューを選択します。
- 4. メータービュー用のディスプレイオプションを選択します。

メインメニューヘアクセス

ほとんどの 633 設定は、メインメニューで設定することができます。

メインメニューにアクセスする方法:

➢ MENU ボタンを押す。

メニュー画面は、カテゴリー別になっており、各項目にはサブメニューオプションがあります。HP エンコーダを回して MAIN MENU の中を移動させて、設定したいカテゴリー(またはサブメニュー)で、エンコーダを押してください。

MAIN MENU 📑	
. POWER	
2. INPUTS	
. OUTPUTS	
. LIMITERS	
. RECORDER	
. TIMECODE	
. FILE STORAGE	
. SYSTEM	
0. CL-12	

サブメニューの選択肢に関しては、このマニュアルで関連する項目の中で詳細に説明します。 MAIN MENU のカテゴリーは、以下の表で簡単に説明します。

カテゴリー	詳細						
POWER	外部電源ソースに関する設定です。 また、外部 DC 電源、単三電池、Li-Ion						
	バッテリー(B1,B2 ラベル)の電圧も表示されます。						
INPUTS	チャンネルリンク、ファンタム電源、PFL モード、Input to ISO ルーティング、						
	Input ディレイに関する設定です。						
OUTPUTS	リンク、出カタイプ/レベル、出カソース、出カルーティング、出カディレイ						
	に関する設定です。						
LIMITERS	Input と Output のリミッターに関する設定です。						
RECORDER	録音メディア、wav サンプルレート/bit 深度、MP3 ビットレート、録音						
	ロールに関する設定です。						
TIMECODE	タイムコードに関する設定です。						
FILE STORAGE	ファイル・ストレージとメタデータに関する設定です。						
SYSTEM	さまざまなシステムに関する設定です。						
CL-12	CL-12 リニアフェーダーオプションに関する設定です。 このサブ・メニューは、						
	CL-12 がミキサーに接続されない限り無効(グレイアウト)です。						
QUICK SETUP	ミキサーの状態をユーザーセッティングとして SD や CF カードにセーブ/リ						
	コールすることができます。 また、 ミキサーを工場出荷時設定に戻すこともで						
	きます。						



LCD と LED のカスタマイズ

ポータブルミキサーである 633 はさまざまな環境下で使用されるため、ミキサーの調整が必要となるような明るさの環境で使用することもあります。 633 は LCD ディスプレイや LED の明るさの度合いを調整することができます。また、LCD デイライトモードにより液晶表示を反転することもできます。

LCD の明るさを変更する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > LCD Brightness** に入ります。
- 3. HP エンコーダを回して、 10 ~ 100% の値を変更したあと、エンコーダを押します。

デフォルトでは、LCD ブライトネスは 100% に設定されています。

LED の明るさを変更する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 SYSTEM > LED Brightness に入ります。
- 3. HP エンコーダを回して、 5~100%の値を変更したあと、エンコーダを押します。

デフォルトでは、LED ブライトネスは 60% に設定されています。

LCD デイライトモード

デフォルトの LCD 画面はダーク調に表示されます。 しかし、LCD デイライトモードを切り替えることで、画面の色調を反転させて明るく表示させることができます。

LCD Daylight mode を設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > LCD Dayligh Mode** に入します。
- 3. 次の操作を行います。
 - > On を選んで有効にします。
 - > **Off** を選んで無効にします。

LCD Daylight mode を反転させるショートカット:

SELECT + HP: SELECT ボタンと HP エンコーダを同時に押します。

ヘッドフォン・モニター

633 の左側面には2つのヘッドフォン出力が あります。 10 個までのカスタム・プリセット ができるヘッドフォンソース・オプションが あります。 また、オーディオ・モニターの ためにさまざまなカスタマイズ機能があります。

> Info: 633の左パネルにある3.5mm TRSジ ャックは、多用途な補助アナログ出 力で、ヘッドフォンを接続することもで きます。

このセクションのトピックス

- > ヘッドフォンの接続
- > HP ソースの選択
- > HP エンコーダ・モード
- > HP プリセットリストの設定
 > カスタム HP プリセットの設定
- > フェイバリット HP プリセットの選択
- > HP ソースのショートカット
- > HP ピーク LED

ヘッドフォンの接続

ヘッドフォンのプラグを 633 の左側面にある 6.3mm か 3.5mm の ヘッドフォンソケットに接続してください。

> Info: 633 のヘッドフォン用出力回路は非常に大きな音を出す能力を持ち ます。ヘッドフォンを装着するときや、ヘッドフォンソースを選択する ときは、予期せぬ大音量によるアクシデントを防止するため、ヘッドフ ォンゲインを下げてください。

ヘッドフォンゲインを調整する方法:

HP エンコーダを回す。メイン画面の右下、ヘッドフォンソースアイコンの隣に、ゲイン値が表示されます。

ヘッドフォンソースの選択

ヘッドフォンプリセットのデフォルトのリストは、あらかじめ設定されている6個のヘッドフォンソースと、10個のカスタマイズ可能なプリセットがあります。

HP ソース	詳細
LR ST	ステレオのマスターバス
LR Mono	両方の耳にモノラルミックスされたマスターバス
L Mono	マスターバスの左 Ch が両方の耳へ
R Mono	マスターバスの右 Ch が両方の耳へ
LR MS ST	ミッドサイド・ステレオ: MS ステレオにデコードされたマスターバスがヘッ
	ドフォンへ。 すでにインプットで MS リンクした場合は使用しません。
X1X2	ステレオの Aux バス



ヘッドフォンソースを選択する方法:

- 1. HP エンコーダを押し、有効なソースのリストを表示させます。
- エンコーダを回してヘッドフォンソースを変更する。選択肢: LR ST、LR Mono、L Mono、R Mono、 LR MS ST、X1X2、HP Preset(1) ~ HP Preset(10) リストの中でハイライト状態になったソースは、すぐさまソースとして反映されます。
- 3. エンコーダを押してリストを閉じるか、2 秒間待つとリストが閉じられます。 選択されたヘッド フォンソースがメイン画面の右下、ヘッドフォンソース・アイコンの隣に表示されます。

HP エンコーダー・モード

デフォルトで機能している HP エンコーダのモードを反転させることで、音量を調整するときは HP エンコーダを押さなければならないようにすることができます。反転しているモードで HP エンコーダを回すと、ヘッドフォンソースが切替わります。

ヘッドフォンエンコーダのモードを設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Headphoen Encorder Mode** に入ります。 Vol/Preset か Preset/Vol のどちらかを選択します。

HP プリセットのリスト設定

HP ソースのリストに表示される選択肢を減らして、プリセット表示をシンプルにすることができます。

HP プリセットリストの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、 SYSTEM > Headphoen Preset List に入ります。 プリセットのリストが表示され、青く表示されるソースはリストに表示され、黒く表示されるソー スはリストから除外されています。
- 3. HP エンコーダを操作して、表示させたいものを青に、リストから除外したいもの黒にする。

カスタム HP プリセットの設定

6 個のあらかじめ設定されたヘッドフォンソースだけでなく、カスタムヘッドフォンプリセットとして 10 個のオプションがあります。

ヘッドフォンプリセットをカスタマイズする方法:

- 1. HP エンコーダを押して、有効なソースのリストを表示させます。
- 2. 10 個あるうちの1つの HP Preset にカーソルを合わせます。
- 3. MIC/TONE スイッチを倒します。 ヘッドフォンプリセット編集画面が表示されます。



- 4. 次の操作を行う。
 - > HP エンコーダを回して、カーソルを水平に移動させる。
 - > Select エンコーダを回して、カーソルを垂直に移動させる。
- 5. HP か Select エンコーダを押して、カーソルで選択されているソースのステータスを変更します。 Off (黒色)、 ポストフェード(青色)、プリフェード(緑色)

Info: ISO ソースはプリフェードだけです。

- 6. (オプション)次の操作を行います。
 > MIC/TONE スイッチを左に倒すと MS デコード。
 > MIC/TONE スイッチを右に倒すと、モノラル。(すべての有効なソースがモノラルミックスされて両耳のヘッドフォンでモニターされる。)
 > RTN/FAV スイッチを左に倒すとプリセットの名前を編集します。
 > RTN/FAV スイッチを右に倒すとフェイバリット・ステータスを有効にします。
- 7. MENU か METERS ボタンを押すとプリセットが保存されて編集画面が閉じられます。

Info: フェイバリットに指定できるプリセットは1つだけです。フェイバリットを有効にすると、今まで有効だった他のソースがステータスから外されます。

フェイバリット HP プリセットの選択

プリセットのリストの中で1つだけをフェイバリットとして指定することができます。 フェイバリットに指定されたプリセットは、(通常の方法ではなく)フロントパネルからクイックにモニターすることができます。

HP プリセットのリストから1つをフェイバリットに指定する方法:

- 1. HP エンコーダを押して、プリセットのソースリストを表示させます。
- 2. HP エンコーダを回してフェイバリットに指定したいプリセットにカーソルを合わせます。 選択肢:LR、ST、LR Mono、L Mono、R Mono、LR MS ST、X1X2
- 3. RTN/FAV スイッチを右に倒すと、フェイバリットとして新しく指定されます。

HP ソースのショートカット

633 は、ヘッドフォン・モニター用のショートカットが全部で4つあります。 デフォルトで、これらのショートカット操作により、RTN A、RTN B、COM RTN、フェイバリット を選択することができます。

フェイバリット をモニターする方法:

▶ RTN/FAV スイッチを右に倒します。

RTN をモニターする方法:

▶ RTN/FAV スイッチを左に倒します。



HP ピーク LED

ヘッドフォンエンコーダの左に位置するピーク LED は、ヘッドフォン出力がクリッピングレベルに達すると赤く点灯します。 ヘッドフォン・モニターが歪んだ音に感じた時は、モニターソースが歪んでいると判断するまえに、ピーク LED の点灯状況を確認してください。



633 は、クァッド・パワー・コンフィグ レーションを備えており、外部 DC パワー 、あるいは 6 本の単三電池のような異なる 電源タイプを利用することができます。 633 の背面にある 2 個のバッテリーマウ ントには、Sony L シリーズバッテリーで 給電することができます。

633 には、有効な電源ソースを賢く選択す る機能、フロントパネルの電源警告表示、 電源ロスト時に 10 秒間動作可能で 録音ファイルを安全に閉じることができる パワーリザーブなどを備えた、先進的な PowerSafe™機能が導入されています。

このセクションのトピックス

- > 633 の電源供給
- > 外部電源の利用
- > バッテリー電源の利用
- > 電圧とスレッショルド
- > PowerSafe™
- > クイックブート
- > 強制電源オフ> 消費電力

633 の電源供給

633 は外部 DC 電源か内蔵単三電池で動作します。

633 の電源を入れる方法:

> POWER スイッチを ON にスライドします。



POWER LED が黄色に光ってから緑色に変わります。 起動時に Sound Devices のロゴが LCD 画面に短時間表示された後、メイン画面が表示されます。

メイン画面には、電池のカタチをしたアイコンで電源ソースのレベルが表示されます。アイコンには、 現在使用中の電源ソースが IN(internal)か EX(external)で示されます。





Low Voltage (オレンジ色) 交換してください。



外部電源の利用

633 は1つの電源ソースだけを利用します。単三電池と外部 DC 電源の両方があるときは、外部 DC 電源を優先して使用します。 電源ソース利用の優先順位は次のようになります。

DC power(EX) > L シリーズバッテリ(B1) > L シリーズバッテリ(B2) > 単三電池(INT)

これらの電源ソースが使用できなくなると、シャットダウン前に PowerSafe 回路による 10 秒間のパワ ーリザーブが働きます。

外部電源ソースを接続する方法:

 DC 電源ソース(633 本体に付属しません)のプラグを 633 の右側にある 10-18VDC 入力に接続 します。

Info: ロック式の4ピンプラグのヒロセコネクターは、Pin-4が(+)、Pin-1が(-)です。

バッテリー電源の使用

633 は、2 個までの L シリーズ(Li-Ion)バッテリー、(バックアップ用として)6 本の単三電池を使用することができます。 L シリーズ・バッテリーは 1000mAh から 7000mAh までさまざまな容量があります。数字が大きいほど駆動時間が長くなります。633 にアルカリ単三電池を利用できますが、アルカリ電池に比べてより長時間使用できる NiMH 充電電池(または1.5 Lithium 一次電池)をお勧めします。

Lシリーズバッテリーの装着方法:

- 1. 633 を安定した台の上に起きます。
- 2. 633 背面パネルの 2 つの電源ピンとバッテリー端子が並ぶように、バッテリー を置きます。
- 3. バッテリーを 633 の背面に押しつけながら、電源ピンに向かってバッテリーを スライドさせます。バッテリー保持クリップが、クリック音と共に跳ね上がる ことで、バッテリーがしっかりとマウントされたことがわかります。



単三電池の挿入方法:

- 1. バッテリーキャップを (反時計回りに) ゆるめます。
- 2. 単三 NiMH バッテリー6 本を、バッテリーチューブに入れます。挿入口(上)には電池のマイナス側が外を向くように、挿入口(下)にはプラスが外を向くように入れます。
- 3.
- Info: 消耗した単三電池を新しい電池に交換するときに、外部DC電源が接続されていれば、本体の動 作に影響しません。

電圧とスレッショルド

DC 電圧表示は、"External DC Reference" 設定に含まれるパラメータをもとに表示されます。 これ は、外部 DC 電源ソース用に電圧レンジと警告を発する電圧スレッショルド値です。 External DC Reference 設定を外部電源のタイプに適切に合わせることで、外部電源ソースを無駄なく使って動作時 間を延ばすことができます。

例えば、下の表でいう"High Voltage"の範囲にあるフル状態の電源ソースが使用中は、インジケーター は緑色で示されます。外部バッテリーが消耗するにつれて、インジケーターの色が緑色から黄色(警告)、 にオレンジ色(電圧低下)、赤色(危険)と変化していきます。電圧とインジケーター色の関係性は下 の表を参照ください。





もし使用中の電源ソースが取り外されたり、赤色(危険)な電圧までドロップしたりすると、別の電源 ソースに切り替えるか、電源ががなければシャットダウンします。 切り替わるタイミング(電圧)は、 Power settings で設定されるパラメータに依存します。

Info: 十分な電圧を持つバックアップ電源ソースが接続されていなければ、DC 電圧インジケーターが 赤色で点滅します。すべての電源ソースが枯渇すると、PowerSafe 機能が自動的に働き、ユニッ トを安全にシャットダウンします。

電源の設定

633 は外部電源ソースのタイプを設定することができ、外部電源ロストが起きた時にミキサーがシャットダウンするか、別の電源ソースに切り替えるかを設定することができます。

Power settings の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、メニュー画面の中の Power を選択します。

Power 画面が表示され、この画面から接続されている電源ソースの電圧レベルの数値をモニターすることができます。 取り外された電源ソースは黒背景となって電圧レベルは表示されません。 使用中(消費中)のバッテリーは太い白枠で示されます。

	F	PO	NE	R			
	B1 			B: 7.1	2 V	1	
	INT(AA) 8.6V			EXT 	DC		
1. Ext D	iC Ref				12	2V Ext Do	2
2. Ext D	C Loss		Sv	itch P	,owe	er Sourc	e

3. 下の表を参照して設定します。

機能	詳細	選択
Ext DC Ref	外部 DC ソースのタイプにより電源レベル表示	・12V Ext DC
	を調整します。 デフォルトは 12V Ext DC で	• NIMH
	す。	 Expanded NiMH
		・12V Lead Acid
	外部 DC ソースに合わせた適切なオプションを	・14V Li-ion
	選択してください。	• Full Range
Ext DC Loss	外部電源の電圧が設定されたスレッショルド	 Switch Power Source
	より下がった時に、633 がどのようにふるまう	• Shut down
	かを設定します。 デフォルトは Switch	
	Power Source です。	

Info: "Ext DC Loss" 設定が Switch Power Source に指定されていても、内部バッテリーの残量が十分 に無く、外部 DC 電源が失われたとき、、633 は自動的に PowerSafe 機能によりシャットダウンします。

PowerSafe[™]



すべての接続されている電源ソースが消耗したり、予期しない電源ロストが発生すると、PowerSafe 機能が働きます。 633 のディスプレイには警告が表示され、録音停止してファイル書込みを終了して からシャットダウンします。 シャットダウンまでの間、PowerSafe 用電池が 633 に給電します。 こ の機能により、予期せぬ電源トラブルからファイルを安全に保護します。



Info: PowerSafe バッテリーは、633 が通常の電源 On の状態でのみ、充電が行われます。

クイックブート

QuickBoot

QuickBoot 回路は 633 がシャットダウンしてから 2 時間有効です。 この有効期間に 633 を起動させると、2 秒以内に起動完了して録音開始可能となります。 633 の電源 On/Off のたびに、2 時間タイマーはリセットされます。 2 時間を超えるとクイックブートは非動作になり、通常のブート時間を要します。

クイックブートが可能な2時間以内は、内蔵 Timecode ジェネレータは歩進を続け、フロントパネルの TC LED が2秒間隔で点滅します。

強制電源オフ

クイックブートではなく、通常のリブートを(2 時間待たずに)手動で行いたい場合は、次の手順で PowerSafe と QuickBoot 機能を省くことができます。

電源強制オフの方法:

- 1. 電源スイッチを左にスライドさせてオフにします。
- 2. MENU ボタンを 5 秒間押します。

633 を手動で電源強制オフにすると、QuickBoot はリセットされ、TC LED は点滅しなくなります。

Info: 手動シャットダウンはタイムコードのバックアップバッテリーもオフになり、次回起動後にタイムコード 時刻やTCユーザービットの再設定が必要となります。

消費電力

多くの要因が、633 が消費するバッテリーパワー(消費電流)の割合に影響します。つぎのリストは消 費電流が大きい機能です。

- マイクロフォン電源 633の消費電流に大きく関係します。 48V ファンタムは、使用されるマイクロフォンの型番によって消費電流量が変わります。ファンタム電源を必要とする2つの同じマイクロフォンを使うと2倍の電流を消費します。ファンタム電源が供給されるマイクロフォンの 種類によって、消費電流の幅(差)は非常に大きなひらきがあります。
- ・ オーディオレコーダー 録音中、再生中のレコーダーは電源消費量が多くなります。
- ・ デジタル出力 必要がなければ Setup メニューでデジタル出力を無効にしてください。
- ・ 出力ドライブレベル 複数の機材に対して大きな音声出力を供給したり、接続先の機材がローイ ンピーダンスだったりすると、消費電流が増します。
- ・ ヘッドフォン出力 ヘッドフォン音量が大きいと消費電流が増します。
- ・ LED と LCD 輝度 LED と液晶ディスプレイの輝度を下げると、消費電流を下げられます。

スカ

633 は 3 つの XLR-3F コネクターのマイク/ ライン入力と、 3 つの TA-3 ラインレベル入力 があります。

入力は、バランス信号とアンバラ ンス信号のどちらかを接続することができます。 633 へのアンバランス接続とバランス接続に、 ゲインの変更はありません。

> Info: アンバランス接続時、XLR-3Mの pin-1 と pin-3を結線してください。

このセクションのトピックス

- > フィジカル入力コントロール
- > 入力を有効にする
- > 入力設定画面
- > 入力ソースの設定
- > ハイパスフィルタの設定
- > L, R, X1, X2 へのルーティング
- > トラックネーム・ショートカット
- > 位相の切替
- > トリムとフェーダーコントロール
- > PAN コントロール
- > 入力設定
- > リンキング
- > ファンタム電源
- > PFL トグルモード
- > 入力と ISO ルーティング
- > 入力ディレイ

フィジカル入力コントロール

フロントパネルには、PAN、フェーダー、トリムなどの入力に関するコントロールがあります。



トリム、PAN、ミニフェーダーのコントロールは、使用しない時は押し込んで誤操作防止にフロントパネルに沈めることができます。

機能	詳細
PFL	PFL スイッチ。入力信号をヘッドフォンでモニターし、入力設定画面を
	表示します。
フェーダー 1-3	入力 1-3 のフェーダーレベルを調整。
トリム 1-3	入力 1-3 のトリムレベルを調整。
ミニフェーダー 4-6	入力 4-6 のフェーダーレベルを調整。
Pan	LとRバスへのパンニング
PFL/入力信号 用 LED	・緑:入力に信号が存在します。
	・赤:信号が歪んでいます。
	・黄:入力のリミッターが機能しています。
	・黄の点滅:PFL が有効です。

入力を有効にする

633の前面パネルには、6つのトリム・コントロールノブがあります。

入力 1-3 を有効にする方法:

- 1. 入力チャンネルのトリム・コントロールノブが沈んでいたら、押して ポップアップさせます。
- 2. トリムを時計回転方向に回すと入力が有効になります。



Info: トリム・コントロールノブが反時計方向にまわしきってあると、入力回路が非動作になります。

入力 4-6 を有効にする方法:

- 1. 入力チャンネルのミニ・フェーダーが沈んでいたら、押してポップアップさせます。
- 2. ミニフェーダーを時計回転方向にクリックするまで回すと、インプット回路が有効になります。

Info: ミニ・フェーダーが反時計方向にまわしきってあると、入力回路が非動作になります。

入力設定画面

各入力はそれぞれに入力設定画面を持ちます。 この画面では、入力ソース、ハイパスフィルタ、トラックルーティングを設定するだけでなく、入力ゲイン値とメーターレベルの情報も示されます。

入力設定画面にアクセスする方法(PFL ソロを有効にする方法):

- 1. アクセスしたい入力チャンネルのトリムが On になっていることを確認します。
- 2. Input1-3の場合、PFLスイッチを左に倒す。 Input4-6の場合、PFLスイッチを右に倒す。
 - Info: 手順1の説明は工場出荷時設定の場合です。もし、PFL スイッチを左に倒しても入力設定画面が 表示されない場合、PFL トグルモードが 6-Channel ではありません。トグルモードが Only 3-Channel になっているときは、PFL スイッチを左ではなく右に倒してください。(PFL スイッチを左 に倒すと、メイン画面表示のまま PFL モニターが有効になります。)

入力設定画面が表示されているとき、ヘッドフォンソースは選択されている入力チャンネルのソロ PFL へ変更されます。 入力設定画面が閉じられると、ヘッドフォンソースは、前のソースへ戻ります。

Info: ヘッドフォンソースを切替えずに入力設定画面にアクセスするには、SELECT エンコーダを押しな がら PFL スイッチをスライドしてください。この操作は PFL トグルモードが 3-Channel になっている ときは反転します。



画面の下半分に表示されているアイテムは、表示アイテムの近くにあるフィジカル・コントローラで該 当する機能を変更することができます。: Select エンコーダ、Mic/Tone スイッチ、RTN/FAV すいっち、 ヘッドフォンエンコーダー。



Input 2 の入力設定画面は、位相反転のための INV オプションが(LR MIX の横に)追加されます。

INV LR MIX

Input 4-6 は、PAN コントロールが無いため、L と R トラックへのルーティングが分離しています。

LMIX RMIX

入力ソースの設定

各入力チャンネルが接続されるソースからの信号を正しく受け入れられるよう設定してください。

入力のソースを設定する方法:

- 1. PFL スイッチを左に倒して、入力設定画面にアクセスします。
- 入力ソースを選択するためのリストを表示するには、HP エンコーダを押します。
 以下のオプションがあります。
 - ・ OFF: トリムノブを回さずに入力を非動作(ミュート)にします。
 - ・ MIC:ダイナミックマイクロフォンかマイクレベル機材に使用します。
 - ・ MIC-PH:ファンタム電源を必要とするマイクロフォンに使用します。
 - ・ LINE: アナログラインレベルソースに使用します。
 - LINE-PH:ファンタム電源用のコンデンサーマイクロフォンに使用します。
 ゲインレンジはラインレベルで、48Vか12Vファンタム電源を供給します。
 に適します。
 - ・ AES42:デジタル AES42(Mode-1)マイクロフォンに使用します。
 - ・ AES3: デジタル AES3 ソースに使用します。
- 3. HP エンコーダを回して入力ソースを選択する。
 - すべてのソースタイプが各チャンネルで有効というわけではありません。



INPUT	Types
Channel 1	OFF, MIC, MIC-PH, LINE, LINE PH, AES 42, AES 3
Channel 2	OFF, MIC, MIC-PH, LINE, LINE PH
	① AES 42, AES 3 is conditionally available only if Channel 1 is already set to AES 42 or AES 3
Channel 3	OFF, MIC, MIC-PH, LINE, LINE PH
Channel 4	OFF, MIC, MIC-PH, LINE, LINE PH
Channel 5	OFF, MIC, MIC-PH, LINE, LINE PH
	① AES 42, AES 3 is conditionally available only if Channel 6 is already set to AES 42 or AES 3
Channel 6	OFF, MIC, MIC-PH, LINE, LINE PH, AES 42, AES 3

4. PFL スイッチをもう一度左に倒して、メイン画面に戻る。

ハイパスフィルタの設定

各入力チャンネルにはハイパスフィルタ(HPF)があり、これはオーディオ信号から過剰な低域成分を 減らすために用いられます。 ほとんどのオーディオ・アプリケーションによって、ハイパスフィルタ を使用することは利益になります。特に、スピーチなどに 100Hz 以下の情報使われることは稀です。

フィルターは工場出荷時設定でオフになっていますが、80Hz から 240Hz まで 10Hz 単位で調整する ことができます。

入力のハイパスフィルタを調整する方法:

- 1. 調整したい入力チャンネルの入力設定画面にアクセスします。
- 2. SELECT エンコーダを押します。 HPF ラベルがオレンジ色になり調整可能になります。
- 3. SELECT エンコーダを回して値を調整します。
- 4. SELECT エンコーダを押して(または 2 秒間放置すると)調整モードが終了します。 新しい値が 繁栄され、HPF ラベルは赤色に戻ります。
 - Info: サンプルレートが 192KHz に設定されていると、HPF 設定は、オフか 50Hz のどちらかの設定しか できません。

633 のハイ-パス回路は、80Hz から 240Hz までの範囲で調整可能な周波数(-3dB)コントロールを 持ちます。80Hz 以下のスロープ特性は 12dB/オクターブです。それより高い周波数のスロープは 6dB/ オクターブです。ウインドノイズやランブルノイズを減らすために 80Hz 付近で、追加のロールオフが 与えられているために、複合スロープ特性を持ちます。それより高い周波数域では、ゆるやかなスロー プ傾斜により指向性マイクの近接効果を打ち消す効果に有効です。

633 のハイ-パス回路は電気回路の前段に置かれている点で独特です。多くのミキサーのハイ-パス回路 は、低域成分を含む全帯域を増幅するマイクプリアンプの後に置かれています。それに対し 664 はマイ ク音声を増幅する前の段階で低域成分をカットするので、必要とする音声帯域に対して大きなヘッドル ームを確保することができます。

可能であれば、マイクロフォンの選定、ウインドスクリーンの使用、マイクロフォンの位置、マイクロフォン内蔵のフィルタなども利用して、サウンドソースを補正してください。マイクロフォンによっては内蔵ハイパスフィルタを持ちます。 633 のハイパスフィルタと同時に使うとフィルタ作用カーブをより強めることができます。

L, R, X1, X2 へのルーティング

入力設定画面からすばやく L、R、X1、X2 トラックへ入力をルーティングすることができます。 入力 設定画面の中で、画面下にある左側(X1/X2)と右側(L/R)のラベルがトラックルーティング状態を 示しています。 赤色ラベルは入力がルーティングされていることを意味し、黒色ラベルはルーティン グされていません。

Inputs 1-3 チャンネルをLとRトラックヘルーティングする方法:

- 1. 入力設定画面にアクセスします。
- 2. RTN/FAV スイッチを右に倒して、L と R トラック両方のルーティングを同時に反転します。

Input 4-6 チャンネルをLとRトラックヘルーティングする方法:

- 1. 入力設定画面にアクセスします。
- 2. RTN/FAV スイッチを右に倒しすと R トラックの、左に倒すと L トラックのルーティング状態が反転します。

X1 と X2 トラックヘルーティングする方法:

- 1. 入力設定画面にアクセスします。
- 2. MIC/TONE スイッチを右に倒すと X2 の、左に倒すと X1 のルーティング状態を反転します。

トラックネーム・ショートカット

トラックネームは各録音されたファイルのメタデータに保存されます。 つぎのリストは工場出荷時設定のトラックネームです。

Track L: MixL	Track 1: Ch1	Track 4: Ch4
Track R: MixR	Track 2: Ch2	Track 5: Ch5
Track X1: Aux1	Track 3: Ch3	Track 6: Ch6
Track X2: Aux2		

トラックネームを入力設定画面からすばやく編集することができます。

トラックネームを入力設定画面から編集する方法:

- 1. 編集したいチャンネルの入力設定画面にアクセスします。
- 2. 入力設定画面にアクセスしたのと同じスイッチ (かショートカット) を 2 秒間ホールドします。(た とえば、PFL スイッチを左に倒してアクセスした場合、PFL スイッチを左に 2 秒間ホールドします。) 画面に表示されたソフトウェア・キーボードでテキストをタイプしてください。
- 3. ネーム入力が終了したら、RTN/FAV スイッチを右に倒して(か USB キーボードの Enter キー)、 トラックネームを適用してください。

Info: トラックネームは、テイクリストからも編集することができます。 詳細については、Take List の概要を参照ください。



Info: Inputs 1-3をLとRトラックへ独立してルーティングしたい場合は、PAN コントロールで調整してください。

Info: ポストフェーダーだけでなく、プリフェーダーから X1、X2 トラックヘルーティングすることもできま す。 MIC/TONE スイッチを続けて操作して、"PRE"と表示させてください。

入力信号の位相反転

Input-2 は入力設定画面から位相を反転できます。 間違った配線のバランスケーブルを使ってしまったり、向かい合った2つのマイクロフォンによりミキシング音がキャンセルされてしまったり、MS マイクロフォンの左右チャンネルを逆にしたい場合に、位相スイッチが役立ちます。

2-ch の位相を反転するには:

- 1. Input-2の PFL スイッチを左にスライドさせて、入力設定画面を表示します。
- 2. RTN/FAV スイッチを左にスライドさせます。 画面に INV ラベルが赤色で表示されると位相反転を 意味します。

トリムとフェーダーの調整

入力チャンネルのゲイン調整は、トリムとフェーダーの2つです。この2段階によるレベルコントロールは、一般的なミキシングコンソールと同じトポロジーで、非常に柔軟性のある制御方法です。入力トリムは大幅なレベルコントロール、フェーダーは精細なゲインコントロールを行うのに適しています。

フェーダーはミキシング操作中の主となるコントロールで、入力信号がポストフェーダー経由でルーティングされるすべての系統に影響します。 フェーダーコントロールは精細なゲイン調整を行うのに適しています。 フェーダーを反時計方向に回し切るとオフ(ミュート)まで減衰します。 フェーダーを 0dB 近く(12 時位置)にするのがゲインストラクチャーとしてベストパフォーマンスになります。



トリムとフェーダーの調整方法:

- 1. 編集したいチャンネルの入力設定画面にアクセスします。
- 2. 次の操作を行います。
 - > Inputs 1-3:フェーダーを 0 dB 位置(ユニティ・ゲイン位置)にします。

> Inputs 4-6: ミニフェーダーを 0 dB 位置にします。(ミニフェーダーは頭を押すとポップアップするので、レベル調整が楽になります。)

3. 次のいずれかを操作します。

> Input 1-3 は、トリムを時計回転方向に適切なレベルになるまで回します。

> Input 4-6 は、それぞれのチャンネルの入力設定画面を表示させてから、SELECT エンコーダを回して、適切なレベルに調整します。ゲインレベルはディスプレイに数値で表示されます。

Input 1-3 アナログマイクレベルは +22dB から+72dB まで調整できます。アナログラインレベルは-30dB から+16dB まで、AES デジタルトリムレベルは-30dB から+16dB まで調整できます。

Info: SL-6 オプションを取付けると、レシーバースロットの入力ゲイン調整は、input 1-12 において、 -20~+38dB です。

PAN コントロール

PAN ポット経由で、入力チャンネルからステレオマスターバスヘルーティングされます。PAN ポット はセンターポジション(12 時位置)に戻り止めのクリックがあります。

入力チャンネルの PAN の調整方法(1-3ch):

▶ PAN ポットを回します。

パンニングの設定が終わったら、使わない時はノブ部分を押し込んでパネル表面内に隠すことができます。

Info: Input 4-6 は、それぞれの入力設定画面からステレオマスターバスの L と R に直接ルートされま す。(PAN ポットはありません。)

入力設定

メインメニューは入力に関するサブメニューがあります。 これらは 633 のコンフィグレーションをカ スタマイズするために使用します。

Input サブメニューにアクセスする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、INPUTS を選択します。

機能	詳細	選択
Channel Linking	入力 1-2 ペアに対してリンクを設定します。	• Unlinked • 1-2
		• 1-2MS
		MS は Mid-Side の略。
機能	詳細	選択
----------------------	---------------------------	-----------------
Ch 5-6 Linking	入力 5-6 ペアに対してリンクを設定します。	• Unlinked
		• 5-6
		• 5-6MS
Phantom Voltage	ファンタム電源の電圧を全体的に変更するこ	• 48V
	とができます。	• 12V
PFL Toggle Mode	PFL スイッチのふるまいを全体的に変更しま	• 6ch
	す。(CL-6 の装着で、このオプションは無効	• 3ch
	になります。)	
Input to ISO Routing	各入力を ISO トラックへ送るときの、pre-	• Prefade
	か Post-フェーダーの設定です。	• Postfade
Input Delays	各入力の信号を 30mS まで 0.1mS ステッ	• 0.0 – 30.0 mS
	プでディレイをかけられます。	

リンキング

隣り合った入力チャンネル(1-2、3-4、5-6)をリンク動作することができます。 リンクされた入力 は1つのフェーダーを共有します。 奇数チャンネル側の PAN コントロールは、L-R と X1-X2 トラック へ送られる音声のバランスを調整します。



チャンネルリンクの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 INPUTS を選択してから、変更したいサブメニュー Ch 1-2 Linking か Ch 5-6 Linking を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、ペアとして表示されているリンクを適用します。 オプション: <u>Unlinked</u>、Linked(pair)、Linked(pair)MS

例えば、1-2を選択すると入力1と2のペアをチャンネルリンクに設定します。 5-6 MSを選択する と、入力5と6のペアを Mid-Side ステレオに設定します。

MS リンク

入力が MS としてペアリングされると、奇数チャンネルはミッド信号、偶数チャンネルはサイド信号として使用されます。M/S 構成された両方のマイクロフォンからの信号を処理してステレオ信号となります。

Mid-Side(MS)マトリクスは、単一指向性マイクロフォンと双指向性マイク ロフォンの音声信号をステレオに変換処理する技術です。単一指向性マイ クロフォンは奇数入力へ接続されるミッド信号で、双指向性マイクロフォ ンは偶数入力へ接続されるサイド信号です。単一指向性マイクロフォンは 音源へ向けられ、双指向性マイクロフォンは横向き(カプセルの取付位置 は単一指向性マイクロフォンのカプセルになるべく近づけて)に設置しま す。次の図は M/S 構成のマイクロフォンの指向性関係を示します。



ファンタム電源

ファンタム電源は 12 か 48 のどちらかの電圧に設定することができます。 この電圧は抵抗を介して XLR-3F コネクターの pin2 と pin3 に、pin1 をグランドとして加えられます。 ファンタム電源は、pin2 と pin3 の間に電位差がありません。

633 のファンタム電圧は、工場出荷時設定で 48V に設定されていますが、12V に変更することができます。

ファンタム電圧を設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **INPUTS > Phantom Voltage** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して設定を変更します。
- オプション: <u>48V</u> か 12V

この設定は、すべての入力チャンネルのファンタム電源の電圧レベルに適用されます。

PFL トグルモードの設定

633 のフロントパネルには 3 つの PFL スイッチがあります。 一番左のスイッチは Input 1 と 4、次は Input 2 と 5、3 番目は input 2 と 6 用です。工場出荷時設定では 片手で Input 1-6 の入力設定画面に アクセスすることができます。 これは 6-Channel モードと呼ばれます。 6-Ch annel モードでは、 PFL スイッチを左右どちらかにスライドすることで、選択されたチャンネルの PFL を有効にして入力設 定画面を表示することができます。 例えば、Input-1 の PFL スイッチを左にスライドすると、Ch-1 の PFL ソロが有効になり、入力設定画面が表示されます。 同じスイッチを右にスライドすると、Input-4 用の操作になります。

Info: PFL 機能が有効になると、インプットの PFL ステータス/アクティビティ LED が黄色に点滅します。 そして、PFL 番号が画面入力設定画面の右下(ヘッドフォンアイコンの隣)に表示されます。

しかし、633の PFL スイッチは、input 1-3 だけを単独で操作に集中できるように設定を変えることもできます。 この設定は、3-Channel モードと呼ばれ、input 4-6 は、ボタンコンビネーションでアク セスできます。

3-Channel PFL トグルモードを有効にするには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、INPUTS > PFL Toggle Mode > 3ch を選択します。

3-Channel モードで Input 1-3 用にソロ PFL を有効にするには:

▶ PFL スイッチを左にスライド

3-Channel モードで Input 1-3 用に入力設定画面を表示するには:

▶ PFL スイッチを右にスライド

3-Channel モードで Input 4-6 用にソロ PFL を有効にするには:

➢ SELECT + PFL スイッチを右

3-Channel モードで Input 4-6 用に入力設定画面を表示するには:

SELECT + PFL スイッチを左

入力と ISO ルーティング

工場出荷時設定で、各入力のプリフェーダー音が同じ番号の ISO トラックヘルーティングされています。 (フェーダーは ISO トラック上の信号に影響しません。) しかし、ISO トラックへのルーティングはチャンネルごと別々に、ポストフェーダー音のルーティングに変更することができます。

Input ISO ルーティングの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **INPUTS > Input to ISO Routing** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、任意の input routing を選択し、編集状態にします。
- 4. HP エンコーダを操作して、Prefade か Postfade を選択します。

Info: Input 1-8 用の Input to ISO ルーティングは、Input to AES digital tracks のプリフェード・ポスト フェードのステータスにも影響します。

入力ディレイ

インプット・ディレイは、レコーダーや出力送られる前に適用されます。 各入力は最高 30msec まで ディレイをかけることができます。

インプット・ディレイの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **INPUTS > Input Delays** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、入力チャンネルを選択すると、ディレイ値の背景がオレンジ色に変わって、編集モードに入ったことがわかります。
- 4. HP エンコーダを操作して、新しいディレイ値を設定します。
 - Info: Input Delay は、0.1ms 単位で最大 30ms まで(SF48kHz と 96kHz)調整できます。SF192kHz で Input Delay は無効になります。

出力

633 には、柔軟に設定することができるマルチ プル出力を備えます。 LR ミックスを複数のカメラ に送り、カメラの RTN 信号を IFB か AES デジタル 信号経由で送ることもできます。

右側面パネルには、2つの XLR-M コネクターでトラ ンスフォーマーバランスのマスターLR バス出力を備 え、これらは AES デジタル信号出力(2ペア,4 出力) に切り替えることができます。 また、アクティブバ ランスの AUX 出力として TA-3 コネクター、アンバ ランスステレオ AUX 出力の 3.5mm コネクターを備 えます。 このセクションのトピックス

- > 出力コネクター
- > 出力ゲインの調整
- > 出力設定
- > 出力リンクの設定
- > 出力タイプとノミナルレベル
- > 出力ルーティング
- > AES 出力ルーティング
- > Aux (X1-X4) ルーティング

41

- > 再生時の出力ポート設定
- > 出力ディレイの調整
- > トーン信号の出力

出力コネクター

633 の Lch 用 XLR-M と Rch 用 XLR-M コネクターは、トランスフォーマーバランス出力です。これは、 ノイズ干渉からの分離を改善します。 このマスター出力は長いケーブル接続でも信号をドライブする 能力を持ちます。 Aux 出力の X1 と X2 出力は TA-3 コネクターによるアクティブバランス出力です。 X3/X4 出力(3.5mm TRS) とヘッドフォン出力(6.3mm TRS)はアンバランスのステレオ接続です。

Info: 後述の"仕様"で、さまざまな出力コネクターに関する電気特性の詳細を見ることができます。

出力ゲインの調整

出力ゲインは、Output メータービューから調整することができます。 出力メーターは青いインジケー ターです。



0

出力ゲインの調整方法:

1. Output メータービューが表示されるまで METER ボタンを何度か押します。

Info: Output メーターが表示されない場合、メインメニュー SYSTEM > Meter Views で3種類のメータ ーのうち1つに Output を設定する必要があります。

- 2. SELECT エンコーダを操作してゲイン調整したい出力を選択します。編集モードに入ると背景がオレンジ色に変わり、現在のゲイン値が画面右下に表示されます。
- 3. SELECT エンコーダを操作して、出力ゲインを調整します。
- 4. SELECT エンコーダを押す(または2秒間操作しないで待つ)と、ゲイン調整モードを終了します。

Info: 出力ゲイン調整は、633のトーンジェネレータからのトーン信号に影響しません。

出力設定

メインメニューには出力に関するサブメニューがあります。633 出力のコンフィグレーションはカスタ マイズすることができます。

出力のサブメニューにアクセスする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **OUTPUTS** を選択します。

SUB-MENU	DESCRIPTION	Options
Linking	Choose which output pairs are linked for the purpose of arming and level adjustment. By default, linking is set to LR, X1, X2. Commas represent no linkage, so LR, X1, X2 means L and R are linked, while X1 and X2 are not.	 LR, X1X2 LR, X1, X2 L, R, X1X2 L, R, X1, X2
XLR-L Out	Select the nominal level of analog outputs or switch the output to send AES digital signals.	 Mic Line -10 AES 1,2
XLR-R Out	Select the nominal level of analog outputs or switch the output to send AES digital signals.	 Mic Line -10 AES 3,4
TA3-X1 Out	Select the nominal level of analog out- put of the Aux 1 TA3 output. Line is the default.	 Mic Line -10
TA3-X2 Out	Select the nominal level of analog out- put of the Aux 2 TA3 output. Line is the default.	• Mic • Line • -10
AES Output Routing	Displays the AES output routing matrix where sources can be assigned to AES output channels.	

SUB-MENU	DESCRIPTION	Options
Playback to Outputs	Select destination for playback signal. By default, this is set to All Outputs.	 All Outputs Headphones Only
X1, X2 Routing	Displays the X1, X2 Routing screen where sources may be assigned to the X1 and x2 output channels.	
X3, X4 Routing	Displays the X3, X4 Routing screen where sources may be assigned to the X3 and x4 output channels.	
Output Delays	Set independently the delay of L-R, X1, X2, X3 and X4. Default for each is 0.0.	 0.0 - 10.0 frames (per output)

出力リンク

出力がリンクされると、ゲイン、ディレイ、トラックアームのステータス(L、R、X1、X2のみ)がワ ンアクションのみにで出力ペアの設定を変更することができます。

出カリンクの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **OUTPUTS > Output Linking** を選択します。
- HP エンコーダを操作して、任意の出力ペアを選択し、リンクステータスを調整します。 以下のオプションがあります。LR, X1X2(両方リンク)、LR,X1,X2(LR だけリンク)、L,R,X1X2 (Aux1,2 だけリンク)、L,R,X1,X2(リンクなし)

出力タイプとノミナルレベル

工場出荷時設定で、Lch XLR、Rch XLR バランス出力はアナログラインレベル(+4 dBu ノミナル) に設定されています。 しかし、各出力(L,R の XLR と X1,X2 の TA-3)は Mic、Line、-10(アナロ グ) に設定することができます。 また、Lch XLR、Rch XLR を AES デジタル出力に切り替えること ができます。

出カレベルとタイプの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、OUTPUTS サブメニューを選択します。 オプション: XLR-L Out, XLR-R Out, TA3-X1 Out, TA3-X2 Out
- 3. HP エンコーダを操作して、出力タイプを選択します。 オプション: 各出力によりさまざま。: Mic、Line、-10、AES

出カルーティング

マスター L と R トラックは、(コネクターが AES に設定されていない限り) 必ずそれぞれの出力ヘル ーティングされています。

AES 出力ルーティング

2 つのコネクター全部で、4 チャンネルのデジタル信号を出力することができます。各 XLR-3M 出力 は、AES3 デジタル信号を出力するように出力を設定することができます。 詳細については、"出力タ イプとノミナルレベル"の章を参照ください。

どのトラックをどの AES 出力へどんな組み合わせでも送ることができます。工場出荷時設定では、AES 出力は何もアサインされていません。

AES 出力ルーティング画面にアクセスする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **OUTPUTS > AES Output Routing** を選択します。

AES Output Routing 画面

AES 出力を設定するルーティング画面は、ルーティング用のソースと AES 出力で構成されるマトリク スになっています。



AES Output Routing 画面でソースを設定する方法:

1. 次の操作を行います。

44

> HP エンコーダを操作して、オレンジ色のカーソルを水平に移動させます。

> SELECT エンコーダを操作して、オレンジ色のカーソルを垂直に移動させます。

2. HP エンコーダか SELECT エンコーダを操作して、選択されたソースを Off(黒色)か On(青色) に変更します。

Info: ISO トラックは AES ヘプリフェードかポストフェードで送られます。 これは Input to ISO Routing setting で決まります。

Aux (X1- X4) ルーティング

Aux1 と Aux2 アナログ出力はペアの TA-3 でバランス信号が出力されます。 Aux3 と Aux4 アナロ グ出力は、3.5mm TRS ジャックでアンバランス信号が出力されます。

ISO トラックか L と R トラックの信号を X1, X2, X3, X4 へ個々に送ることができます。 ISO トラックは、プリフェーダーかポストフェーダーを選ぶことができます。 L と R トラックに送られる信号は ポストフェーダーだけです。

また、ヘッドフォン L/R 信号を X3, X4 に送ることができます。 これは、ヘッドフォン・モニターを 同じソースをブームオペレータなど収録チームの仲間に送ることができて便利です。X3, X4 に HP ソー スがアサインされていれば、ヘッドフォンソースの変更が X3, X4 にも反映されます。

Info: RTN 信号をX3, X4に送ることはできません。X3, X4にヘッドフォンソースがアサインされていて、 RTN 信号がヘッドフォンプリセットにアサインされていると、RTN 信号がヘッドフォンに出力されても X3, X4 には送られません。

出力ソースは別々に、X1, X2 ルーティング画面または X3, X4 ルーティング画面のどちらかで設定する ことができます。

Aux (X1-X4) のどれかにルーティングする方法:

- 1. MENU ボタンを押す。
- 2. 次のいずれかの操作をします。
 - > OUTPUTS > X1, X2 Routing を選択します。



> OUTPUTS > X3, X4 Rouring を選択します。



Aux Output Routing 画面

Aux (X1-X4) ルーティング画面は、選択された出力へ送ることのできるソースを表示するボックスで 構成されています。

X1, X2 出力ルーティング画面は、X3, X4 ルーティング画面と異なります。 例えば、X1, X2 ルーティング画面には Aux と HP ソースはありません。 また、追加されたオプションが X1, X2 ルーティング 画面にはあります。



Input Setting をロックすると、入力設定画面から X1 と X2 へのルーティング操作ができなくなるので、MIC/TONE フィジカルスイッチを誤操作して、ルーティング設定が不意に変更されてしまうことを防ぐことができます。



Aux Output Routing 画面 (X1-X4)で、出力ソースを設定する方法:

- 1. Aux Output Routing 画面にアクセスします。
- 2. 次のどちらかの操作を行います。
 - > HP エンコーダを回して、オレンジ色のカーソルを水平に移動させます。
 - > SELECT エンコーダを回して、オレンジ色のカーソルを垂直に移動させます。
- 3. どちらかのエンコーダを押して、マトリクスの状態を Off (黒色) か On (青色) に反転させます。 All ISO トラックを選択する

Info: On と Off 以外に、ISO ソースには、Pre-Fade(緑色)のオプションがあります。

X1,X2 Routing 画面で、ISO ソースを有効にすると、L か R ソースが強制的にオフになります。 X3,x4 Routing 画面で、HP ソースを有効にすると、LR, Aux, ISO ソースの全てが強制的にオフに なります。

再生時の出力ポート設定

工場出荷時設定で、L と R に録音されたファイルを再生すると、L と R 出力コネクターに再生音が出力 されます。 Playback to LR 機能は無効にすることができ、L と R 出力コネクターに再生音が出力され なくなります。

LとR出力への再生音の出力を設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **OUTPUTS > Playback to Outputs** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、Headphone Only か All Outputs を選択します。

出力ディレイ

各出力の信号は、最大10.0 フレームまでディレイをかけることができます。ビデオ機材と連携して仕事をする際に、映像データ処理が音声データより長く時間がかかるので、映像の遅延に合わせて音声に ディレイをかけることができます。

1. Output (L) Delay	0.1 frames	―― 調整中の
2. Output (R) Delay	0.0 frames	ディレイ値
3. Output (X1) Delay	0.0 frames	
4. Output (X2) Delay	0.0 Frames	
5. Output (X3) Delay	0.0 frames	
6. Output (X4) Delay	0.0 Frames	

出力ディレイの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **OUTPUTS > Output Delays** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、ディレイ調整モードに入ります。
- 選択された遅延値の背景色が青色になります。
 4. HP エンコーダを回して、0.1 frame 単位で遅延値を調整します。
 調整範囲は、0.0 から最大 10.0 frames です。
- 5. HP エンコーダを押して、遅延値を適用します。

トーン信号の出力

633 の内蔵トーンオシレータは、ユーザーが設定した周波数、レベルで、トーンまたはパルスを、ミキ サー出力へ送ることができます。 カメラなどの外部機器と、適切なゲインステージのセットアップを 行うのに便利です。 左インデント・パルスは、ステレオペアとして接続されている機器で、マスター Lch と奇数 Aux を認識するための機能です。

連続トーン信号を出力へ送る方法:

次のどちらか1つを行います。
 MIC/TONE スイッチを右に(短い時間)倒すと、操作時間だけトーンが出力されます。
 MIC/TONE スイッチを右に(1秒間)ホールドすると、トーン出力が保持されます。
 ホールドすると、トーンがのff になります。
 工場出荷時設定では、0dBの1000Hzトーンがすべての出力とトラックに送られます。

Lインデント トーン信号を送る方法:

SELCT + MIC/TONE : SELECT エンコーダを押しながら、MIC/TONE スイッチを右に倒します。

工場出荷時設定では、トーン信号出力が保持されながらも、一定間隔で 20dB 低いレベルになるパルス トーンが左チャンネル用と認識するために、Lch、X1、X3、X5 に出力されます。 もう一度 スイッチ コンビネーションの SELECT + TONE を操作すると L インデントトーンが Off になります。

これらの工場出荷時設定は、System 設定でカスタマイズすることができます。 変更できるパラメータ:出力へのルーティング、トラックへのルーティング、dB レベル、周波数、 MIC/TONE スイッチ操作の機能変更

MixAssis と Dugan Automixing

633 のパワフルなデジタルプロセッシング エンジンにより、業界でもっとも精錬された アルゴリズムを使用した6チャンネルオート ミキシングを利用することができます。

オートミキシングは複数マイクロフォンを使用 したスピーチ収音に適し、発言していないマイ クロフォン入力を自動で減衰し、発言者の数に 依存せずに一定のバックグラウンド・サウンド レベルに抑えることができます。

633 は、MixAssit™と Dan Dugan automixing の2種類のパワフルなオートミキサーがあります。 スピーチを明瞭にし、アンビエントノイズや反響 音を抑え、フィードバックしない範囲で適切な ゲインを持たせることを目的とした2種類のフレ ーバーから選ぶことができます。

このセクションのトピックス

- > Auto Mixer 画面
- > Auto Mixer の On と Off
- > Auto Mixer へ入力をアサイン
- > MixAssist の概要
- > MixAssist オフ・アッテネーション
- > MixAssist の LCD 表示
- > Dugan AUtomixing の概要
- > Dogan Automixing の LCD 表示

Auto Mixer 画面

688 は最高 12 インプットまでの自動ミキシングが可能ですが、Auto Mixer 画面の設定で、自動レベル調整する入力数を減らすことができます。

688 には、2 種類のオートミキサーがあります。: MixAssist と呼ばれる Sound Devices 社のオートミキサーと Dan Dugan 社の オートミキサー。

Auto Mixer 画面にアクセスするには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 AUTO MIXER を選択します。 (Auto Mixer 画面が表示されます。)



Auto Mixer の On と Off

デフォルトで、オートミキサーはオフです。 しかし、オートミキサーを有効にして 12 入力をオートミキサーにアサインすることができます。

オートミキサーを On にするには:

- 1. Auto Mixer 画面にアクセスします。
- 2. HP エンコーダを操作して、Mode セレクションをアクティブにします。
- 3. HPエンコーダをもういちど操作して、2種類のうち一方を選択します。: MixAssist, Dugan AutoMix
 - Info: メイン menu オプションの RECORDER > Sample Rate で 48.048kHz 以上に設定されると、オート ミキサーは自動的に無効となります。



両方のオートミキサーモードは、複数マイクロフォンのスピーチ収音用にデザインされており、音楽収音用には向いていません。 各モードの詳細については、MixAssistの概要 と Dugan Automixing の 概要 を参照ください。

全インプットのオートミキサーをオフにするには:

> Auto Mixer 画面から、Mode セレクションで Off に設定します。

オートミキサーヘインプットのアサイン

オートミキサー(MixAssist か Dugan) にアサインされたインプットは、オートミックスされるアクティブな入力として参照され、自動ミックスされます。 オートミキサーヘアサインされないインプット は、通常の 633 ミキサーの入力と変わりなく、自動ミックスには含まれません。

オートミキサーヘインプットをアサインするには:

- 1. Auto Mixer 画面にアクセスします。
- 2. Select エンコーダを回して、オレンジ色のカーソルを縦に下がって、Input Selection に移動します。
- 3. HP エンコーダを回して、オレンジ色のカーソルを水平方向に移動します。
- 4. 目的のソースにカーソルを合わせたら、どちらかのエンコーダを押して、選択されたインプットの アサイン状況(黒:非アサイン、青:アサイン)を切替えます。
 - Info: LかRバスにポストフェーダー経由でルーティングされていて、automixとして有効になっていない 入力は自動ミックスされませんが、以下の目的のために MixAssist によって分析されています。: 最後の Mic Lock-On、サウンドソースごとの 1 本のマイク、マイクアッテネーションのオープンな数.

MixAssistの概要



Sound Devices の MixAssist は、L と R バスに送られるポストフェーダー信号を自動ミックスします。 他の信号は MixAssist によって影響を受けません。

ミックス・アシストはオープンするチャンネル数に制限が無いので、複数本のマイクロフォンで異なる 話者が同時にトークをしても全員の声をミックスすることができます。MixAssist は、同じサウンドソ ースをピックアップしたリダンダントマイクを賢く減衰し、位相ズレによる違和感とコムフィルターの 悪影響を効果的に抑えることができます。

オートミックスされる入力チャンネルは、マイクが拾う音が大きいときはオープン(減衰無し)になり、 マイクが拾う音が小さくなるとクローズ(減衰)になります。入力チャンネルはわずか 1mS でオープ ンになるので音節が失われることはなく、500mS 以上かけてスムーズに"gage off"します。 このゲ ートアクションは非常にスムーズなので、複数のマイクロフォンの間を切り替わる時でも、違和感なく 切り替わります。ミックス・アシストは単なるゲート機能ではなく、4つの異なる動作原理で構成され ています。: ノイズ適用スレッショルド、音源ごとのマイク、マイクの数とアッテネーション、最後の マイクにロックオン。

ノイズ適用スレッショルド

インプットのポストフェーダーレベルが MixAssist スレッショルドを越えた時はオープンになります。 単なるリミッターやゲートとは違い、このスレッショルドはダイナミックに可変します。MixAssist は、 アサインされたすべてのインプットを連続的に解析し、平均ノイズフロアレベルを決定してそのレベル をスレッショルドとしています。これにより共通するバックグラウンドノイズ(ファン、雑踏、など) によってインプットがオープンになることを防ぎます。

音源ごとのマイク

しばしば、(発言者一人が声を出すような)1つの音源を別の複数のマイクロフォンが拾ってしまうこ とがあります。ミックス・アシストは複数の入力チャンネルに同じ音源があることを検知して、全入力 を比較して一番大きな音量の入力チャンネルだけをオープンにします。もしクローズされている入力で 異なる音源がいると感知されれば、そのチャンネルはすぐにオープンされます。

Info: 他のインプットが異なる音を感知した時に、その入力をオープンにすることを防ぐことはありません。

マイクの数とアッテネーション

オープンする入力の数が多くなるほど、各トラックへ送られるレベルはオープン入力の 3dB ずつ減衰 します。これはマイクロフォンのオープンしている数が増減しても、ミックスされている音量の一貫性 を保つことができます。

最後のマイクにロックオン

複数のマイクロフォンがあって最後の話者がトークを止めた場合に、最後の音声入力チャンネルはオー プンになったまま保持されます。もし全入力チャンネルがクローズしてしまうと違和感のある静けさに なるので、あえて自然な音(小さなバックグラウンド・ノイズ)を残すようにしています。

MixAssist オフ・アッテネーション

オートミックスプロセス中に、MixAssist が使用するオフ・アッテネーションの量を設定することができます。

MixAssist 用のオフ・アッテネーションの量を設定するには:

- 1. Auto Mixer 画面から、MixAssist がモードとして設定し、 Select エンコーダを操作してオレンジ色のカーソルを縦に 下がって、MixAssist off-Attenuation に合わせます。
- 2. HP エンコーダを押して、dB 値の背景をオレンジ色に変更します。
- HP エンコーダを回して、dB 値を変更します。
 設定範囲は、1dB ステップで 6dB~40dB です。





MixAssist 中の LCD 表示

アクティブな MixAssist 入力のメーターはその隣にサークルアイコンが表示されます。 入力がオープ ンの時、サークルは緑色になります。 入力がクローズされるにつれ、サークルは黒色にフェードして いきます。

0	オープンな MixAssist入力	
0	クローズな MixAssist入力	

メータービューには、これらのサークルアイコンが、アクティブな MixAssist 入力を上(か右側)に表示されます。(メーターデザインが、バーチカルかホライゾンタルで異なります。)

T22	CE:13h57:WAV SD:7h44:WAV
30 20 10 0	8 20 Lim M
R	
82	
2	
3	
	0
5	
6	
NT:4800	
20:42:06:27 nn:nn:nn	

入力設定画面では、サークルアイコンはメーターの右側に表示されます。

CH-1	: Ch	arlie	2		Ē
-30	-20	-10	ę	8	20 Lim M
		-1	.8dE	3	
		F	ADER		
HPF	Off				LINE
X1		(2			CLR ST

Dugan Automixing の概要

Dan Dugan Sound Design, Inc., の協力により、Sound Devices は 688 のオートミキサーの1つとして、パワフルな自動ミキシングオプションを提供します。 Dugan Speech system™ は、数十年にわたって業界標準となった Dugan 社の自社商標の自動ミキシング・アルゴリズムを使用しています。

Dugan のシステムは、非常にエレガントな原理を元に動作します。 各インプットチャンネルは、チャンネルのレベルとすべてのミックスされたレベルとの間の差異(dBで)と同じ量(dBで)がアッテネートされます。 全チャンネルのゲインは、各チャンネルに入力されたレベルを元に、すぐさま、かつ連続的に調整されます。この数学的な構成概念を持つアスペクトにより、システムを通してのトータルゲインが変わらず、常に 0dB で保持されます。このミキサーの概念の中心は、設定のための調整やスレッショルドなどが無く完全に自動であることです。

Dugan オートミキシングによって、複数マイクロフォンのスピーチは、クリアでオーディオレコーディング用に最適化されたスムーズにミックスされます。

Dugan Automixing の LCD 表示

それぞれのオートミックスされるアクティブなインプットとのメーターの隣に、サークル・アイコンが 表示されます。 パープル色で表示されるサークル内の量は、オートミックスのアッテネーションを示 します。 インプットの PAN ポットが左右どちらかに位置していると、サークル内に半月上のパープル 色でアッテネーション量が示されます。



メータービューでは、これらのアイコンがアクティブなオート ミックス・インプットの(垂直メーター)の上に、あるいは(水 平メーター)の右に、表示されます。

T22	0	CE:13h57:WAV
R		
X1 X2		
		•
20:44:29:16	INT:48000 00:00:00.0	



入力設定画面(右図)では、サークルアイコンが、 レベルメーターの右側に表示されています。 リミッター

リミッターは、設定されたスレッショルドを 越えた信号をクリップ(歪)しないように レベルを抑えます。減衰量は2つの数字で示さ れるレシオ値で決まります。

信号レベルがスレッショルドを越えて大きくなる 時に、リミッターが機能するまでの時間はアタック タイムで調整され、信号レベルがスレッショルド より下がった時に、リミッター機能を停止する までの時間はリリースタイムで調整されます。 このセクションのトピックス

- > 概要
- > リミッターを有効にする
- > スレッショルドの調整
- > リミッターのリンク

概要

Sound Devices 社では、常にリミッター機能を On にすることを推奨します。 リミッター無しでは、 高いレベルの信号が入力されるとオーバーロードして音が歪みます。 通常のミキサー操作で、正しく ゲインが設定されていれば、リミッターのスレッショルド値に届くことは稀です。 工場出荷時設定の スレッショルド値は 16dBu です。

633 のすべてのリミッターの圧縮レシオは 20:1 です。 スレッショルドを 20dB 越えた信号は、リミッター回路を通過後はスレッショルド値の+1dB になることを意味します。633 のリミッターのアタックタイムは 1ms で、リリースタイムは 500ms です。

各入カチャンネルのインプットリミッターが働くと、シグナルインジケータ LED が黄色に光ります。また、メイン画面のインプットメーターでは、右側に四角い黄色のマークでリミッターが動作中であることが示されます。常にリミッターが動作しているようだったら、チャンネルのトリムコントロールでゲインレベルを下げてください。

リミッターを有効にする

リミッターを有効にすると、Hard Knee か Soft Knee 設定のどちらかで全体的にリミッターが有効と なります。 リミッターの knee は、設定されたスレッショルドに対してリミッターが働く具合を決めま す。 Hard Knee では、信号がスレッショルドに達すると、スレッショルドを越えたピークだけにすぐ さまアッテネートをかけます。 Soft Knee では、スレッショルドの前(約 6dB で、ゆるやかに、テー プのような音)でわずかにアッテネーションが始まり、リミッターがかかっていることを意識させない 圧縮を作り出します。

リミッター機能の On/Off の方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、 LIMITERS > Limiter Enable を選択します。
 HP エンコーダを操作して3つのオプションから選択します。 オプション: Off、Hard Knee、Soft Knee

スレッショルドの調整

工場出荷時設定のリミッタースレッショルドは 16dBu ですが、4dBu から 18dBu まで 1dB ステップ で調整することができます。

スレッショルドの調整方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、LIMITERS を選択します。
- 3. 以下の表をもとに、スレッショルドのパラメータを設定します。

PARAMETER	DESCRIPTION	OPTIONS
Input 1-6 Post- Fade Threshold	Sets the level at which input limiters will begin attenuating on inputs 1-6.	 +4 dBu - +18 dBu (1 dBu increments)
L, R Threshold	Sets the limiter threshold for the Master Bus.	 +4 dBu - +18 dBu (1 dBu increments)
X1, X2 Threshold	Sets the limiter threshold for the Aux Bus.	 +4 dBu - +18 dBu (1 dBu increments)

リミッターのリンク

L、R と X1、X2 チャンネルペアのリミッターはリンク動作させることができます。 2 つのリミッター がリンクされていると、チャンネルペアのどちらかで信号がスレッショルドに達した時に両方のチャン ネルでリミッターが働きます。

Info: ステレオペアの入力チャンネルでも同様に、インプットリミッターがリンクされます。

リミッターをリンクする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. 次のどちらか1つ、または両方を行います

 - > HP エンコーダを操作して、 LIMITERS > L,R Linking を選択します。
 > HP エンコーダを操作して、 LIMITERS > X1、X2 Linking を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、リンクの On / Off を設定します。

録音

633 は、ポリフォニックかモノフォニック形式 で SD カード (Secure Digital) と CF カード (CompactFlash) に、10 トラックオーディオを 録音します。 これらのメモリーカードは入手 しやすく、信頼性があり、経済的なファイルスト レージで、録音終了後にプロダクションにすぐに 提供することができます。

録音サンプルレートは、SF192kHz(6 トラック まで)を含む、一般的に使用されるすべてのレート に対応しています。

メモリーカードは独立して装着でき、リアルタイムな バックアップ録音だけでなく、Poly、Mono、MP3 など異なる形式でメディアごとに録音することが できます。

このセクションのトピックス

- > 記録メディアの準備
- > トランスポートコントロール
- > 録音トラック
- > 録音設定
- > ファイルタイプとトラックアサイン
- > WAV
- > MP3
- > mp3 ビットレート
- > サンプルレート
- > ビット深度
- > プリ・ロール
- > スレートマイクロフォン
- > 再生
- > スマートフォンで認定メディアリスト

記録メディアの準備

録音を始める前に、録音メディアを633 に挿入してフォーマットしてください。メモリーカード用のスロットは右側面にあるメディア・ドアの中にあります。ドアは磁石でホールドされています。

メディアを挿入する方法:

- 1. メディア・ドアをしっかり持って開けます。
- 2. カード挿入口に、録音用メディアカードを挿入します。

SD カードを挿入する時、カードの底面(金属接点が見える面)が 633 の 背面を向いているか確認してください。CF カードを挿入する時、カードの 天面(CF メーカー名が印刷されている面)が 633 の前面を向いているか 確認してください。

Info: Sound Devices 社の品質保証エンジニアは、633 が信頼性のあるベス トパフォーマンスな録音ができるかどうか、さまざまなテストを行った推 奨メディアを、アプローブ品として情報公開しています。633 用にメデ ィアカードを選定する際は、Sound Devices 社のウェブサイトを訪れて、 Approved Media List を参照ください。 www.SoundDevices.com/ApprovedMedia.





録音は必ず 633 本体でフォーマットされたメモリーカードに行ってください。

Info: 再フォーマットすることでカード内のすべてのデータが消去されます。.

SD か CF カードをフォーマットする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、File Storage を選択します。
- 次のどちらかの操作を行います。

 コンパクトフラッシュカードをフォーマットするにはErase/Format CF を選択します。
 SD カードをフォーマットするにはErase/Format SD を選択します。
- 4. HP エンコーダを押して、フォーマット作業を開始します。
- 5. 警告メッセージをよく読んで、HP エンコーダを押して作業を続けます。
- 6. METERS ボタンを押して、メイン画面に戻ります。

トランスポートコントロール

5方向に操作できるトランスポートコントロールは、録音と再生を制御できます。

機能	方向	動作
録音		上に倒す。 新しいファイルの録音が開始されます。
ポーズ/停止		押し込む。 録音中に押されると録音停止します。 再生中に押される とポーズになり、そこからもう一度押されると停止しま す。 スタンバイ中に押されるとネクスト・テイクの名前 が表示されます。
再生		下に倒す。 最後に録音されたファイル、または現在ロードされている ファイルを再生します。
早戻し [前のテイクをロード]		左に倒す。 スタンバイ中に倒すと、前のテイクをロードします。 再 生中に倒すと、早戻しします。
早送り [次のテイクをロード]		右に倒す。 スタンバイ中に倒すと、次のテイクをロードします。 再 生中に倒すと、早送りします。



録音を開始する方法:

1. トランスポートコントロールを上に倒します。 録音が開始されます。

録音中、テイクネームの背景色(メイン画面のトップ)とタイムコードカウンター(メイン画面のボトム)は、赤色に変わります。 そして録音経過時間(absolute time) がカウントします。 また、メディアカードにアクセス中、メディアの書込み残量時間の文字が黄色に変わります。



2. 録音を終了するには、トランスポートコントロールを押します。

録音トラック

633 は 10 トラック録音します。各 6 入力は、それぞれの ISO トラックへ常にルーティングされています。L、R、X1、X2 のバスへはユーザーが任意にルーティングすることができます。

ISO トラックへは、pre-か post-フェーダーから送ることができ、 MAIN MENU > INPUTS > Input to ISO Routing でチャンネルごとに設定することができます。 X1 と X2 は、各チャンネルで異な る Pre / Post フェーダーの組み合わせに設定し、録音することができます。



Info: 録音の start/stop とトラックアーミングは Wingman アプリからも行うことができます。 詳細は、 Wingman Wireless Interface の章を参照ください。.

録音用にトラックをアーム/非アームする方法:

- 1. 設定したいトラックが表示されるまで METER ボタンを何度か押します。
- 2. SELECT エンコーダを回して、設定したいトラックにカーソルを合わせます。
- 3. METERS + SELECT エンコーダ: METERS ボタンと SELECT エンコーダを同時に押します。

トラック背景の色が反転してアーム状態を示します。 赤色=アーム、グレイ色=非アーム、黒 色=電源オフの入力。

録音設定

メインメニューは録音に関するサブメニューがあります。 ここで、633 の録音設定に関してカスタマ イズすることができます。

録音のサブメニューにアクセスする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、RECORDER を選択します。

SUB-MENU	DESCRIPTION	Options	
Record to CF	Sets the type of file and which tracks to record to the CF card. The default is Wav Poly.	 Off Wav Poly Wav Poly (ISOs Only) Wav Poly (LR Only) Wav Poly (X1X2 only) MP3 (LR) MP3 (X1X2) Wav Mono Wav Mono (ISOs only) 	
Record to SD	Sets the type of file and which tracks to record to the SD card. The default is Wav Poly.	 Off Wav Poly Wav Poly (ISOs Only) Wav Poly (LR Only) Wav Poly (X1X2 only) MP3 (LR) MP3 (X1X2) Wav Mono Wav Mono (ISOs only) 	
 			
MP3 Bit Rate	The bit rate of recorded MP3 files.	• 320kbs	
	The default is 320kbs.	192kbs128kbs	
Sample Rate	The internal sample rate and sample rate of recorded WAV files. The default is 48k.	 44.1k 47.952k 47.952kF 48k 48.048k 48.048kF 88.2k 96k 102k 	

SUB-MENU	DESCRIPTION	Options
Bit Depth	The bit depth of recorded WAV files.	• 24
	The default is 24.	• 16
Pre-roll Time	Adjust the amount of record time to be appended before each recording. Maximum value is 3 seconds when recording WAV Mono files to any media.	 0 - 6 seconds (1s increment)
	Higher sample rates also limit pre-roll. Rates of 88.2 and 96k should be 3 sec- onds, and 192 kHz is 1 second.	
	The default is 0 seconds.	

ファイルタイプとトラックアサイン

633 は CF カードと SD カードに同時に録音することができます。 工場出荷時設定で、すべてのアーム されたトラックは、両方のカードヘポリフォニック形式の WAV ファイルで録音されます。 ISO トラックだけを録音したり、L と R トラックだけを録音したり、または X1 と X2 トラックをどちらかのメディアだけに録音することができます。

WAV (Broadcast WAV)

633 は、AES-31 ブロードキャスト WAV ファイルを記録することができます。 633 によって作成され たオーディオファイルには、ファイルヘッダの中に BEXT(Broadcast Audio Extension)と iXMLデ ータチャンクが含まれます。

MP3

MPEG-1 Layer III は、メモ録音や音楽用に使用される非可逆性圧縮アルゴリズムです。633 は、 320kb/s、192kb/s、128kb/s のデータレートで MP3 オーディオファイルに記録することができます。

Info: MP3 は、RECORDER > Sample Rate が 44.1k か 48k でのみ録音できます。

ファイルタイプとトラックルーティングの方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、つぎのどちらかを選択します。

\cdot **RECORDER** > Record to CF

\cdot **RECORDER** > Record to SD

3. HP エンコーダを操作して、ファイルタイプと録音トラックをリストの中から選択します。 オプション: Off、Wav Poly、Wav Poly(ISO only)、Wav Poly(LR only)、 Wav Poly(X1X2 only)、MP3(LR)、MP3(X1X2)、Wav Mono、Wav mono(ISOs only)

Info: RECORDER > Sample Rate が 88.2kHz 以上に設定されていると、ISOトラック 7-12のアーミン グと録音は無効になります。

MP3 ビットレート

工場出荷時設定で、MP3 は 320kbs のビットレートで録音されますが、このビットレートを変更することができます。 高いビットレートの MP3 ファイルは、ファイルサイズが大きく、オーディオ情報を多く含みます。 低いビットレートの MP3 ファイルは、ファイルサイズが小さくなりますが、含まれるオーディオ情報が減って音質が低下します。

MP3 ビットレートの変更方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **RECORDER > MP3 Bit Rate** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、ビットレートを選択します。
- オプション:128、192、<u>320</u> kbs

サンプルレート

633 は工場出荷時設定で、48kHz のサンプルレートの WAV ファイルを記録します。

サンプルレートの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **RECORDER > Sample Rate** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、サンプルレートを選択します。 オプション:44.1k、47.952k、47.952kF、48k、48.048k、48.048kF、88.2k、96k、192k

サンプレートの値はファイルの中のメタデータに保存されます。F がついたサンプルレートは、F mode です。 F とは、"faux (偽) "、"Fostex (フォステクス)" などを意味します。

88.2kHz 以上のサンプルレートを使用する場合は、いくつか制限があります。

	88.2 – 96 kHz	192 kHz
最大録音トラック数	8	6
WAV モノラル録音	警告メッセージが表示されます: Wa	v Mono レコーディング用のサンプル
	レートのリミットを超えています。	サンプルレートを落とすか Wav Poly
	に設定してください。	
最大プリ・ロール	3 秒	1 秒
HPF(ハイパスフィルタ)	Off,80-240Hz (48kHz と同じ)	Off か 50Hz
X3-X4 出力	使用可能	使用可能
AES 出力	使用可能	無効
リミッター	使用可能	無効
インプット・ディレイ	使用可能	無効
アウトプット・ディレイ	使用可能	無効

F mode サンプルモード

48.048kF モードは、Avid®、Final Cut Pro®などのポストプロダクション環境で、48.048kHz のサンプルレートで録音されたオーディオファイルが認識されない場合に使用されます。このモードでは、 実際のサンプルレートは 48.048kHz で録音されますが、48kHz でファイルにスタンプされます。再生時にはリアルタイムより 0.1%ゆっくり再生されます。

48.048F モードの1つの用途は、Avid や Final Cut Proのようなノン-リニア編集システムで MOS テレシネされたフィルム (24 fps-to-NTSC) に整合させる為に、オーディオの0.1%の速度減少させる (プルダウン) 作用があります。ファイルが 48 kHz のファイルとしてスタンプされるので、編集システム はそれを、48.048 kHz ではなく 48 kHz で再生することになります。この"オーディオプルダウン"は、 プルダウンをつくるために他のソフトウェアを通す中間ステップの必要なしに、転送された映像に整合 することになります。

48.048kF サンプルレートを使う時、メインメニューの TIMECODE > Frame Rate で 30ND か 24 に設定してください。 30ND に設定された時、ファイルには 29.97 でスタンプされます。24 に設定された時、ファイルには 23.97ND でスタンプされます。

47.952 と 47.952Kf の両方の設定では、録音サンプルレートには 48kHz より 0.1%低い 47.952kHz が使用されます。 しかしながら、47.952kF モードは、48kHz で録音されたものと認識されます。

47.952kF サンプルレートを使う時、メインメニューの TIMECODE > Frame Rate で 23.97ND か 29.97ND に設定してください。 23.97ND に設定された時、ファイルには 24 でスタンプされます。 29.97ND に設定された時、ファイルには 30ND でスタンプされます。

Info: MP3 録音に、F mode は対応していません。

ビット深度

633 は工場出荷時設定で、24bit WAV ファイルを記録します。 ビット深度は与えられた標本データに 使用されるデジタルなワードレングスをいいます。ビット深度は、デジタル信号による最大のダイナミ ックレンジに影響します。大きなビット深度はより大きなダイナミックレンジとなります。

ビット深度の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **RECORDER > Bit Depth** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、24 か 16 を選択します。

Info: Bit depth の値は、ファイルメタデータに保存されます。

プリ・ロール

633 は工場出荷時設定で、プリ・ロールタイムは 0 秒(オフ)です。 これを有効に(秒数を設定)すると、REC ボタンが押された時点から遡って録音を開始します。(メモリーに蓄えられたオーディオデータを WAV ファイルに利用します。)

プリ・ロールタイムの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **RECORDER > Pre-roll Time** を選択します。
- 3. HPエンコーダを操作して、値を選択します。
- オプション: <u>Os</u> ~ 6s
 - Info: Timecode モードに関係なく、pre-roll タイムを設定することができます。 Pre-roll は、 Timecode モードが Record Run に設定さrせると無視されます。 また、ミキサーの timecode モ ードが External Timecode Auto Record、または External Timecode Continuous Auto Record に設定されると、外部のマスタータイムコードソースからタイムコードの歩進する前に、 pre-roll が Hold Off 期間だけに適用されます。 これは連続した録音ファイル間で、タイムコー ドの数値がオーバーラップすることを防ぐためです。 詳細は、Setting the Timecode Mode と Setting Timecode Hold Off を参照ください。
 - Info: サンプルレートが 88.2kHz か 96kHz の時、設定できるプリ・ロールタイムは 3 秒です。
 - Info: サンプルレートが 192kHz の時、設定できるプリ・ロールタイムは1秒です。

スレートマイク

633の内蔵スレートマイクとスレートマイク用外部入力は、ミキシングエンジニアが状況を伝えるため に使用されます。 この音質は、クリティカルなレコーディング用には向いていません。 スレートマイ クは録音データのシーン説明や、録音チームとのコミュニケーションに適しています。

スレートマイクロフォンの使用方法:

- 1. MIC/TONE スイッチを左に倒すとスレートマイクが有効になります。 有効になると、Slate/Tone LED が緑色に点灯します。
- 2. MIC/TONE スイッチをもう一度左に倒すと、スレートマイク機能が無効になります。

Info: 工場出荷時設定で、スレートマイクは全トラックと全出力にルーティングされています。スレートマ イクのゲインは、MIC に倒しながら HP エンコーダを回して、調整することができます。

再生

633 が録音している状況以外では、いつでも再生を開始することができます。再生が Take List か File List から開始されない限り、アクティブ・テイクが再生されます。 アクティブ・テイクとは、録音されたテイクか最後に再生されたテイクのどちらかです。 アクティブ・テイクはメイン画面の上部に表示されます。



アクティブ・テイクを再生する方法:

- File List か Take List 以外の画面で、トランスポートコントロールを下に倒します。
- File List か Take List から特定のファイルを再生するには、その画面にアクセスして再生したいファイルがハイライト状態になっているときに、トランスポートコントロールを下に倒します。

別のメディアを再生する方法:

HP + Play: HP エンコーダを押しながら、トランスポートコントロールを下に倒します。それから、トランスポートコントロールを下に倒します。

認証メディアのリストを QR コードで確認

633 は、(認証メディアなど)製品に関するドキュメントをスマートフォンで参照するための QR コードを 633 の画面に表示することができます。

Info: QR コードによるアクセスするには、御使用になるスマートフォンにコードを読み込むためのアプリケーションをインストールする必要があります。

認証メディアのリストを QR コードで確認するには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **RECORDER > Approved Media List** を選択します。
- 3. スマートフォンで QR コードをスキャンし、Sound Devices のウェブページの Approved Media List を参照してください。

Slate Mic と Returns

633 には1つのステレオリターンが備わって おり、カメラのオーディオを633 のインター フェースで直接聴いて、カメラに送ったミキ サーの音質を確かめることができます。

633 は、内蔵スレートマイクロフォンを、 出力や録音トラックへ、「ALL CALL(スレー ト)」用に利用することができます。 このセクションのトピックス

- > スレートマイクを無効にする
- > スレートマイクのゲイン
- > スレートのルーティング
- > 注記としてのスレート使用
- > RTN モニタリング

スレートマイクを無効にする

スレートマイクロフォンで録音開始の時にテイクに音声コメントを入れたり、他の制作メンバーとコミ ュニケーションしたりすることができます。 633 には、内蔵スレートマイクがミキサーのフロントパ ネルの左端にあります。

内蔵マイクの音質はクリティカルな録音状況には適していません。内蔵マイクは、テイクの音声コメントやスタッフとの意思疎通を目的に使用することをお勧めします。

スレートマイクは工場出荷時設定で有効になっていますが、設定で無効にすることができます。

スレートマイクを無効にするには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Slate Mic** に進みます。
- 3. HP エンコーダを操作して、Off を選択します。 Off にすると、MIC/TONE スイッチの左スライド が非動作になります。

67

Info: スレートマイクをもう一度有効に戻すには、同じ手順を繰り返します。

スレートマイクのゲイン

工場出荷時設定のスレートマイクのゲインは 36dB です。 ゲインが大きすぎる場合は、調整することができます。

スレートマイクゲインを調整する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 SYSTEM > Slate Mic Gain を選択します。
- 3. HP エンコーダを回して、スレートマイクゲインを調整します。(0dB ~ 36dB)
 - Info: スレートマイクゲインをすばやく調整するには、MIC/TONE スイッチを左に倒しながら、HP エンコ ーダを回します。

スレートのルーティング

工場出荷時設定で、スレートマイクはすべての出力とトラックへ送られます。 このルーティングはユーザーが変更することができます。

スレートマイクのルーティング方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Slate & Tone Routing** を選択すると、Slate and Tone Routing 画面が表示されます。



- 次のどちらかの操作を行います。
 > HP エンコーダを回して、オレンジ色のカーソルを水平に移動します。
 > SELECT エンコーダを回して、カーソルを垂直に移動します。
- 4. どちらかのエンコーダを押して、選択されたソースを Off (黒色) か On (青色) にします。

注記としてのスレート使用

スレート機能のモーメンタリ操作をする方法:

- 1. MIC/TONE スイッチを左に倒し続けます。 スレートマイクが有効になり、Slate/Tone LED が緑 色に点灯し、スレート時に HP モニターソースが SLATE に変わります。
- 2. MIC/TONE スイッチから指を離します。 スレートマイクが無効になり、Slate/Tone LED が消灯し、HP モニターは前のソースへ復帰します。

スレート機能をロックさせる方法:

- 1. MIC/TONE スイッチを左に倒し、すぐに指を離します。スレートマイクが有効になり、Slate/Tone LED が緑色に点灯し、HP モニターソースが SLATE に変わります。
- 2. MIC/TONE スイッチをもう一度左に倒します。 スレートマイクが無効になり、Slate/Tone LED が消灯し、HP モニターソースが前のソースへ復帰します。

RTN モニター

ミキサーの右側パネルにある RTN INPUT に入力されたリターンオーディオは、RTN/FAV スイッチを 操作してヘッドフォンですばやくモニターすることができます。

リターンオーディオをモニター中、RTN のレベルをメーター画面で2 種類の表示方式で確認することができます。1つは、メータービューを切替えて RTN メーターを表示させる方法で、下図の一番右側に相当します。もう1つは、画面右下の角に表示される小さな RTN メーターです。メータービューでRTN メーターが表示される時、右下角には小さな RTN メーターのかわりに日付と時間が表示されます。

				CF:; SD:3h00	 J:WAV	EX					CF: 5D:3h(-; 00:WAV	ĒX					CF:; SD:3h00:w/	w 🗖
-30	-20	-10		8	2,0	Lim	-30	-20	-10	Ó.	8	20	Lim	-30	-20	-10			20 Lim
R														L					
X1							D							D					
X2																			
											_			X1					
							1												
2											_			X2					
3														XB					
							2							× 6					
														2.9					1
5														RT					
6							5							N					
			INT-4800	10	N LB	ST				INT-48000		O LB	ST				30 ND	0	I D ST
23	:52:0)6:20	00-00-00				23	:52:12	:11	0.00-00-00	DTN			23	:52:20):01	00.00.001	1 12:34 DM	0/24/13

RTN レベルを調整する方法:

- 1. METER ボタンを押して、メータービューを切替えて RTN メーターを表示させます。
- 2. SELECT エンコーダを操作して、RTN メーターを選択し、エンコーダを押すと RTN メーターのラ ベルがオレンジ色に変わって、レベル調整モードに入ります。



- 3. SELECT エンコーダを回して RTN レベルを調整します。レベルは 1dB ステップで 0dB から-30dB まで調整できます。調整中、レベルの値が画面右下に表示されます。
- 4. SELECT エンコーダをもう一度押すと、レベル調整モードが終了します。 あるいは、レベル調整モードで 2 秒以上調整しない時間があると自動的にレベル調整モードが終了します。

タイムコードとシンク

633 は、プロダクションで利用されるすべての タイムコードレートとモードをサポートする、 Ambient™ 社のタイムコードジェネレータ・ リーダーを内蔵しています。 633 はシャット ダウン後 2 時間まで正確なタイムコードを、 内蔵のリチウムイオン・タイムコードバッテリー で保持します。 このタイムコード用バッテリー は、633 の電源が入っているときに充電されます。

> Info: 電源オフ状態で2時間後、633は、シ ステム時刻を保持するクロック(じゃっ かん正確性に欠ける)に戻ります。

このセクションのトピックス

> タイムコード
 > タイムコードモードの設定
 > フレームレートの設定
 > タイムコード・ホールドオフ
 > ジャミング
 > ジェネレータ
 > ユーザービット
 > ディスプレイモード

Timecode

ファイルベースのレコーダーは、AES31 ブロードキャスト WAV ファイルの中の BEXT と iXML チャ ンクデータに、タイムコードとフレームレート情報を書き込みます。 これらの情報を基に、再生時に ミキサーは SMPTE タイムコードを生成します。 ミキサーによって作成されたすべてのファイルは、フ ァイルの時間が常に整数の秒となるように、0 frame レートで始まって終わります(ドロップフレーム では 02 frame の場合あり)。 633 は、必要に応じてこれを達成するためにプリロールとポストロール が動的に利用し、ポストプロダクションのシンクロナイゼーションを簡便化します。 タイムコード地 とフレームレートは、メイン画面に表示されます。



Info: 図のように、フレームレートではなくサンプルレートが表示されている場合、METERS ボタンを押しな がら RTN/FAV スイッチを左に倒すと、フレームレート表示に切り替えることができます。

Timecode モードの設定

タイムコードモードとは、外部 TC 信号を読むのか、インターナルタイムコード・ジェネレーターを使 って、いつタイムコードが走って止まるのか、などを設定するものです。

Timecode モードを設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、**TIMECODE > Timecode Mode** を選択します。 3. モードを選択します。(オプションは表を参照ください。)

選択	モード	詳細
Off	(なし)	タイムコードモードはオフです。
Rec Run	ジェネレータ	録音中にタイムコードが歩進し、非録音時は停止します。このモードで電源が入った時には、前の TC 値で停止状態になります。他のモードから Rec Run にすると、内部ジェネレータは最後の数値で停止します。
Free Run	ジェネレータ	タイムコードは連続的に歩進します。電源を切っても 2 時間 は歩進を続けます。
Free Run Auto Mute	ジェネレータ	タイムコードは連続的に歩進します。しかし、スタンバイ中は TC 出力信号がミュートされます。外部機器の rec トリガーにフリーラン信号を使うときに設定します。
FreeRun Jam Once	ジェネレータ	外部 TC 信号が正しく検知されると外部 TC に同期し、TC ケーブルを抜いてもインターナル TC が自走します。電源を 切っても2時間は歩進を続けます。
24h Run	ジェネレータ	ミキサーのシステム時計を元にタイムコードが連続的に歩進 します。
24h Run Auto Mute	ジェネレータ	ミキサーのシステム時計を元にタイムコードが連続的に歩進 します。しかし、スタンバイ中は TC 出力信号がミュートさ れます。
Ext-TC	リーダー	入力される外部タイムコード信号を利用します。
Ext-TC Auto-Rec	リーダー	入力される外部タイムコード信号を利用します。また、外部 タイムコードのスタートとストップをトリガーにして633の 録音が制御されます。
Ext TC/Cont	リーダー/ ジェネレータ	ワイヤレスタイムコード信号を外部入力する時に便利な機能 です。外部タイムコードが途切れても TC の連続性を保つよ うに内部ジェネレータが歩進を続けます。
Ext TC Auto-Rec/Cont	リーダー/ ジェネレータ	ワイヤレスタイムコード信号を外部入力する時に便利な機能 です。外部タイムコードが途切れても TC の連続性を保つよ うに内部ジェネレータが歩進を続けます。外部タイムコード のスタートとストップをトリガーにして633の録音が制御さ れます。 TC 信号がドロップしても 633 は録音を続け、TC カウント停止の信号をレシーブした時に録音を停止します。
フレームレートの設定

工場出荷時設定で、633のタイムコードジェネレータのフレームレートは 30nd です。

Info: フレームレート値は、メタデータのフレームレートフィールドに保存されます。

Ext Timecode モードを使う時は、ミキサーのフレームレート設定を、外部タイムコードのフレームレートと同じに設定してください。

TC ジェネレータのフレームレート設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、 TIMECODE > Frame Rate を選択します。 オプション: 23.98, 24, 25, 29.97nd, 29.97df, 30nd, 30df です。

Timdecode Hold Offの設定

一部の Rec-Run タイムコードを出力する機材は、稀に正しくないタイムコード信号を出力したり、突発性のバーストノイズを出力することがあります。 これらの機材から出力されるタイムコードをトリガーにして 633 の録音をスタートさせると、間違った録音スタートタイミングやタイムコードスタンプの原因になります。 問題を回避するために 633 は Timecode Hold Off 機能 が用意されています。

この機能は、タイムコードモードが、Ext-TC Auto-Rec と Ext-TC Auto-Rec/Cont の時だけに適用されます。

これら外部タイムコード自動録音モードを使う時、指定された「ホールド」時間だけ、633 は録音開始 のタイミングを遅延させます。 Hold Offの値よりも小さく続くタイムコードの歩進は、633 の録音開 始トリガーにならずに無視されます。

Timecode Hold Off の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、**TIMECODE > Hold Off** を選択します。
- 3. 0.1 秒間隔でホールドタイムを設定します。(設定範囲は 0.0 秒~8.0 秒)
 - Info: もし Pre-Roll が設定されていれば適用されます。プリロールはタイムコード信号を検知してから オーディオをキャプチャするだけです。もしプリロールが設定されていなければ、Hold Off タイム が経過してからファイルに記録されます。Hold Off タイムの値より大きな値に Pre-Roll タイムを 設定することをお勧めします。タイムコード信号が検知された瞬間からオーディオがキャプチャさ れることを確実にする一方で、タイムコードが歩進していないのにバーストノイズによって予期せぬ 録音が開始される問題も回避できます。

Timecode のジャミング

Jam Received TC 画面は、ミキサーの内部 SMPTE タイムコードジェネレータとミキサーに入力されて いる外部タイムコードに関する詳細な情報を表示します。 また、タイムコードをジャム(同期)させ るためのボタンも備わります。

もしミキサーの時間と日付が、プロダクション作業中にリセットされてしまったり、タイムコードモードが 24h RUN から他のモードに変更されてから 24h RUN 設定に戻されたりすると、タイムコード値は変更されるでしょう。確実な同期をするために、すべてのタイムコード機材をジャムさせなければなりません。

Timecode Jam メニューにアクセスする方法:

- > 次のどちらかの操作を行います。
 - > METERS + MIC を操作します。
 - > MENU を押し、HP エンコーダを使って **TIMECODE > Jam Menu** を選択します。

Jam Rece	eived TC	<mark>B2</mark>
Received TC:	00:00:27:28 30 ND	
Generator TC:	00:33:00:24 30 ND	
Difference:	- 00:32:32:26	
Received UBits:	00:00:00:00	
Generator UBits:	00:00:00:00	
Jam	тс	

手動でタイムコードをジャムする方法:

> Timecode Jam メニューで、HP エンコーダを押します。

ジャムせずに Timecode Jam 画面を終了する方法:

▶ MENU ボタンか METER ボタンを押します。

Timecode ジェネレータの設定

タイムコード値は(ジャムせずに)手動で設定することができます。

タイムコードジェネレータを設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、**TIMECODE > Set Generator TC** を選択します。
- 時、分、秒、フレームの入力項目と共に Set Generator TC 画面が表示されます。
- 画面の中で接待したい項目を編集するには、
 > HP エンコーダを回してオレンジ色カーソルを移動させます。
 > HP エンコーダを押すと青色に変わり値を変更できます。
- 4. HP エンコーダを操作して、任意のタイムコード値を設定します。
- 5. 編集が終わったら、HPエンコーダを操作して、"Done"を実行すると値が適用されます。



User Bits の設定

デフォルトで、コロンで区切られた、UU:UU:UU:UU のユーザービットを、ユーザーによって編集することができます。 U とはユーザーが自由に設定できる値であることを意味します。

User Bits Mode u u u u u u u u 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Se	et (Ge	ene	era	tor	U	З	Ð
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		U	lse	r Bi	ts M	ode			
0 0 0 0 0 0 0	u	u	u	u	u	u	U	u	
	0	0	0	0	0	0	0	0	
Bass									
Done					one				

最初の3つの項目は、年月日をメモしておく意味で、毎日手動で MM:DD:YY:UU といったユーザービットに編集する場合がしばしばあります。

ユーザービット・モードは、システム日付を利用して、最初の3つの項目を自動的に変更させることが できます。

4つめのモード (Use External) は、外部ソースからの情報を利用します。 もしモードを使う場合は、 このモードに設定する前に、633の右パネルに 5-pin LEMO コネクターでタイムコードユーザービット 用の外部ソースが接続されていることを確認してください。

User Bits モードの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **TIMECODE > Set Generator UBits** を選択します。
- 3. エンコーダをもう一度押すと、3つあるモードから1つを選択することができます。
 - ・ UU:UU:UU:UU ユーザーがすべての項目を編集できます。(工場出荷時設定)
 - MM:DD:YY:UU 最初の3つの項目が、月、日、年になります。
 - DD:MM:YY:UU 最初の3つの項目が、日、月、年になります。
 - Use External 外部ソースから受信した値の後。これはミキサーから取り外されるかもしれません。この値は、633の電源が切られてから2時間まで保持されます。

Info: MM:DD:YY:UU か DD:MM:YY:UU に設定されると、最初の3つの項目は 633 システムが自動的 に値を割り当てるため、グレイアウトになります。 最後の 1 項目だけはユーザービットとして編集可 能です。 ユーザービットとして適用される文字は、0~9 と A~F までの 16 進数です。

Use External に設定されると、項目はグレイアウトされ、項目の文字は UU から XX に変わります。

画面モードの設定

工場出荷時設定で、メータービューの画面にタイムコードの数値が大きく表示され、録音経過時間(ア ブソリュートタイム)は小さく表示されます。しかし、ユーザーが経過時間を重要視するのであれば、 アビュソリュートタイムとタイムコードの位置関係を逆に設定することもできます。



時間位置を逆転する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、 TIMECODE > Display Mode を選択し、 表示させたいオプションに設定します。

オプション: Big A-time、Big Timecode

選択	詳細
Big A-time	すべてのメータービューに、アブソリュートタイムが大きく表示されます。
Big Timecode	すべてのメータービューに、タイムコードが大きく表示されます。(デフォルト)

ファイルストレージ

633 は SD カードと CF カードのファイル マネージメントとしてさまざまなオプション があります。 この章では、ファイルとフォルダ の構造、メディアから他のメディアへのファイル コピー、CF か SD カードからコンピュータへの ファイル転送、メディアのフォーマット、CSV 形式のサウンドポートを 633 で作成する方法 について解説します。 このセクションのトピックス

- > ファイル構造
- > PC ヘファイル転送
- > テイクリストとファイルリスト
- > ファイルリストにアクセス
- > ファイルとフォルダの削除> ファイルストレージの設定
- フォルダオプションの設定
- > サウンドレポートの作成
- > ファイル最大サイズの決定
- > シーン増加モードの設定
- > テイクリセットモードの設定
- > ファイル再生モード
- > デフォルト再生メディアの選択
- > メディアのフォーマット

File 構造

633 はオーディオファイルをポリフォニックか喪にフォニック形式で録音します。 ポリフォニック録 音は1つのファイルの中に複数のオーディオトラックが含まれます。 モノフォニック録音はオーディ オトラックごとに1つのファイルが保存されます。

ポリフォニックファイルは、シーンネーム、テイク番号、拡張子で構成されます。



モノフォニックファイルは、シーンネーム、テイク番号、モノトラック識別、拡張子で構成されます。



トラック識別は 633 のトラックに関連しています。 これはトラックネームではありません。(トラック ネームは WAV ファイルのメタデータに含まれています。)

Info: トラック識別は、16 進数で表されます。例えば、Track9 のモノフォニックファイルのトラック識別 は、S01T01_A と示されます。

Тгаск	TRACK NAME	TRACK DESIGNATOR
Track L	MixL	1
Track R	MixR	2
Track 1	Ch1	3
Track 2	Ch2	4
Track 3	Ch3	5
Track 4	Ch4	6
Track 5	Ch5	7
Track 6	Ch6	8
Track X1	Aux1	F
Track X2	Aux2	G

下の表は、633のトラック、トラックネーム、トラック識別の関係を示しています。

ファイルを PC に転送するには

録音が終了したら、メイン画面にはメディアの録音可能時間が白色で表示されます。 録音されたファ イルをコンピュータへ転送するには、SD カードか CF カードを 633 から抜いて、市販のカードリーダ ーを使ってコンピュータにメディアをマウントしてください。

SD カードを抜く方法:

メディア・ドアを開けます。 SD カードを押し込んで、リリーススプリングで飛び出た部分を引っ張ります。

CF カードを抜く方法:

メディア・ドアを開いて、CF カードを引っ張ります。

ファイルを転送する方法:

コンピュータに市販のカードリーダーを使ってメディアをマウントします。 ファイルをカードからコンピュータにコピーします。

Info: Sound Devices は、オーディオファイルを編集するまえにファイルを先にコピーすることを推奨しま す。メモリーカードのデータを直接編集しないでください。

Take List と File List

ファイルとは、装着されたメディアに保存される個々のファイルを指します。テイクとは、メディア上の複数ファイルから構成されることのできる1回のレコーディングを指します。 Take List (テイクリスト) にはテイクのリストが表示され、ここでテイクの削除、リネーム、メタデータフィールドの編集が可能です。 テイクリストで編集された結果は SD カードと CF カードの両方のメディアに適用されることができます。



ファイルリストにアクセス

File List(ファイルリスト)は、選択されたメディア上のファイルとフォルダを表示し、ファイルやフ ォルダの削除、ファイルやフォルダを他のメディアへコピー、フォルダのリネーム、サウンドレポート の作成、メディアのフォーマット、Trash フォルダと False Take フォルダを空にする、等ができます。 ファイルリストは選択されたメディアにだけ変更が適用されます。

File List ヘアクセスする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > File List** を選択します。

Info: File List ICアクセスする別の方法として、Take List 表示中に MIC/TONE スイッチをスライドさせ る方法があります。この操作で、File List と Take List の間を切替えることができます。

File List の最初の画面は、各メディアの情報が表示されます。



- 3. メディアに対して行うオプションを選択するには、RTN/FAV スイッチを倒します。 オプションは、
 - \cdot Create Sound Report
 - Copy To (Media)
 - Rename
 - Empty Trash
 - Erase/Format
- 4. HP エンコーダを操作して CF か SD を選択し、メディアの内容を見ます。 メディア上のファイル のリストが表示されます。 フォルダネームはスラッシュ("\")付で表されます。

CFルート0	ກ File List		"Dune"と	名付けられた	フォルダ
	CF	Ē		DUNE	Ē
\TRASH \FALSETAKES \DUNE T07.WAV T08.WAV T09.WAV	TC: FPS: Len: Fmt: Trks: Date: Time: Size:	00:59:19:00 30 ND 00:00:05:00 48000/24b 14 03/01/15 04:57PM 10MB	T04.WAV T05.WAV T06.WAV	TC: FPS: Len: Fmt: Trks: Date: Time: Size:	00:58:20:00 30 ND 00:00:05:00 48000/24b 14 03/01/15 04:56PM 10MB
TAKES		OPTION	TAKES		OPTION

- 5. HP エンコーダを操作して、任意のフィルかフォルダにカーソルを移動します。 選択されたものに 関する情報が画面の右側に表示されます。
- 6. RTN/FAV スイッチを操作して OPTION に入ります。 オプションは選択されたファイルやフォル ダによってさまざまです。

フォルダオプション:

- Create Sound Report
- ・Empty Folder (Trash と False Takes フォルダのみ)
- Copy Directory to (SD/CF)
- Rename Folder
- ・Delete folder (選択中のメディアから)

ファイルオプション:

- Copy file to (SD/CF)
- ・Delete file (選択中のメディアから)

ファイルとフォルダの削除

ファイルとフォルダを File List から削除することができます。

Info: ファイルの削除は選択されたメディア内だけに反映されます。 すべてのメディアで関連する同名 ファイルを削除するには、Take List から削除してください。

ファイルかフォルダを削除する方法:

- 1. File List から、HP エンコーダを操作して SD カードか CF カードを選択します。 ファイルリ ストが表示されます。
- 2. HP エンコーダを操作して、削除したいファイル(かフォルダ)を選択します。
- 3. RTN/FAV スイッチを左右どちらかに倒して、OPTION に入ります。
- 4. HP エンコーダを操作して、Delete を選択します。

Info: Trash か False Takes フォルダが選択されると、Delete できません。

5. HP エンコーダを操作して、削除の確認をします。(Cancel を選ぶと削除を中止します。)

削除されたファイルは、選択されたメディアの Trash フォルダに移動されます。

ファイルストレージの設定

次の表は、File Storage settings の設定内容です。

SUB-MENU	DESCRIPTION	Options
Take List	Accesses the Take List. See <i>Take List Overview</i> for more details.	
File List	Accesses the File List.	

SUB-MENU	DESCRIPTION	Options
Folder Options	Sets options for folder structure with up to three levels of hierarchy.	Top-LevelMid-LevelBottom-Level
Sound Report Info	Enter information to be included in Sound Report headers.	 Project Producer Director Job Date Location Sound Mixer Phone E-Mail Client Boom Op Prod. Co. Prod. Co. Tel. Mics Comments Roll Media File Type (CF) File Type (SD) Sample Rate Frame Rate Bit Depth Tone Level
File Max Size	Selects the file size at which a recording will close automatically, and then start a new file.	 4GB 2GB 1GB 640MB 512MB
Scene Increment Mode	Enables or disabled the scene increment shortcut and selects which format the scene increment will use.	DisabledCharacterNumeric
Take Reset Mode	Defines when take number is reset.	 Never Scene Change Daily Folder Change Either Scene or Daily
File Playback Mode	Determines what (if any) playback action the 633 will perform upon reaching the end of a file during playback.	Play OncePlay AllRepeat OneRepeat All
Default Playback Card	The source media that files will be played from when playback is initiated.	• CF • SD
Erase/Format CF	Formats CF card to FAT32 (32 GB or less) or exFAT (greater than 32 GB) file sys- tem.	
Erase/Format SD	Formats SD card to FAT32 (32 GB or less) or exFAT (greater than 32 GB) file system.	

フォルダのオプション設定

工場出荷時設定で、録音されたファイルは SD カードと CF カードのルート・レベルに保存されます。これは、メインメニュー FILE STORAGE > Folder Options で、3つの階層(フォルダ)に保存するように変更することができます。階層(フォルダ)は、Top-Level、Mid-Level、Bottom-Level に分かれています。 REC キーが押されるとフォルダが作成され、その中に録音ファイルが書かれます。



各フォルダのレベルは、手動で編集可能なフォルダネームをつけることができます。 1つのフォルダ ネームを手動で名づけした時、すべての引き続き録音されるファイルは、Folder option が変更される まで、そのフォルダ内に書き込まれます。

フォルダレベルを手動で名づける方法:

- 1. MENU ボタンを押して、メインメニューにアクセスします。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > Folder Options** を選択します。
- HP エンコーダを操作して、フォルダレベルを選択します。
 オプションは、 Top-level、Mid-level、Bottom-level です。
- 4. HP エンコーダを操作して、<Add New Entry> を選択します。
- 5. スクリーン・キーボード(あるいは接続されている USB キーボード)を使って、ネームを記 入します。
- 6. もしネーム記入をミスタイプしたら、RTN/FAV スイッチを左に倒して、BackSpace として字 を消すことができます。
- 7. RTN/FAV スイッチを右に倒すと、OK としてフォルダネームが適用されます。

フォルダネームには、<Add Entry> だけでなく、Mid-level は <Daily> に、 Bottom-level は <Scene> に設定することができます。

- ・ Mid-level フォルダを <Daily> に設定すると、日付をフォルダネームとして自動的に反映します。 日付が新たに変わった場合は、新しい日付フォルダを作成するかどうか 633 がユーザーに確認を します。
- ・ Bottom-level フォルダを <Scene> に設定すると、シーンネームを変更するたびに新しいフォル ダが作成されます。
 - Info: Top-level フォルダにつけられたネームは、メタデータフィールドの Project にも保存されます。 Mid-level フォルダにつけられたネームは、メタデータフィールドの Roll(Tape) に保存されます。

サウンドレポートの生成

633 は CSV (カンマで区切られた) 形式でサウンドレポートを生成することができます。 CSV ファイ ルは Microsoft® Excel®、OpenOffice™ Calc, Apple® Numbers、Google Docs™ などのスプレッ ドシート・アプリケーションで開いて編集することができます。

Info: MP3 ファイルからサウンドレポートは生成できません。レポートは、メタデータを含む BWF ファイル から生成されます。

サウンドレポートのヘッダーを設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > Sound Report Info** を選択すると、サウンドレポートヘッダーのリストが表示されます。
- 3. 編集したいヘッダーを選択します。
- 4. 次のどちらかを実行します。
 > HP エンコーダを操作してリストから存在するアイテムを選択します。
 > HP エンコーダを操作して <None> を、<Add New Entry>で新しいアイテムを新規追加します。

Info: リストに存在するオプションは、 <None>、 <Current Selection>、 <System Date です。 <None> はレポートに出力されません。 <Current Selection> とは、別のメニューで設定されて いるパラメータが流用されます。 例: File Type(CF), B-WAV Poly

サウンドレポートはフォルダごとに生成されます。 フォルダの中のすべてのファイルがサウンドレポートの対象です。サブフォルダにあるファイルはサウンドレポートの対象にはなりません。 例えば、 Mid と Bottom が設定されている場合、Bottom に配置されているファイルを対象に Bottom フォルダ に対してサウンドレポートを生成してください。

サウンドレポートの生成方法:

- 1. File List にアクセスします。
- 2. HP エンコーダを操作して、レポートを生成したいフォルダにカーソルを合わせます。
- 3. RTN/FAV スイッチを右に倒して、OPTION に入ります。
- HP エンコーダを操作して、Create a Sound Report を実行します。 フォルダの中に csv ファイルが1つ作成されます。 ファイル名は、[FOLDER NAME]_REPORT.CSV です。
- 5. 確認メッセージが表示されたら、HP エンコーダを押して確認します。
 - Info: サウンドレポートは、WM-Connect Bluetooth USB アクセサリーが挿入されたミキサー上で、 Wingman アプリからも作成することができます。詳細は、Wingman Wireless Interface を参照く ださい。

テイク識別の文字

工場出荷時設定で、ファイルネームのテイク識別用に大文字の T が割り当てられています。しかし、これは他のアルファベットやハイフン記号に変更することができます。

テイク識別の文字の変更方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダで、**FILE STORAGE > Take Designator** を選択します。
- 3. 新しい文字かハイフンを take designator として設定します。

変更は次から録音されるファイルへ適用されます。 既存のファイルには反映されません。

最大ファイルサイズの設定

工場出荷時設定で、WAV ファイルの最大サイズは 4GB です。 録音しているファイルが最大ファイル サイズに達すると、自動的にファイル分割して新しいファイルとして書込みます。 この分割はサンプ ル精度でシームレスに行われます。

Info: MP3 ファイルの録音では、シームレスに分割することはありません。

最大ファイルサイズの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > File Max Size** を設定します。
- 3. HP エンコーダを操作して、最大ファイルサイズを設定します。 オプション: 4GB, 2GB, 1GB, 640MB, 512MB

できるだけファイル分割を避けたい場合は、さまざまなオプションが考えられます。

- poly 形式ではなく mono 形式で録音する。
- ・ 低いサンプルレートで録音する。
- ・ poly 形式録音の場合、アームトラック数を減らす。

シーン増加モード

84

633 には、シーン増加のショートカットコマンドがありますが、工場出荷時設定で無効に設定されています。Menu 設定で、Scene Increment モードを有効にすると、HP + FF で "Increment Scene Name?"の確認後、シーンネームの末尾を増やして新しいシーンを作成することができます。

シーン増加モードを有効にする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、**FILE STORAGE > Scene Increment Mode** を選択します。 オプションは以下です。

選択	詳細
Disabled	ショートカットは無効です。
Character	シーンネームの末尾に文字が使用され、シーンインクリメントの操作に
	より、アルファベットの次の文字へ変更されます。
	もし現在のシーンネームの末尾が文字ではない場合、文字が追加されま す。
Numeric	シーンネームの末尾に数字が使用され、シーンインクリメントの操作により、次の数字に変更されます。
	もし現在のシーンネームの末尾が数字ではない場合、数字が追加されま す。

テイク・リセット

工場出荷時設定で、新しいシーンが選択されるか新しいデイリーフォルダが作成されると、テイク番号 がリセットされます。 このふるまいは、デイリーフォルダが作成された時だけ、シーンが変更された 時だけ、あるいはリセットしないように変更できます。

テイク・リセット・モードの設定:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > Take Reset Mode** を選択します。 オプション: Never、Scene Change、Daily Folder Change、Either Scene or Daily

ファイル再生モード

再生が開始されると、選択されたファイルの最後まで再生されます。再生途中で停止させるにはトランスポートコントロールを2回押します。 このふるまいは、Play Once と呼ばれるデフォルトの設定です。Menu 設定から、Play All(フォルダ内のすべてのファイルを再生)、Rpeat One(選択されたファイルが停止されるまでループ再生)、Repeat All(手動で停止されるまで、フォルダ内のすべてのファイルをループ再生)に変更することができます。

再生モードを設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 FILE STORAGE > File Playback Mode に入ります。
 - オプション: Play Once、Play All、Repeat One、Repeat All

再生メディアの既定

工場出荷時設定で、コンパクトフラッシュカードが再生メディアに設定されています。 もし CF カード が無い場合は、SD カードを再生します。 デフォルトプレイバックに指定されたメディアは、メインビューに表示されているカード名称の背景が緑色で表示されます。



デフォルトプレイバックのメディアを設定する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > Default Playback Card** を選択します。 オプション: CF、SD
 - Info: デフォルトプレイバックのメディアは、ショートカットキー操作で切り替えることができます。 HP エンコーダを押しながら、トランスポートコントロールを下(Play) に倒してください。

メディアの消去・フォーマット

CF カードか SD カードに録音する前に、メディアを必ず 633 でフォーマットしてください。

メディアをフォーマットする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE** を選択します。
- 3. 次のどちらかの操作を行います。
 - > Erase/Format CF (CF カードのフォーマット)
 > Erase/Format SD (SD カードのフォーマット)
- 4. HP エンコーダを押して、フォーマットを開始します。

Info: メディアのフォーマットは、カード上のすべてのデータが消去されます。

- 5. 確認メッセージが表示されるので、HPエンコーダを押して進めます。
- 6. METER ボタンを押すとメイン画面に戻ります。

32GB もしくはそれ以下の容量のメディアは FAT32 でフォーマットされます。 それ以上の容量のメディアは exFAT でフォーマットされます。

Info: exFAT ファイルシステムは、WindowsXP や Mac OS X 10.6.4 以前の OS は対応していません。



メタデータとテイクリスト

メタデータは、録音コンテンツに関する情報 を伝えるために使用されます。 1回のテイク が複数のメタデータファイルで構成されること もあります。

633 の Take List で、サウンドエンジニアは シーン、テイク、ノート、トラックネーム、 サークルステータスのようなメタデータ情報 をブロードキャスト WAV ファイルに入力 したり編集したりすることができます。

bEXT データや iXML データを読むことができ るアプリケーションソフトは、633 で生成され たファイルのメタデータを表示することができ ます。633 はそれらのメタデータから CSV 形 式のサウンドレポートを生成することもできま す。

このセクションのトピックス

- > テイクリストの概要
- > テイクリストヘアクセス
- > テイクの再生
- > 633 上でメタデータ編集
- > ノート用のフレーズリスト
- > シーンリストのクリア
- > メタデータの概要
- > 直前テイクのリネームと削除
- > 他のプログラムの中のメタデータ編集

Info: メタデータの編集は、ミキサーのインターフェースから直接、または Wingman アプリからも行うこと ができます。 詳細は、Wingman Wireless Interface の章を参照ください。

Take List の概要

テイクリストは両方のメディアにまたがって録音されたすべてのトラックを表示します。

工場出荷時設定で、録音された時、ファイルの名前は、T01.wavのようなテイク番号で名づけられます。テイクリストから、ユーザーは次のテイク用にシーンネームを入力することができ、録音が開始されると、ファイルネームにはシーンネームとテイク番号の両方が含まれます。(例:シーンネームにSNとつけると、SNT01.wavとなります。)

テイクリスト画面で、録音されたテイクが画面の左側にリスト表示されます。



この例では、青色でハイライトされたテイクはカレントテイクでもあります。 カレントテイクに対し て行われたエディットは、次のテイク(と引き続き録音されるテイク)にも引き継がれます。 この例 では、プレビアステイクは、カレントテイクの下にリスト表示されています。

Take List にアクセス

テイクリストにアクセスする方法は2つあります。 1つはメインメニューの FILE STORAGE サブメ ニューからアクセスする方法で、もう1つは、次に示すショートカット操作です。

テイクリストにアクセスする方法:

- 1. MENU + HP : MENU ボタンを押しながら HP エンコーダを押します。 Take List 画面が表示されます。
- 2. HP エンコーダを回して任意のテイクを選択すると、画面右側には、そのテイクに関する情報が表示されます。
- 3. テイクリスト画面を終了するには、METER ボタンを押します。

テイクの再生

テイクリストからテイクの再生を開始することができます。

テイクリストから再生を開始す方法:

- 1. MENU + HP : MENU ボタンを押しながら HP エンコーダを押してテイクリスト画面を 表示します。
- 2. HP エンコーダを回して、再生したテイクをハイライト状態にします。
- 3. 再生開始するために、トランスポートコントロールを下に倒します。 メイン画面に切り替わって再生がはじまります。

633 でメタデータ編集

Notes、Scene、Take、Circle Status、Folder(tape)、Project、track names などのメタデータは、 Take List 画面から直接編集することができます。

Info: "file"とは1つのメディアカード上にある1つのファイルを指しますが、"take"は異なるメディアに ある同一内容が複数のファイルで構成されることができる1回の録音を意味します。テイクを編 集すると、そのテイクに関連するすべてのファイルに編集が反映されます。

テイクリストからメタデータを編集する方法:

- 1. MENU + HP : MENU ボタンを押しながら HP エンコーダを押してテイクリスト画面を 表示します。
- 2. HP エンコーダを回して編集したいテイクを選択後、HP エンコーダを押します。メタデー タのパラメータのリストが表示されます。
- Info: テイクリスト画面のテイクリストの一番上を選択する(オレンジ色の文字で[NEXT] とあります)は、 次回録音されるファイルに関するメタデータです。それ以外のテイクを選択して編集すると、メデ ィアにあるファイルが編集されます。
- 3. HP エンコーダを操作して、編集したいメタデータを選択します。

- イラメータは、テキストベース、数字、選択肢のタイプがあります。編集するときは、次の操作を行います。
 テキスト項目では、スクリーンキーボード(または接続された USB キーボード)で文字を入力します。 記入が終わったら、RTN/FAV スイッチを右に倒して適用します。
 数字項目では、HP エンコーダを使って値を編集し、Done で適用します。
 リスト項目では、HP エンコーダを使って値を選択します。
- Info: テキスト項目は1つだけ設定できます。 〈Add New Entry〉 か、事前に登録されてるリストから選 択できます。 リストを削除するオプションもあります。
- Info: Notes メタデータ項目はテイクに関する補足情報をテキストで入力できます。他のメタデータ項目 に登録されることはありません。Notes はテイクごとにキーボードでタイプして記述されます。しか し、〈Use Phrase〉オプションにより、ユーザーが決めることができるフレーズ(単語)からすばやく 選択して記述することもできます。

ノートにフレーズを使用する

同じ単語かフレーズが多くの異なるテイクの Notes 項目に頻繁に記述することがあります。 メタデー 夕登録の時間節約のために、688 はフレーズリストを作成することができます。

フレーズリストにアクセスして登録する方法:

1. HP + FAV: HP エンコーダを押しながら RTN/FAV スイッチを右に倒すとフレーズリストが表示されます。



- 2. リストに新しい登録を行うには、スイッチをもう一度右に倒します。
- 3. スクリーンキーボード (または USB キーボード) を使って、新しい単語 (フレーズ) を入力します。 スクリーンキーボードでデータ入力中、次の手順を行うことができます。
 - ・MIC/TONE スイッチで大文字と小文字の切替。
 - ・入力ミスは、RTN スイッチを左に倒してバックスペースで文字を削除。
 - ・SELECT エンコーダを回して文字を削除せずにカーソル位置を移動。
- 4. FAV スイッチを右に倒して OK を選択し、新しい登録が完了します。

フレーズリストを編集または削除する方法:

- 1. Phrase List 画面にアクセスします。
- 2. HP エンコーダを回して、編集したいフレーズをハイライトにします。
- 3. 次のいずれかを実行します。

> MIC/TONE スイッチを左に倒して削除します。 > MIC/TONE スイッチを右に倒して編集モードに入ります。

4. OK を選択して編集または削除を実行します。

フレーズリストからフレーズを使う方法:

- 1. Phrase List 画面にアクセスします。
- 2. HP エンコーダを回して、使用したいフレーズをハイライトにします。
- 3. HP エンコーダを押すと、選択されたフレーズが適用されます。

スタンバイ中、ミキサーは選択されたフレーズを最後に録音したテイクに適用します。しかしながら、 録音中に選択されたフレーズは録音中のテイクに対して適用されます。

Info: 再生中は、フレーズリスト画面を利用することはできません。

シーンリストのクリア

テイクの Scene を編集中、メタデータ登録はシーンリストの一部になり、シーンネームによく使用されるもののリストから簡単に選択することができます。

しかし、リストをクリアする必要があれば、リストの中のシーンネームを個々に削除するのではなく、 リスト全体を削除することもできます。

シーンリストをクリアする方法:

- 1. MENU + HP: MENU ボタンを押しながら HP エンコーダを 同時に押すと、Take List 画面が表示されます。
- 2. テイクリストの一番上の [next] テイクを選択します。
- 3. RTN/FAV スイッチをどちらかにスライドします。
- 4. HP エンコーダを操作して、Scene を選択するとシーンリストが表示されます。
- 5. <Clear List> を選択します。
- 6. 確認のダイアログが表示されるので、OKを選択します。

CATT01[next]1. Notes2. Scene3. Take4. Track L5. Track R6. Track X1Clear List>7. Track X28. Track 1Ch1EDITDELETECh2

メタデータの概要

633 で作成されたブロードキャスト wav ファイルは、Ixml と Bext チャンクデータを含みます。 これ らのデータを認識できないアプリケーションソフトでは、これらのメタデータは無視されます。 次の 表は、サポートされるメタデータパラメータです。

Metadata Parameter	STORED IN	SET BY (U = USER, M = MACHINE)
Project	iXML	U; FILE STORAGE > Folder Options > Top-Level or Take List
Roll (Tape)	iXML, bEXT	M; uses creation date or is overridden by User U; FILE STORAGE > Folder Options > Mid-Level or Take List
Scene	iXML, bEXT	U; Take List
Take	iXML, bEXT	M or U; Take List
Notes	iXML, bEXT	U; Take List
Circle Take	iXML	U; Take List
File UID	iXML	M; Unique File Identifier
File Sample Rate	iXML, FMT	U; RECORDER > Sample Rate
Digitizer Sample Rate	iXML	U; Actual sample rate of AD converter
Bit Depth	iXML, FMT	U; RECORDER > Bit Depth menu
Channels	iXML, FMT	U; Number of channels (tracks) in the file
Frame Rate	iXML, bEXT	U; TIMECODE/SYNC > Frame Rate
TC Flag (ND or NDF)	iXML, bEXT	U; TIMECODE/SYNC > Frame Rate
Start Time Code	iXML, bEXT	M; Stored as a sample count since midnight
Duration		Μ
U-Bits	iXML, bEXT	U; TIMECODE/SYNC > Set Generator UBits
Time Code Sample Rate	iXML	Μ
Channel Index	iXML	M; Track Number
Interleave Index	iXML	Μ
Track Name	iXML, bEXT	U; Take List
Master Speed	iXML	Μ
Current Speed	iXML	Μ
Speed Note	iXML	Μ
Originator	bEXT	Μ
Creation Date	bEXT	Μ
Creation Time	bEXT	Μ
Originator Reference	bEXT	Μ
Software Version	bEXT	M
Family UID	iXML	M; shared by files belonging to the same take
Total Files	iXML	M; number of files representing a take
File Set Index	iXML	М
Original File Name	iXML	M

メタデータは、MP3 ファイルの ID3 タグに含まれます。 MP3 ファイルの中のメタデータを 633 で編 集することはできません。 つぎの表は保存されるメタデータの ID3 フィールドとそれが保存されてい るフォーマットを示します。

ID3 FIELD	Format
Artist Name	TC=[HH:MM:SS:FF]
Track Title	SC=[scene name] TK=[take number]
Album Title	FR=[frame rate] D=[duration]

前のテイクを削除・リネーム

プレビアステイク(前に録音されたテイク)は、テイクリストからリネームまたは削除することができます。 テイクがリネームまたは削除されると、そのテイクに関連するすべてのファイルが、両方のメディア上で適用されます。

テイクをリネームする方法:

- 1. MENU + HP : MENU ボタンを押しながら HP エンコーダを押してテイクリスト画面を 表示します。
- 2. HP エンコーダを回して、リストからテイクを選択します。 (リネームは Next Take には 適用できません)
- 3. HP エンコーダを押して、エディットモードになったら、Rename を選択します。 スクリ ーンキーボード(または接続されている USB キーボード)で値を入力します。
- 4. 入力が終わったら、RTN/FAV スイッチを右に倒すか、USB キーボードの Enter キーを押します。

テイクを削除する方法:

- 1. MENU + HP : MENU ボタンを押しながら HP エンコーダを押してテイクリスト画面を 表示します。
- 2. HP エンコーダを回して、削除したいテイクを選択します。
- 3. HP エンコーダを押して、エディットモードになったら、Delete を選択します。
- 4. 確認メッセージが表示されたら、HP エンコーダを押して OK します。
- Info: 確認メッセージで、OK ではなく Cancel を選択して実行すると、テイクを削除せずにエディットモ ード状態に戻ります。

他のプログラムでメタデータを編集

Sound Devices のレコーダーは、ブロードキャスト WAVE ファイル規格により WAV ファイルにメタ データを書き込みます。プロフェッショナル・アプリケーションには、そのメタデータを読込んだり、 編集したりできるものがあります。録音後、ポストプロダクションにデータを渡す前に大量のテイクの メタデータを編集する必要がある場合は、そのようなアプリケーションを利用すると便利です。 **System**

Menu 設定にある SYSTEM には、トーンや ベル音量、日付と時刻のパラメータ、メーター 表示方法など、さまざまなシステムの要となる コントロールや設定がサブメニューにあります。

このサブメニューには、製品のバージョン情報 を確認やファームウェア・アップデートのオプ ションも含まれます。

ヘッドフォン、メータービュー、液晶画面などのいくつかのシステム設定に関しては、この ガイドの他の章で詳しく説明されています。

このセクションのトピックス

- > トーンとベルの設定
- >Record/Stop ワーニングベル
- > メーターの設定
- > メーター指示特性とピークホールド
- > ピークホールドの設定
- > 日付と時刻のパラメータ
- > Fader と Pan の校正
- > USB キーボード
- > ショートカット操作
- > バージョン情報
- > Firmware アップデート

トーンとベル の設定

633の内蔵トーンオシレータは、出力とトラックに送るために使用され、異なるワークフローにも対応 できるようにいくつか設定があります。

トーンを有効にする方法は、このガイドの「トーンを出力に送る」の章を参照ください。

トーン設定をする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、SYSTEM を選択します。
 サブメニュー: Tone Routing、Tone Level、Tone Frequency、TONE Action
- 3. 次の表で示されるパラメータを設定します。

パラメータ	詳細	選択
Tone routing	どこの出力、トラックへトーン信号が送ら れるかの Tone Routing 画面が表示されま す。デフォルトはすべての出力、トラック へ送られています。	 Outputs: L, R, X1-X4 Tracks: L, R, X1, X2, tracks 1-6
	Slate and Tone Routing Slate	
Tone Level	インターナルトーンジェネレータのレベル を設定します。 デフォルトは OdBu です。	・0-20 dBu (1 dBu ステップ)
Tone Frequency	インターナルトーンジェネレータのオーデ ィオ周波数を設定します。 デフォルトは 1000Hz です。	・100-10000 Hz (10 Hz ステップ)
Tone Action	[Tone Action] MIC/TONE スイッチが右へスライドされた 時のアクションについて設定します。デフ ォルトで、Continuous です。 [SELECT+Tone Action] ・SELECT を押しながら、MIC/TONE を右 にスライドした時の、セカンダリーアクシ ョンについての設定です。デフォルトは L Indent です。	・No Action ・Continuous ・L Indent ※No Action は、スイッチの誤操作で 機能してしまうことを防ぐために設 定します。

Rec/Stop と警告ベル の設定

録音を開始したことをビープ音で知らせるために、440Hz トーン信号がミキシングエンジニアのヘッド フォンへ送られます。録音を停止すると、220Hz のトーン信号が 2 回、ヘッドフォンに送られます。 これらの音で知らせるアラート音が、Rec/Stop と警告ベル です。

警告ベルは、ミキサーの電源電圧が降下したようなエラーを、ユーザーに知らせるものです。

工場出荷時設定で、これらのベルのデシベルレベルは -30 dBFS ですが、メニュー設定で 1dB ステップで -60 から -12 dBFS に、あるいはオフに設定することができます。

警告ベルの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作し、 **SYSTEM > Warning Bell Level** を選択します。
- HP エンコーダを操作し、新しいレベルに設定します。
 オプション: Off、-60~ -12 dBFS (1dB ステップ) (デフォルトは -30 です。)

94

工場出荷時設定で、Record/Stop ベルは On になっていますが、メニュー設定で Off にできます。

Info: Record/Stop ベルをオフに設定しても、ワーニングベルに適用されるわけではありません。

Record/Stop ベルの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作し、 **SYSTEM > Record/Stop Bell** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作し、On か Off に設定します。 オプション: On、Off

メーターの設定

メータービューに表示されるメーターは、ユーザーの好みに変更することができます。 例えば、表示 されるメーターの棒のスタイルをセグメントかソリッドに指定することができます。

また、トラックネームをメーターの棒の中に表示させることができ、メータービューからトラックを識別しやすくなります。

メーターの設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、 SYSTEM > Meter Display Style
 セグメント・メータータイプは、Segmented に設定します。
 ソリッド・バータイプは、Solid に設定します。
- 3. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Track Names in Meters** を選択します。 オプションは、以下になります。

DESCRIPTION	Example
Turns off the display of track names in neters. The example shows segmented meters.	DESTINYTO7 -30 -20 -10 0 S 3147:WAV 20 Um 1 8 1 2 3 4 5 6 00:25:58:21 INT-48000 00:25:58:21 INT-48000 00:00:00:00 D DTNE
ī m D	DESCRIPTION urns off the display of track names in neters. The example shows segmented meters.

OPTION	DESCRIPTION	Example
Left	 Positions track names on the lower end of the meter scale. The example shows solid meters. 	DESTINYTO7 -30 -20 -10 SD:3h47:WAV 20 Lim I Ironton R Baraboo I Cazenovia 2 Delton 3 Wonewoc 4 N Freedom 5 Rock Springs 6 Merrimac OC:25:42:11 00:00:00 RTN
Left w/ramp	Applies a gradient to the background color, and positions track names on the lower end of the meter scale.	DESTINYTO7 -30 -20 -10 SD:3h47:WAV 20 Lim I ronton R Baraboo 1 Cazenovia 2 Detton 3 Wonewoc 4 N Freedom 5 Rock Springs 6 Merrimac 00:25:30:08 INT:48000 00:00.00.0 RTN
Right	Positions track names on the higher end of the meter scale.	DESTINYTO7 30 -20 -10 Spish47.WAV I Inonton B Baraboo Cazenovia Oeteon Cazenovia Oeteon Cazenovia Oeteon NFreedom Rock Springs Merrimac OC:25:13:21

メーター指示特性とピークホールド

オーディオメーターの指示特性(ballistics)は、音声信号レベルに反応した時のメーターの動作のふる まいを意味します。 全メーターの指示特性は System 設定によりミキサーに全体的に反映されます。

メーター指示特性の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- HP エンコーダを操作して、SYSTEM > Meter Ballistics を選択します。 オプションは、以下になります。

OPTIONS	DESCRIPTION
VU Only	Volume Units (VU) meter ballistics correspond closely to how the human ear perceives loudness. This provides a good visual indication of how loud a signal will be. In VU mode, the attack and decay of the meter signal is 300 mS. VU meters provide good visual indication of how loud a signal will be, but provide poor information of actual signal peaks.

OPTIONS	DESCRIPTION
Peak + VU	In Peak + VU mode, the perceived loudness (or VU) is simultaneously displayed as a standard bar while the peak signal is displayed as a single, independent segment above the VU.
Peak Only	Peak-reading ballistics (PPM) correspond to actual signal peaks, but do not necessarily correspond to perceived signal loudness. Peak meters have an instantaneous attack and a slow decay to allow visual monitoring of peak activity. Peak metering is useful in digital audio workflows. In the digital realm, signal overload can cause immediate distortion.

ピークホールドの設定

メーター指示特性が Peak + VU か Peak Only に設定された時、ピークホールドが最後の最も高いピーク値で、メーターセグメントから分離して表示されます。 工場出荷時設定で、このメーターセグメントは 1 秒間保持されます。 この時間はピークホールドと呼ばれ、ホールドタイムを調整したり無効 にしたりできます。

ピークホールドタイムを編集する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Meter Peak Hold Time** を選択します。 オプションは、以下になります。

OPTIONS	DESCRIPTION
1 - 5 sec	Sets the Peak Hold time to display the highest peak value for the selected time, from 1 to 5 seconds.
Infinity	Sets the Peak Hold time to display the last highest peak value indefinitely until a higher peak is reached.
Off	Does not hold peak values.

日付と時刻パラメータ設定

正しく、システムの日付と時刻を設定することは、ファイルメタデータ、ファイルシステム、タイムコードの 24h モード、のために重要です。GTM タイムゾーンとサマータイム(daylight savings)の設定も、exFAT ファイルシステムで正しく日付スタンプするために重要です。

633は、日付と時刻のパラメータに関していくつか設定があります。

PARAMETER	DESCRIPTION	OPTIONS
Time Format	Sets the format used for times displayed by the mixer. By default the format is set to 12 hours.	• 12hr • 24hr
Date Format	Sets the format used to indicate the date, used in metadata. By default, the format is set to two-digit increments for month/day/year (mm/dd/yy).	 mm/dd/yy dd/mm/yy yy/mm/dd
Set Time/Date	Displays the Set Time/Date screen used to set the time and date.	
Time Zone	Sets the time zone, based on Greenwich Mean Time (GMT).	• GMT-1:0012.00 • GMT • GMT+1:00 - +13:00
Daylight Savings Time	Sets whether or not daylight savings is in effect. By default, daylight savings is off.	• On • Off

日付と時刻の表示形式の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. 次のいずれか1つの操作を行います。
 - > HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Time Format** を選択します。
 - > HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Date Format** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、表示形式を選択します。
 - ・Time Format は、12hr か 24hr
 - ・ Date Format は、mm/dd/yy、dd/mm/yy、yy/mm/dd

日付と時刻の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Set Time/Date** を選択します。
- 3. HP エンコーダを操作して、変更したいパラメータへハイライト表示を移動します。



- 4. HP エンコーダを押して、パラメータを選択します。
- 5. HP エンコーダを回して、値を変更します。
- 6. 日付と時刻の編集が終了したら、Done にハイライトを移動させて実行します。

タイムゾーンの選択方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Time Zone** を選択します。
- 3. HP エンコーダをを操作して、ユーザーが使用している場所の GMT タイムゾーンに設定します。



Daylight Saving Time の設定方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 SYSTEM > Daylight Saving Time を選択します。
- 3. 次のどちらかを操作します。
 - > 有効にするには、On を選択します。
 - > 無効にするには、Off を選択します。

フェーダーと PAN の校正

633 のフェーダーと PAN ポッドは、センター位置をヌルポイントとして調整されています。 しかし、 ヌルポイントを調整する必要がある場合は、System settings サブメニューで校正することができます。

フェーダーと PAN の位置を校正する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 SYSTEM > Fader/Pan Calibration を選択します。
- 3. すべてのフロントパネルのコントロールが 12 時位置になるよう調整します。
- 4. HP エンコーダを押して、OK を選択すると、"Calibration Successful" とメッセージが表示され、 新しいポジションに校正されます。
 - Info: 校正せずにキャリブレーションから戻るには、MENU ボタンを押すか、HP エンコーダを操作して Cancel を実行してください。

USB キーボード

工場出荷時設定で、 SYSTEM > USB Port は、Keyboard に設定されています。

Info: キーボード以外のオプションは Factory Test です。これはユーザーが使用する設定ではなく、 工場調整用の設定です。

633の付属品として、USB A-B ケーブルと、USB-A 変換コネクター(メス対メス)が同梱されています。これらは標準 USB キーボードを 633 ミキサーへ接続するために必要です。

USB キーボードの使用方法:

- 1. USB キーボードのオス USB-A プラグを、付属品の USB-A 変換コネクターに接続します。
- 2. USB-A 変換コネクターの反対側に、付属品の USB A-B ケーブルを接続します。
- 3. USB A-B ケーブルの反対側(B側)を、ミキサーの右側面の USB ソケットに挿入します。

キーボード・ショートカットはこのユーザーガイドの"ショートカット"の章を参照ください。

ショートカット情報の確認

633 にはさまざまなショートカット操作があります。 すべてのショートカットではありませんが、ミ キサーの MENU 画面からショートカットのリストを参照することができます。

ショートカット情報を参照する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Shortcut Info** を選択します。
- 3. エンコーダを回すと、リストをスクロールすることができます。
- 4. エンコーダを押して OK を選択すると、リストを終了します。

ユーザーガイドをスマートフォンで見る

633 は QR コードを表示して、スマートフォンから関連するドキュメントを参照することができます。

Info: QR コードによるアクセスするには、御使用になるスマートフォンにコードを読み込むためのアプリケ ーションをインストールする必要があります。

633 User Guide を QR コードからスマートフォンで見るには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > User Guide link** を選択します。
- 3. スマートフォンで QR コードをスキャンすると PDF ファイルが表示されます。



バージョン情報の確認

MENU 画面から、製品のシリアルナンバー、ソフトウェアとタイムコードのバージョン、ビルドナンバーを参照することができます。

バージョン情報を参照する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Version Info** を選択します。

ファームウェア・アップデート

Sound Devices 社は、製品のシステムパフォーマンスの改善と機能拡張のために、ファームウェアのアップデートを公開することがあります。 ミキサーをアップデートするためのファームウェアは、ウェブサイトからダウンロードすることができます。

ファームウェアのアップデート方法:

- 1. Sound Devices の Web サイトを訪れて、PC にファームウェアデータをダウンロードします。
- 2. ドキュメンテーションと拡張子.prg が収納されている ZIP ファイルを解凍します。
- 3. 拡張子.prg のファイルを、認証された SD カードか CF カードのルートディレクトリにコピーします。

Info: ファームウェア・アップデートに使用するメモリーカードは、ミキサーでフォーマットされていることを 作業前に確認してください。

- 4. 拡張子.prg ファイルがコピーされたメディアをミキサーに挿入します。
- 5. ミキサーの電源が入っていなければ、電源を入れます。

Info: 電源ソースは外部DC 電源を使用してください。ファームウェア・アップデートに電圧の低いバッテ リーや不安定な電源ソースを使用しないでください。

- 6. MENU ボタンを押します。
- 7. HP エンコーダを操作して、 **SYSTEM > Update Firmware** を選択します。
- 8. 画面の指示に従って進めます。
- 9. アップデートが終了したら、ミキサーは自動的にリブートします。

リブート時、ミキサーのバージョン番号が表示されて、ファームウェアアップデートの確認メッセージ が表示されます。



クイック・セットアップ

633 は、さまざまなカスタムコンフィグレーション のクィック・セットアップを XML ファイルとして セーブとロードすることで効果的なワークフロー をサポートします。

これらのクィック・セットアップのファイルは、 Main メニューの中で設定されたすべてのパラメータ と、入力設定画面からの(ルーティングを含む) 全入力チャンネルの調整が含まれます。

4つのコンフィグレーションをミキサー本体に 直接保存することができ、またメモリカードにも 保存することができます。

このセクションのトピックス

- > セッティングの保存
- > Quick Setup ファイルのコピー
- > Quick Setup ファイルの削除
- > 保存されたセッティングをロードする

セッティングの保存

メインメニューと入力設定画面から 633 のセッティングを設定した後、Quick Setup ファイルとして コンフィグレーションを保存することができます。

Quick Setup ファイルを保存する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **QUICK SETUP** を選択します。
- 3. セッティングを保存したい場所を選択します。 オプションは以下です。

選択	詳細
INT1 – INT4	ミキサー本体にユーザー設定を保存するために、Save Settings の
	INT(1-4)のどれか1つを選択します。 4つの内蔵保存領域があり、そ
	れぞれに1つの設定を保存できます。
	新しい設定が INT に保存されると、前に保存されていた内容はオーバ ーライトされます。
CF	633 に挿入されたコンパクトフラッシュメモリーカードへ、ユーザーの
	設定を保存することができます。
SD	633 に挿入された SD カードへ、ユーザーの設定を保存することができ
	ます。
	CFやSDカードへ保存すると、SETTINGSフォルダ中にファイルが保存さ
	れます。

4. Quick Setup ファイルに名前を付けます。

Info: 電源ソースは外部DC 電源を使用してください。ファームウェア・アップデートに電圧の低いバッテ リーや不安定な電源ソースを使用しないでください。

5. RTN/FAV スイッチを操作して OK を選択し、Quick Setup ファイルを保存します。 全ての Quick Setup ファイルは XML ファイルとして保存されます。

セットアップファイルのコピー

メモリーカードに保存された Quick Setup ファイルを、バックアップとして別のメモリカードへコピー することができます。

セットアップファイルを別のメディアにコピーする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > File List** を選択します。
- 3. コピー元のファイルがあるメモリカードを選択します。
- 4. メモリーカードの中の SETTINGS フォルダを選択します。
- 5. コピーしたい Quick Setup XML ファイルを選択します。
- 6. RTN/FAV スイッチをスライドして OPTION にアクセスします。

QUICKSETUP.XML	Ē
1. Copy File To CF	
2. Delete	

7. Copy File To xxx を選択します。 このオプションで表示されるメディアネームは、ユーザーが CF カードへ、あるいは SD カードへコピーするかの状況で変わります。

セットアップファイルの削除

ミキサー本体の内蔵保存領域(INT)には4つのセットアップを保存でき、新たなコンフィグレーションはいずれかのセットアップを上書きすることができます。 ファイルネームに同じ名前をつけた場合 に、同じことが CF か SD カードに保存されるファイルにも起こります。

新しくファイルを同名で上書きする方法ではなく、CF カードか SD カードからファイルを1つずつ削除することもできます。

メモリーカードからファイルを削除する方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **FILE STORAGE > File List** を選択します。
- 3. 削除したいファイルがあるメモリーカードを選択します。
- 4. メモリーカードの SETTINGS フォルダを選択します。
- 5. 削除したい Quick Setup XML ファイルを選択します。
- 6. RTN/FAV スイッチをスライドさせて OPTION にアクセスします。
- 7. Delete を選択します。

セットアップファイルのロード

633 をすばやく再設定するには、以前に内蔵保存領域またはメモリ―カードに保存された Quick Setup ファイルをロードするとよいでしょう。

Quick Setup ファイルをロードする方法:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、 **QUICK SETUP > Load Settings** を選択します。



- 3. 画面のリストからロードしたいファイルを選択します。
 - Info: リストの中の最初のオプションは、工場出荷時設定をロードします。 このオプションを選択するこ とで、ミキサーのすべての設定がデフォルト設定に戻ります。



<mark>ショ</mark>ートカット操作

633 をすばやく操作するためのショートカット 操作がいくつかあります。

このショートカットとは、フロントパネルの コントロールを複数同時に押すか、USB キーボード が接続されているとき、複数のキーを押すことが 要求されます。 このセクションのトピックス

> フロントパネル・ショートカット

> USB キーボード・ショートカット

フロントパネル・ショートカット

機能	シーケンス	詳細
Arm/Disarm Track (録音・非録音)	METERS SELECT	[METERS + SELECT] メイン画面で、ハイライト状態のトラックのアーム状態をトグ ル切替します。
File/Take List (テイクリスト)		[MENU + HP] テイクリスト画面を表示します。
False Take (フェールステイク)		[HP + (REW)] 直前に録音されたファイルを False Takes フォルダに移動し、 テイク番号を1つ減らします。
Scene Increment (シーン増加)		[HP + (FF)] シーンネームを増やします。(増え方は、Scene Increment Modeの設定に依存します。)

機能	シーケンス	詳細
Toggle Playback Card (メディア切替)		[HP + PLAY] 再生するメディアを SD/CF で交互に切り替えます。 選択され たメディアが緑色で表示されます。
LED Brightness (LED 輝度調整)		[MENU + HP] 全 LED の輝度を調整します。
LCD Brightness (LCD 輝度調整)		[MENU + SELECT] 液晶画面のバックライト輝度を調整します。
Scene Name (シーンネーム)		[HP + RTN] シーンネームの編集画面に入ります。 録音中に操作すると、 現在のシーンネームが編集されます。非録音中は次のシーンネ ームが編集されます。
Current Take Pharase (フレーズリスト)		[HP + FAV] フレーズリストを表示し、選択されたフレーズを最後に録音さ れたテイクに適用します。(録音中は現在のテイクに適用され ます。)
Toggle Sample/Frame Rate Display (48KHz⇔30DF)	METERS	[METERS + RTN] メイン画面に表示されている timecode か sample rate を交互 に切り替えます。
Toggle Daylight Mode (LCD 表示切替)	SELECT O	[SELECT + HP] 液晶画面の表示モードを、黒ベースか白ベースに交互に切り替 えます。
Jam Menu (Timecode ジャム)		[METERS + MIC] TC Jam メニューを表示します。
Slate Mic Gain (スレート音量)		[MIC + HP] スレートマイクの音量を調整します。
Alternate Tone Mode (オルタネートトーン)		[SELECT + TONE] SYSTEM > Tone Mode で設定されていないトーン・モードを 有効にします。
USB キーボード・ショートカット

標準 USB キーボードを 633 に接続することで、データ入力が簡単になります。USB キーボードを 633 に接続するには、同梱されている USB A-A 変換アダプターを使います。 USB キーボードをデータ入 力として使用可能な時、画面には QWERTY 形式のキーボードがポップアップします。

Info: USB ハブが内蔵されたキーボードは 633 で使用することができません。 アップル・ブランドのキー ボードは対応しません。 キーボードによっては、ミキサーが起動後にケーブルを挿し込むと使用 可能となります。

キー操作	詳細
F1 または Menu キー	メインメニュー を表示。
F2	テイクリスト を表示。
F3	メータービュー画面の表示切替。
Ctrl + R	録音。
Ctrl + S	停止。
スペースバー	再生。
Left (←)	メイン画面 : 早戻し。
	入力設定画面:位相切替。
Right (→)	メイン画面 : 早送り。
	入力設定画面 : LR ミックスアサイン切替。
Up/Down ($\uparrow\downarrow$)	メイン画面 : ヘッドフォン音量。
	メニュー内 :ハイライトカーソルの移動。
	パラメータ編集中:値の変更。
Enter	メイン画面 :HP モニターソースのリスト。
	メニュー内 :現在の選択を有効に。(エンコーダ押しと同じ)
Alt + Enter	メイン画面 : トラックアーミングの切替。
Ctrl + Enter	選択された L,R,X1,X2,X3,X4,X5,X6,RTN トラックゲイン調整。
Ctrl + Up/Down	メイン画面 : トラックの選択。
	入力設定画面:入力 7-12 のトリムゲイン調整。
Ctrl + Left(←)	入力設定画面 : X1 アサインの変更。
$Ctrl + Right(\rightarrow)$	入力設定画面:X2アサインの変更。



WINGMAN ワイヤレスインターフェース

Wingman は iOS ベースのアプリケーションで、 688、664、633 といった 6 シリーズミキサーの レベルモニターとリモートコントロール機能を提供 します。

このアプリは Apple ストアからダウンロードする ことができ、iOS8 がインストールされている iPad、 iPhone、iPod Touch のモバイルデバイスにインス トールすることができます。

WM-Connect は、Bluetooth®スマート USB ドン グルで、6 シリーズと通信するために必要なハード ウェアアクセサリーです。

> Info: WM-Connect の接続と Wingman アプ リのダウンロードは、 ハードウェアに同 梱される WM-Connect クィックスター トガイドまたは、Sound Devices の Web サイトから無料 でダウンロードできる PDF を参照ください。

このセクションのトピックス

- > Starting WIngman
- > User Interface
- > Trasport View
- > Connecting to a 60Series Mixer
- > Using Trasport Controls
- > Designating Circle and False Takes
- > Using Meter Views
- > Editing Track Names
- > Arming/Disarming Tracks
- > Take List View
- > Editing a Take's Metadata
- > Reports View
- > Creating Sound Reports
- > Track View on iPhone or iPod Touch

Wingman をはじめる

アプリケーションを開始する前に、WM-Connect ハードウェアアクセサリー(右写 真)が6シリーズミキサーに装着されていることを確認してください。次に、iOS デ バイスの Bluetooth が有効になっていることを確認してください。iOS のファームウ ェアは v4.00 以上が動作条件です。



Wingmann アプリを開始するには:



Wingman アイコンをタップします。

パスワードの設定

セキュリティ向上のため、Wingman アプリを使用してモバイルデバイスからレコーダーのモニターや コントロールするとき、リモートアクセス用にパスワードを要求するよう 6-Series を設定できます。パ スワードは最高 18 の英数字です。 ハイフンとアンダースコア以外の句読点は使用できません。

リモートパスワードを設定するには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. HP エンコーダを操作して、SYSTEM > Wingman Password > Enter Password に入ります。

- 3. ヴァーチャル・キーボードが表示されたら、パスワードを入れます。
- 4. 入力を終えたら、RTN/FAV スイッチを右に倒して OK を選択します。
- 5. 確認メッセージが表示されたら、HP エンコーダーを押して OK をもう一度選択します。

ユーザーインターフェース

Wingman ソフトウェアアプリケーションは、簡単操作な、タッチスクリーンのユーザーインターフェースを備えています。 しかし、さまざまな画面サイズがあることから、画面デザインといくつかの操作手順は使用されるモバイルデバイスによって異なります。

(iPad のような)タブレットを縦か横に持った時の画面自動切替にも対応します。 この章では、アプ リケーションのユーザーインターフェースとデバイス上に表示されるアプリケーション画面の描写を 説明します。

Info: iPhoneや iPod Touch などの小型画面でどのような画面デザインやワークフローの違い があるかについては、*Track View on iPhone or iPad Touch* の章を参照ください。

メイン画面は3つのパートに分かれます。ステータスバー、ビューエリア、タブ・バー。

機能	詳細
ステータスバー	ステータスバーは、デバイスごとに異なり、使用される iOS モバイルデバイ スのタイプによってさまざまな外観デザインとなります。 ここには、 Bluetooth、WiFi、バッテリーパワーのインジケータのような小さな情報アイ コンが表示されます。
ビューイングエリア	このエリアは、ステータスバーとタブ・バーの間に位置します。 Wingman アプリケーションの異なる画面ビューが表示されます。メイン画面はトラン スポート・ビューですが、他の画面も表示できます。 4 つのビューがあります。 ・Transport - 詳しくは、Transport View を参照。 ・Take List - 詳しくは、Take List View を参照。 ・Reports - 詳しくは、Reports View を参照。
	 About - 詳しくは、About View を参照。 ビューを選択するには: (タブ・バーにある)表示させたい機能のアイコンをタップします。
	メイン画面では、1本指で縦スワイプすることでマルチメータービューを表示することができます。詳しくは、Using Meter Views を参照ください。
タブ・バー	このバーは常にオン・スクリーンに表示されていて、4つのアイコンがあり ます。ユーザーインターフェースの異なる画面ビューにアクセスすることが できます。各アイコンに関連する画面が表示されているときに、該当アイコ ンが青色で表示されます。
	Transport Take List Reports About



トランスポート・ビュー

Transport View は4つのセクションに分けられて表示されます。

機能	詳細
Timecode	このセクション(以下に示される)は、現在のファイルネームと以下の情報 が表示されます。 ・ 大型タイムコード表示 ・ Sound Devices ロゴによるコネクションアイコン ・ 小型アブソリュートタイム表示 ・ タイムコードフレームレート 400BT04.WAV のの:28:03:15 29.97 ND 録音中、バーの背景色は赤色に変わります。 コネクション・アイコンの色は WM-Connect との接続状況により変わりま す。
Toolbar	ッールバー(下に表示)は4つの丸いボタンがあり、左から順に、Record、 Stop、Circle Take、False Take です。 詳細は、Using Trasport Controls と Designating Circle and False Takes の章を参照ください。
Metadata	このセクションは、Wingman ロゴとメタデータ編集用のテキストフィール ドがあります。現在のテイクとネクストテイクのシーンネーム、テイクナン バー、ノートなどのメタデータを編集できます。 Info: iPhone や iPod Touch では画面が小さい理由で、このセクシ ョンは有効ではありません。詳細は、Take List View の章を参照くだ さい。
Meters view	録音トラックのアーム/アーム解除、トラックネームの編集、ビューメータ ーのエリアです。 Wingman アプリは登録された3つのメータービューが提 供されます。 Wingman が接続される6シリーズミキサーのタイプによって メータービューが異なります。 詳細は Using Meter Views を参照ください。

6 シリーズミキサーへの接続

モバイルデバイスで Wingman が起動しているとき、Connection アイコンはタイムコード表示の左に 位置し、Sound Devices ロゴが表示されます。

アイコンの色はいくつかあり、モバイルデバイス上の Wingman アプリと6シリーズに装着されている WM-Connect Bluetooth®スマート USB アクセサリーとの間の接続状況によって色が変化します。

アイコンの色は次のような意味を持ちます。

色	アイコン	スタータス
グレイ	5	非接続時 – 非活動またはデバイスのスキャン中。
オレンジ	5	Bluetooth 接続の確立中。
イエロー	5	接続中。認証進行中。
グリーン	5	接続中。 認証されている。

WM-Connect が接続された 6 シリーズミキサーとの通信は、Bluetooth 通信が有効になっているデバイス上で Wingman アプリが開始されると自動です。 しかし、1 個以上の WM-Connect が電波受信可能範囲にあると、画面にデバイスがリスト表示されて、ミキサーを選択することができます。

Info: レコーダー側でリモートパスワードが設定されている場合、Wingman は接続開始する 前にパスワードを要求します。パスワードは保存され、同じレコーダーに次回接続時は パスワードを要求されません。



iPad Ҿ	5:11 PM		\$ 99% +
6 00:00:00:0	00:00:00:00		
	Devices Found		
	633 Serial #: LL0514227000	í	
CURRENT	664 Serial #: KA0312312000	(i)	NEXT
	688 Serial #: NR0115056005	(i)	
NOTES			NOTES
	Close		
	Transport Take List Reports About		

"Devices Found" リストを使用して、受信範囲内にある WM-Connect が装着されている 6 シリーズミ キサーを選択します。 範囲内にあるミキサーで他の Wingman アプリとすでに通信しているミキサー は、"Devices Found"リストには表示されません。

異なる6シリーズミキサーへ接続を切替えるには:

- 1. Connection アイコンをタップします。
- 2. 選択可能なデバイスをリストの中の他のミキサーを選択します。
 - Info: 同じモデルで複数のミキサーを使用しているプロダクション環境用に、Circled-Iアイコンをタップすることで、選択されたミキサーの LCD 画面に "Identifying from Wingman" と表示することで正しいデバイスの識別を助けます。

トランスポートコントロールの使用

録音進行中に、トランスポート・ビューはわずかに変化します。例えば、タイムコード表示の背景が、 REC ボタンの中央のドットと同様に赤色になります。

録音を開始するには:

▶ REC ボタンをタップします。

録音を停止するには:



➢ STOP ボタンをタップします。

録音が停止すると、RECボタンの中央のドットが白に変わり、STOPボタンの中央のドットが黄色に変わります。

サークル と フェイルス のテイク指定

ツールバーの Transport ビューに、Circle ボタンと False Take ボタンがあります。

サークルが実行されると、そのテイクのファイルネームに "at" シンボル(@) がつけられ、そのファ イルのメタデータの Circle 情報が "circled" にアップデートされます。 Circle ボタンを使って、現在 の録音したテイクだけにサークルを実行できます。 過去の録音テイクは、テイクリストでサークル状 態にすることができます。

Info: 現在のテイクを、録音進行中にサークル状態にすることはできません。

現在のテイクをサークル状態にするには:

➢ Circle ボタンをタップします。

前のテイクをサークル状態にするには:

 Take List アイコンをタップし、前のテイクを選択し、テイクの Info 画面からサークルのステータ スを編集します。

テイクを、フェイルス・テイクとして指定すると、そのテイクをミキサーの False Takes フォルダに移動し、テイクナンバーの番号を1つ減ります。録音完了した現在のテイクだけが、Transport ビューからフェイルス・テイクとして指定できます。

フェイルス・テイクとして現在のテイクを指定するには:

- 1. 録音を停止して、False Take ボタンをタップします。
- 2. ラストテイクの削除を確認するために、確認表示されるので、Delete を選択します。 現在のテイクはミキサーの False Take フォルダに移動します。



メータービューの使用

メイン画面の一部として、トラックネームがメーターに重ね合わせて表示されます。 Wingman では、 設定された3つのメータービューが Transport ビューの中で表示されます。

ほとんど場合、メーターは Transport ビューの中で縦に表示されます。しかし下図のように 688 や 664 で、L と R のバストラックが ISO トラックと共に表示されている時、ISOs (1-12)だけが縦に、L と R のバストラックは水平に表示されます。



縦メーターの下に(または水平メーターの左に)、長方形のラベルがトラック識別文字と共に表示されます。Lなら左バス、1なら入力1のように表示されます。ラベルの背景の色はトラックの on, off と録音アーム/録音アーム解除の状態によって変わります。

リミッターが動作中は各メーター上でリミッターのインジケータが表示されます。

Info: 688 のみ、MixAssit か Dugan のどちらかのオートミキサー機能が有効になっていると、 メーターに丸いアイコンが表示してアクティビティを示します。

切替可能な3つのメータービューは、Wingman が接続されているミキサーのモデルによってデザインが異なります。 しかしながら、切替可能なメーターを切替える手順は同じです。

メータービューを変更するには:

▶ メーター上で、1本指で上か下へ縦スワイプします。



次の表は、6 シリーズの各ミキサーに既に登録されているメータービューについて の説明です。

Mixer	Meter View	Description
688	LR, 1-12	12 ISO トラックと L,R バストラックを表示します。
	LR, X1-X6	L,R と X1-X6 の出力と、RTN-A,B,C を表示します。
	LR, X1, X2, RTNs	L,R,X1,X2 バストラックと RTN-A,B,C を表示します。
664	LR, 1-12	12 ISO トラックと L,R バストラックを表示します。
	LR, X1, X2, RTNs	L,R,X1,X2 バストラックと RTN-A,B,C を表示します。
	LR, 1-6	1-6 ISO トラックと L,R バストラックを表示します。
633	LR, X1, X2, 1-6	1-6 ISO トラックと L,R,X1,X2 バストラックを表示します。
	LR, 1-6	1-6 ISO トラックと L,R バストラックを表示します。
	LR, X1-X4, RTN	L,R,X1,X2 バストラックと X3,X4 出力を表示します。

トラックネームの編集

iPad のトランスポート・ビューで、メーターラベルの近くにトラックネームがメーターに重なって表示 されます。 これらのネームは、このビューから編集することができます。

Info: iPhone や *iPod Touch* では画面が小さい理由で、トランスポート・ビューにトラックネームは表示されません。 *iPhone* か *iPod Touch* 上のトラック・ビューからトラックネームの編集は可能です。 詳細は *Track View on iPhone or iPod Touch* を参照ください。

トラックネームを編集するには:

- 1. 編集したいトラックのメーターをタップします。
- 2. トラックネームを編集するために、オン・スクリーン・キーボードを使用します。
- 3. 変更を保存するために、Done をタップします。

Info: 画面のキーボード以外の場所をタップすると、変更を加えずに編集を終了します。

トラックのアーム/アーム解除

トラックの録音設定に関して、アームされている(赤色)かアーム解除されている(灰色)かを、メーターラベルの色で確認することができます。 もし入力チャンネルが Off になっていると、ラベルの背景色は黒です。

トラックをアーム/アーム解除するには:

 メーターラベルをタップします。 アームされると赤色になります。 入力チャンネルが On で、ア ーム解除されていると、図の Input 9、10のように灰色です。



Info: インプットかトラックがリンクされていると、メーターラベルは1つのラベルとして表示されます。 図では、L, Rバスと*Input 11 と 12 が*リンクされて*1 ブロックで表示*されています。

Info: Wingman から入力チャンネルの On/Off の切替をすることはできません。 チャンネルの On/Off は、ミキサー本体で操作してください。

テイクリスト・ビュー

Take List は次のテイク、現在のテイク、過去の 50 個までのテイクを、タイムコード値と共にファイル ネームで表示します。 もしテイクにサークルやノートが付加されていれば、それもリストに表示され ます。



テイクがサークル状態になっているかは、リストに大きな@シンボルがあるかで識別できます。また、 次のテイクと現在のテイクは、常にリストの上部に表示され、それぞれに識別しやすいアイコンが表示 されます。

Туре	Icon	Description
Next	8	次のテイク(next take)です。 テイクリストの最上部に位置します。
Current	*	現在のテイク(current take)です。録音中、もしくは録音完了時のテイクで、これは最後に録音されたテイクです。

テイクのファイル情報を見るには:

- 1. Take List アイコンをタップします。
- 2. テイクリストの中のテイクの1つをタップします。 選択されたテイクの Info 画面が、iPad 用に右 側に、小型 iOS デバイス用に全画面で表示されます。

テイクのメタデータを編集

現在のテイクか次のテイクのファイルネーム、シーンネーム、テイク番号を編集すると、それ以降に録 音されるテイクにも編集内容が引き継がれます。 前に録音されたテイクでこれらのフィールドを編集 すると、そのファイルだけが変更されます。

Info: テイクのファイルネームは、シーンネームとテイク番号によって動的に生成されます。 つまり、ファイルネームを直接編集することはできません。 シーンネームとテイク番 号を編集すると、自動的にテイクのファイルネームが変更されます。

Take List ビューから、テイクのメタデータを編集することができます。

Transport ビューのメタデータ・セクションから、現在のテイク、次のテイクのサークル、フェイルス・ テイク、シーンネーム、テイク番号、ノートの変更ができます。(下図は iPad の例です。) 録音中のシ ーンとテイク番号のフィールドのように、編集不可の場合はグレイアウトされます。



現在のテイク、次のテイクのメタデータを編集するには:

- 1. つぎのいずれかを操作します。
 - Transport ビューから、テイク番号のフィールドをタップし、バーチャル・キーボードで値を 編集します。
 - Take List ビューから、次のテイクまたは現在のテイクをタップし、テイクの Info 画面を表示 させます。 編集したいフィールドをタップし、バーチャル・キーボードで値を編集します。

レポート・ビュー

すべての6シリーズミキサーは、カンマで値が区切られた CSV 形式のサウンドレポートを生成することができます。 これらのファイルは、ミキサーに挿入されている CF カードか SD カードに保存されます。 この CSV 形式のファイルは、スプレッドシートと呼ばれる一般的な表計算ソフトで利用することができます。

iPad 후	2:56 PM	¥ 92% 🔜			
	Create Report				
19					
SOUND REPORT	OPTIONS				
Target Media	: CF				
Email:					
Email To:	support@sounddevices.com				
SOUND REPORT	INFO				
Project:	Wingman				
Producer:	Jon Doe				
Director:	Alan Smithee				
Job:	None				
Date:	System Date				
Location:	Wisconsin				
Sound Mixer	: John Q. Public				
Phone:	+1(800)505-0625				
E-Mail:	john_public@sounddevices.com				
Client:	Ordinary People				
Boom Op:	Joe Bloggs				
Prod.Co:	Sound Devices				
Prod.Co Tel:	+1(608)524-0625				
Mics:	None				
Comments:	Best job of my career!				
	din 🖆 📄 📀				

123

Wingman の Report ビューから、サウンドレポートのオプションの修正、サウンドレポートで使用されるヘッダ、サウンドレポートの作成ができます。

Info: ミキサーの Menu 設定 File Storage > Folder Options で、どのファイルがレポート を生成するために使用されるか、生成されるレポートが保存される場所であるカレン ト・レコード・ディレクトリをが決定されます。

サウンドレポートのオプションを修正するには:

- 1. Reports アイコンをタップします。
- 2. Sound Report オプション画面で、ターゲット・メディアを設定します。 設定オプションは、CF か SD です。 このオプションで、サウンドレポートが保存されるメディアが決定されます。
- 3. 両方の email プリファレンスを次のように設定します。

機能	詳細
Email:	Email の on か off。 on にしてある状態でサウンドレポートが作成さ
	れると、モバイルデバイスの email アプリケーションが開き、CSV ファ
	イルが自動的に新規作成メールに添付されます。 Off 設定ではサウン
	ドレポートがミキサーに保存されますが、email に添付されて送ること
	はありません。
Email To:	ここに登録された email アドレスは、サウンドレポート作成後に自動的
	に新規作成 email の宛先に適用されます。

サウンドレポートのヘッダを決定するには:

- 1. Report アイコンをタップします。
- 2. Sound Report の Info セクションで、リストから編集するためのヘッダを選択します。 ヘッダは 次のようなオプションがあります。 Project, producer, Director, Location, Client … など。
 - Info: いくつかのヘッダはあらかじめ設定されて提供されます。例えば、Roll は None または Mid-Level Folder に設定されています。 Date は3つのオプション None, System, User があります。System に設定されると、ミキサーのシステム日付がサウンドレポー トの中に使用されます。User に設定されると、サウンドレポートはアプリで設定された 日付を使用します。
- 3. 必要に応じて、値入力にバーチャル・キーボードを使用してください。
- 4. Done をタップします。
- 5. 上記手順 2-4 を繰り返します。

ミキサー上で Sound Report ヘッダを直接編集した時、ヘッダ用のオプションのリストの1つが作成さ れるべく新しいエントリーを追加することができます。 これは Wingman から編集するケースではあ りません。 新しいエントリーは作成されません。 ミキサーに設定されているヘッダの現在の選択を修 正することはできます。 もしフィールドに何も入力しないで保存されると、<None>オプションが使 用されます。

124

サウンドレポートの作成

Wingman から作成されたサウンドレポートは、ミキサー上に保存され、iOS デバイスから Email で送ることができます。

サウンドレポートを作成するには:

- 1. Reports アイコンをタップします。
- 2. 画面のトップにある Create Report ボタンをタップします。
 - ・ もし Email オプションが On になっていると、画面に開かれた Email にサウンドレポート(csv) ファイルが添付されます。
 - ・ もし Email オプションが Off になっていると、サウンドレポートの作成が成功したメッセージが 表示され、現在の wav ファイルが保存されるディレクトリに csv ファイルが保存されます。

Info: 録音中にレポートを作成することはできません。

ビューについて

About view は、重要な情報と Wingman アプリと6 シリーズミキサーの接続に関して表示します。

About view に含まれる情報:

- ・ Wingman アプリのバージョンナンバー
- ・ ビルドナンバー
- ・ WM-Connect バージョンナンバー
- ・ 6シリーズのモデルナンバー
- 6 シリーズのファームウェアナンバー

次のオンライン・リソースへのリンク情報も含まれます。:

- ・ WM-Connect Quick Start Guide(英文)
- Wingman User Guide(英文)
- 接続中の6シリーズミキサーのUser Guide(英文)
- ・ Sound Devices テクニカルサポートにアクセスする web ページリンク

スマートフォンのトラックビュー

Android か iOS ベースのモバイルデバイスの画面が小さいことから、Wingman のユーザーインターフェースは、iPad 上で表示されるものと若干異なります。 主な違いは Transport ビューにあり、小型画面ではトラックネームやメタデータセクションが表示されません。

この理由から、現在のテイクと次のテイクのメタデータ編集は、Take List ビューのみで行うことになります。小型 iOS デバイス上の Transport ビューの中で、メーターのサイズが小さくされているため、 トラックの編集・アーミングは、Transport ビューではなくセパレート Track ビューを介して操作する ことができます。 Transport ビューと Track ビューを切替えるには:

▶ 一本指を水平にスワイプします。



Track ビューに、タイムコード表示とトランスポート・ボタンのツールバーはありません。 そして、メ ーターは水平方向にフルスクリーンで表示され、トラックネームがメーターに重なって表示されます。

トラックネームを編集するには:

- 1. Transport ビューを表示状態で、左右にスワイプして Track ビューを表示させます。
- 2. 編集したいトラックのメーターをタップします。
- 3. バーチャル・キーボードを使ってトラックネームを編集します。
- 4. Done をタップして変更を保存します。

Info: キーボード以外の場所をタップすると、編集内容を保存しないで終了します。

録音トラックのアーム/アーム解除をするには:

- 1. Transport ビューを表示状態で、左右にスワイプして Track ビューを表示させます。
- 2. 設定変更したいトラックのメーターの左側に位置するメーターラベルをタップします。ラベルの背 景色が操作に応じて変わります。 アームされると赤色、アーム解除されると灰色になります。

Info: Input チャンネルが Off だと、ラベルの背景は黒色でアームすることはできません。

サードパーティリモートコントロール

サードパーティ製品 (Timecode Systems 社、 PureBlend Software 社、 Ambient Recording 社、 Lockit Network GmbH 社) とのコラボレー ションにより、Sound Devices 社は iOS と web ベースのモバイルデバイスを通して 6 シリーズ ミキサー (688, 664, 633) をワイヤレスリモー トコントロールする機能を提供します。

この章は、iOSとwebベースのワイヤレスリモ ートコントロールに必要なもの、それらの利点に ついての概要を説明します。詳細については、 サードパーティ製品の説明書を参照ください。

このセクションのトピックス

- > Control in the Palm of Your Hand
- > iOS Wireless Remote Control
- > Web-based Wireless Remote Control

127

Control in the Palm of Your Hand

6 シリーズミキサーを、容易で、大きなタッチスクリーンによる GUI によるリモートコントロールが可能となります。 録音現場において、柔軟性と快適な操作性を実現します。 iOS や web ベースデバイ スを通して、ワイヤレスリモートコントロールで、サウンドミキサーができることは以下です。

- ・ シーンネーム、テイク、ノートの編集。
- · 録音の開始/停止。
- トラックアームとトラックネームの編集。
- · サークル・テイク。
- · フェールス・テイク。
- ・ サウンドレポートの作成。
 - Info: ワイヤレスシステムが、実際のミキサー上サウンドレポートを作成できるわけではありませんが、リモ ートシステムが自身のアプリケーションのデーターベースを利用してサウンドレポートを作成するこ とができます。 ミキサー本体で作成できるサウンドレポートについては、このユーザーガイドの File Storage の章で、"Generating Sound Reports" を参照ください。

iOS ワイヤレスリモートコントロール

6 シリーズミキサーは、iPhone、iPad、iPod Touch などの iOS モバイルデバイスからのワイヤレスリ モートコントロールをサポートします。

ワイヤレス機能を利用するには、つぎのサードパーティ製品とソフトウェアが必要となります。

ハードウェア・ソフトウェア	詳細
:wave	Timecode Systems 社の:wave は、高精度タイムコードとゲンロックのジェネレータで、RFトランスミッターと WiFi 内蔵です。 Firmware v3.38 以降のバージョンが利用できます。
Tang das re Rome	タイムコード接続するには、:wave TC とミキサーの TC とを、5-pin Lemo ケーブルで接続します。
T	リモートコントロールには、TBC-40(9-pin LEMO と USB-B ケーブル Timecode Systems 社から購入できます。)を :wave の DATA ポート と 6 シリーズミキサーの USB ポートに接続します。
	ミキサーではなく、CL-12 に接続する時は、TCB-41 (9-pin Lemo と USB-A ケーブル [左図] Timecode Systems 社から購入できます。) か、USB-B [メス] と USB-A [オス] アダプター のどちらかを利用し ます。
MovieSlate	PureBlend Software 社による MovieSlate アプリで、App ストアから ダウンロードしてインストールできます。
	iOS 8,9, or 10 で、MovieSlate® v8.5 以降のバージョンが利用できます。
	また、MovieSlate 8 Pro の機能の一部としてオプションのプラグイン である Sound Department PRO も必要です。

Info: :wave のセットアップの方法については、Timecode Systems 社の説明書を参照ください。 MovieSlate app と Sound Department PRO プラグインについては、PureBlend Software 社の説明 書を参照ください。:

iOS ワイヤレスリモートコントロール

次の図は、直接、ミキサーに接続される場合です。



次の図は、直接、CL-12 に接続される場合です。



iOS リモート

これは、iPhone 上でアプリがどのように表示されるかの例です。



これは、iPad 上でアプリがどのように表示されるかの例です。

iPad Ҿ		-	5:08	РМ			59%
		E® Soun	1 Devices 688			16 Tracks	
0	Chart	Chat	Falsa Tala		M	Mix Left	
0	Start	Shot	Faise lake		î	MixL	
0					M	Mix Right	
					Ŕ	MixR	~
					Ą.		
1	CURRENTI 108ATO	3.WAV	INEXTI 108	ATO4.WAV	Î		
10	0 4 1	00	1004	04	ġ,		
IU	8A	03	108A	04	2		
6	CURRENT NOT	ε	NEXT	NOTE	Ĥ		
Commen			and the second second			Boom	
160	622	8	29.97	6/22/16		MORE IN	
					1	AI	
	<n< td=""><td>lone> <l< td=""><td>Daily> <none< td=""><td>></td><td>C H 7</td><td>Claria</td><td></td></none<></td></l<></td></n<>	lone> <l< td=""><td>Daily> <none< td=""><td>></td><td>C H 7</td><td>Claria</td><td></td></none<></td></l<>	Daily> <none< td=""><td>></td><td>C H 7</td><td>Claria</td><td></td></none<>	>	C H 7	Claria	
				1000 000 000 000 000 000 000 000 000 00		Gioria	
CF Card 62.51	GB 61.1 68		Sircle	Card 15.93 GB 15.1 GB	S F		ARM ALL
100		ERI AT	1 (22)	+1+		 截 ⑦	
ModeState	Data State C	192] [010 anters Multic	n Video Script I	Net Sound Dept	HIRDOV	Settras Hela	Chat

130

Web ベースのワイヤレスリモートシステム

6 シリーズミキサーは、web ベースによる PC、Mac、Android か iOS スマートフォン/タブレットな どのモバイルデバイスからのワイヤレスリモートコントロールをサポートします。

ワイヤレス機能を利用するには、つぎのサードパーティ製品とソフトウェアが必要となります。

ハードウェア・ソフトウェア	詳細
ACN-ML Master Lockit	Ambient®Recording 社の CAN-ML は、タイムコードマスター、ワイ ヤレスビデオプロキシサーバー、「オンセット」メタデータ同期ハブで す。 Firmware v4.10 以降のバージョンが利用できます。
MASTER LOCKIT ANAM Anamatika	タイムコード接続には、Master Lockit TC とミキサーを 5-pin Lemo ケーブルで接続します。
	MLC-HID (5-pin Lemo と USB-A ケーブル)を使って、Ambient の CAN-ML Master Lockit からミキサーの USB ポート(または、CL-12 の USB キーボード用ポート)に接続します。
	CL-12 ではなくミキサーへ直接接続する時は、USBA(メス)とB(オ ス)アダプターも必要です。
Web Browser	お客様のコンピュータまたはモバイルデバイスがウェブブラウザーと WiFi 機能を持っていることを確認してください。

Info: CAN-ML Master Lockit のセットアップ方法、web ベースでミキサーをコントロールする使い方に関 する詳細は、Ambient Recording 社の説明書を参照ください。

Web ベースのリモートの接続図



次の図は、直接、ミキサーに接続される場合です。

次の図は、直接、CL-12 に接続される場合です。



Web ベースのワイヤレスリモートシステム

これは、スマートフォン上で web インターフェースがどのように表示されるかの例です。



これは、PC上で web インターフェースがどのように表示されるかの例です。

Remote	Timecode	ACN Radar	Master Lockit Menu	
	TC: 00:1	8:26:12		
Stop			• REC	
Tracks				*
Current clip settings (033AT01.WAV)				
Scene 033A		Take		
Circled				
×		False take		



仕様

さまざまな製品に関する仕様をこの章で 確認することができます。 仕様には、入力、 出力、電源、環境のパラメータ、ミキサーの 物理的な寸法、重量が含まれています。

仕様は予告なしに変更されることがあります。

Sound Devices 社の製品に関する最新の情報 を得るには、www.sounddevice.com のウェブ サイトを訪れてください。 このセクションのトピックス

- > アナログ入力
- > デジタル入力
- > アナログ出力
- > デジタル出力/レコーダー
- > タイムコードとシンク
- > 電源 > 環境
- / ネス> 寸法と重量

アナログ入力

Name	DESCRIPTION	
Frequency Response	\cdot 10 Hz to 40 kHz ± 0.5 dB, -3dB @ 65 kHz (192 kHz sample rate, re 1 kHz)	
THD + Noise	0.09% max (1 kHz, 22 Hz-22 kHz BW, fader at 0, 0 dBu output)	
Equivalent Input Noise	·126 dBu (-128 dBV) maximum. (22 Hz - 22 kHz bandwidth, flat filter, trim control fully up)	
Inputs	· XLR-3F Mic: Active-balanced for use with ≤600 ohm mics · XLR-3F Line: Active-balanced for use with ≤2k ohm outputs · RTN (3.5 mm): Unbalanced stereo for use with ≤2k ohm outputs	
Input Clipping Level	0 dBu minimum (trim control fully down)	
Maximum Input Level	· XLR-3F Mic: 0 dBu (0.78 Vrms) · XLR-3F Line: +40 dBu (80 Vrms) · RTN (3.5 mm): +24 dBu (12.4 Vrms)	
Pre-Fader Input Limiters (Inputs 1-3)	+16 dBu threshold (fixed) 20:1 limiting ratio 1 mS attack time 500 mS release time	
Post-Fader Input Limiters (Inputs 1-6)	Adjustable threshold +4 dBu to +18 dBu 20:1 limiting ratio 1 mS attack time 500 mS release time	

High-Pass Filters	Sweepable 80 Hz to 240 Hz, 12 dE	3/oct at 80 Hz, 6 dB/octave at 240	Hz
	dBu 1.00		
	0.00		
	-1.00		
	-3.00		
	-4.00		
	-6.00		
	· Blue: 96 K full response · Yellow: 50 hz 192 K	· Green: 96 K 80 Hz · Red: 96 K 240 Hz	80000.00
Microphone Powering (each analog Input selectable)	 12 V Phantom: through 680 ohm 48 V Phantom: through 6.8 k res 	resistors, 10 mA per mic available istors, 10 mA per mic available	

デジタル入力

ΝΑΜΕ	DESCRIPTION
AES3	Balanced: 110 ohm
AES42	· AES42 Mode 1, provides +10 V Digital Phantom Power
Post-Fader Digital Lim- iters	 Adjustable threshold +4 dBu to +18 dBu 20:1 limiting ratio 1 mS attack time 500 mS release time

アナログ出力

ΝΑΜΕ	DESCRIPTION
Output Type	Line (XLR-3M): active balanced for use with ≥ 120 ohm inputs -10 (XLR-3M): active balanced for use with $\geq 10k$ ohm inputs Mic (XLR-3M): active balanced for use with ≥ 600 ohm inputs TA3 Mic/Line: active balanced, pin-2 and 3 driven, for use with $\geq 3k$ ohm inputs X3, X4 (3.5 mm): unbalanced, stereo, for use with $\geq 6k$ ohm inputs Headphones (1/4"): unbalanced, stereo, for use with 8-2k ohm headphones
Output Impedance (ohms actual)	 XLR-3M & TA3 balanced outputs: 100 ohms @ LINE, 3.2k ohms @ -10, 150 ohms @ MIC TA3 Mic/Line: 1k ohms X3, X4 (3.5 mm): 100 ohms Headphones (1/4"): 100 ohms
Maximum Gain	Master Outs (XLR-3M) @ LINE: 91 dB MIC Level Input; 51 dB LINE Level Input Master Outs (XLR-3M) @ -10: 77 dB MIC Level Input; 37 dB LINE Level Input Master Outs (XLR-3M) @ MIC: 51 dB MIC Level Input; 11 dB LINE Level Input X3/X4 Outs (3.5 mm): 77 dB MIC Level Input; 37 dB LINE Level Input Mic-In to L/R/X1/X2/X3/X4 (Mic): 51 dB
Headphone Max. Gain	· 107 dB (Mic Input) · 67 dB (Line Input) · 5 dB (RTN)
Line Output Clipping Level (1% THD)	20 dBu minimum with 10k load
Output Limiters	L/R and X1/X2, adjustable threshold from +4 dBu to +18 dBu, 1 dB steps 20:1 limiting ratio 1 mS attack time 500 mS release time

デジタル出力/レコーダー

Name	DESCRIPTION	
AES3 Output:	AES Out A,B on XLR-3M connectors 110 ohm, 2 V p-p, AES and S/PDIF compatible with RCA adapter	
Sampling Frequency	· 44.1 kHz · 88.2 kHz · 47.952 kHz · 96 kHz · 48 kHz · 192 kHz · 48.048 kHz · 192 kHz	
A/D	· 24 bit	
A/D Dynamic Range	114 dB, A-weighted, typical	
Input Delay	Adjustable 0-30 mS for each input in 0.1 mS steps	
Output Delay	Adjustable 0-10 frames for each output in 0.1 frame steps	
Media Type	Secure Digital Extended Capacity (SDXC) Secure Digital High Capacity (SDHC) Secure Digital (SD) CompactFlash (CF) FAT32 formatted (<32GB), exFAT for (>32GB), on-board memory card format- ting	
File Type	 Record: WAV (Broadcast Wave File format), polyphonic or MP3 Playback: WAV (Broadcast Wave File format), polyphonic or MP3 	
Sampling Clock Accuracy	± 0.2 ppm	

Timecode と Sync

Name	DESCRIPTION	
Modes Supported	Off Free Run External Rec Run 24h Run	
Frame Rates	23.976 · 29.97DF · 30DF 24 · 29.97ND · 30ND 25	
Accuracy	Ambient Generator: ± 0.2 ppm (0.5 frames per 24 hours) Holds TC clock for two hours after main battery removal	
Timecode Input	20k ohm impedance 0.3 V - 3.0 V p-p (-17 dBu - +3 dBu)	
Timecode Output	Output: 1k ohm impedance 3.0 V p-p (+12 dBu)	

電源

Name	DESCRIPTION	
External Power Supply	10-18 V on locking 4-pin Hirose connector, pin-4 = (+), pin-1 = (-) Mates with gold Hirose #HR10A-7P-4P (DigiKey# HR110-ND) or silver Hirose #HR10-7P-4P (DigiKey# HR100-ND) locking connector	
Internal Power Supply	 5-10 V range Accepts 6 AA-sized (LR6) batteries (NiMH rechargeable recommended) 	
	① There are similar sized 3+ V Lithium cells that are not compatible.	
PowerSafe	· 10 second power reserve	
Idle Current Draw	· 447 mA at 12 V (5.36W) - Inputs 1-6 powered on, SD and CF inserted	

環境

Name	DESCRIPTION
Operation and Storage	 Operating: -20° C to 60° C Storage: -40° C to 85° C 0 to 90% relative humidity (non-condensing)

寸法と重量

Name	DESCRIPTION
Size (H x W x D)	2.2 in x 9.4 in x 5.6 in 5.6 cm x 23.8 cm x 14.3 cm
Weight	2 lbs 9.4 oz (unpackaged, without batteries) 1.00 kg (unpackaged, without batteries)

CL-12 リニアフェーダーコントローラー

2 モデルある CL-12 リニアフェーダーコント ローラーは、6-シリーズミキサー/レコーダー のミキシング機能を大きく拡張するオプション・ アクセサリーです。

1 本の USB ケーブル接続で、CL-12 への電源 供給とコントロール用通信の両方が確率します。 6.3mm のヘッドフォンケーブルをミキサーに 接続すると、CL-12 でヘッドフォンをモニター できるだけでなく、CL-12 の筐体のグランド接続 の追加で静電気などの耐性に強くなります。

633 または 664 と使用する際は、CL-12 背面の DC Power In に micro USB ケーブルで給電す る必要があります。

> Info: CL-12の装着の手順は、CL-12 クィックスタートガイドを参照ください。

このセクションのトピックス

- > フロントとバックパネル
- > トップとサイドパネル
- > インプットの選択
- > PFL の使用
- > トリムレベルの調整 (688 only)
- > トリムレベルの調整 (644 only)
- > トリムレベルの調整 (633 only)
- > トリムレベルの調整
- > インプットチャンネルのルーティング
- > 出力とトラックレベルの調整
- > 出力メーターの設定
- > L, R, X1, X2 トラックのアーミング
- > 3-バンド EQ の使用
- > ハイパスフィルターの使用
- > トラックネーム
- > ユーザーボタンへの機能割り当て
- > CL-12の LED 輝度調整
- > 仕様

フロントとバック パネル

CL-12 のフロントとバックパネルには、さまざまな用途に数々の接続ポートがあります。 フロントパネルには3つのヘッドフォン出力(6.3mm と3.5mmの TRS ジャック)があります。



バックパネルには、688 と CL-12 を接続するために必要な 2 つのコネクター(USB とヘッドフォン)、 そして他のペリフェラル用のポートがあります。



機能	詳細
Light	外部の USB 照明装置を接続するための USB A コネクターです。 暗い環 境で CL-12 サーフェースを照らすために便利です。
Keyboard	USB キーボードを接続するための USB A コネクターです。コントロー ルとメタデータ入力に使用します。
	Info: 外部キーボードを接続する前に、MENU > System > USB Port が USB Host/Keyboard に設定されていることを確認してください。
Headphone Input	ミキサーの 6.3mm ヘッドフォン出力と CL-12 に接続するための 6.3mm ヘッドフォンジャックです。CL-12 のフロントにあるヘッドフ ォンジャックでモニターすることができます。静電気によるショックに 耐性を持たせるための低抵抗なグランド接続の 6.3mm - 6.3mm ケ ーブル (CL-12 に同梱)を使ってください。
DC Boost Input	CL-12 を 664 か 633 に接続するには、この micro USB ポート (5V)に 給電する必要があります。
	CL-12 と 688 の使用時に、消費電力の大きい USB キーボードを使う場合には、micro USB ポートへの給電を推奨します。また、CL-12 のボタンの輝度が暗く感じる場合にも DC ブースト入力が有効です。
To 6-Series Mixer	(CL-12 に同梱の)USB ケーブルを使って、ミキサーの USB B ポート と CL-12 の"To 6-Series" USB ポートを接続すると、CL-12 の電源供 給とコントロールを行うことができます。
	Info: CL-12 が接続されると、ミキサーに装着された CL-6 は無効です。

CL-12 のトップパネルには、直観的にミキシング操作を行うためのさまざまなコントロール(フェーダー、ボタン、LED)があります。

トップとサイド パネル

CL-12 のトップパネルには、直観的にミキシング操作を行うためのさまざまなコントロール(フェーダー、ボタン、LED)があります。



CL-12のトップパネルの各機能を説明するにあたって、3つのエリアに分けて解説します。

- ・ Top EQ と Output セクションで構成されます。
- ・ Left チャンネルストリップセクションで構成されます。
- ・ Right ヘッドフォンエンコーダ、トランスポート・コントロールなどさまざまなボタンで構成されます。





Top: EQ と Output セクション

ミキシング・サーフェースの上端には、EQ や Output 用のロータリー・コントロールと LED メーターと Power LED があります。



Info: 6 シリーズミキサーで有効なすべての機能が説明されてはいあMせん。詳細については、 *CL-12 Comparison Chart* を参照ください。

機能	詳細
EQコントロール	EQ セクションには4つのロータリー・エンコーダがあります。 これら 3 バンド EQ のコントロールは、LF ゲイン、MID 周波数/ゲイン、HP ゲインです。 Q ファクターとフィルタータイプなど、他の EQ パラメ ータは、CL-12 > EQ サブメニューで調整することができます。

機能	詳細
LED Output メーター	22 セグメントのメーターレベル用 LED があります。また、L, R, X1, X2 用の ARM と LIM の LED 表示もあります。
Power LED	CL-12 が 6 シリーズミキサーに USB ケーブルで接続されて電源が入っ ていると、緑色に点灯します。
Output コントロール	4つのロータリー・コントロールかポッドが、OUTPUT セクションにあ ります。Output や Track レベルを調整するだけでなく、ルーティング に使うためにあります。ノブを押して、ルートやアーム、回してレベル を調整します。

Left: チャンネルストリップ セクション

12 チャンネルストリップで構成される、ミキサー操作のメインとなるセクションです。 各ストリップ は、リニア・フェーダー、SEL、PFL ボタン、LED インジケータ、LED メーターで構成されます。 CL-12 の低レイテンシーのフェーダーで、正確なレベル調整と操作性を提供します。



Info: ミキサーごとの詳細な情報については、CL-12 Comparison Chart を参照ください。

機能	詳細
X1 Routing インジケータ	インプットチャンネルが X1 出力ヘルーティングされていると点灯し
	ます。
	• Off = \mathcal{U} -handblack has been been been been been been been bee
	・ 緑色 = プリ・フェーダー・ルーティング
	・ 黄色 = ポスト・フェーダー・ルーティング
L Routing インジケータ	インプットチャンネルが Left バスヘルーティングされていると点灯し
	ます。
	• Off = μ -handright handright of the observation
	・ 黄色 = ポスト・フェーダー・ルーティング
EQ LED	インプットチャンネルに EQ が適用されていると点灯します。EQ の LF,
	MID, HF のいずれかのバンドでゲインがゼロではない場合、選択されて
	いる Input の EQ LED が点灯します。

機能	詳細
R Routing インジケータ	インプットチャンネルが Right バスヘルーティングされていると点灯
	します。
	• Off = \mathcal{U} -handblack has been been been been been been been bee
	・ 黄色 = ポスト・フェーダー・ルーティング
X2 Routing インジケータ	インプットチャンネルが X2 バスヘルーティングされていると点灯しま
	す。
	• Off = \mathcal{V} -hardbare bound
	・ 緑色 = プリ・フェーダー・ルーティング
	・ 黄色 = ポスト・フェーダー・ルーティング
SELボタン	インプットチャンネルの選択/非選択か、複数のインプットチャンネル
	の調整に使用します。
	チャンネルが選択されているとき、各 SEL ボタンが点灯します。
	選択されていると、インブットチャンネルが L, R, X1, X2 にルートす
	ることができます。 また、On、アーム、ネームもできます。 さらに、
	ハイパスフィルター、フェース切替、EQが適用されます。
ON インジケータ	インプットチャンネルが On になると黄色に点灯します。
ARM インジケータ	アイソレート(ISO)トラックが録音できるようアームされていることを
	示すために赤く点灯します。
MIXASSIST インジケータ	ミックスアシストのオート・ミキシンクの状態を示します。 インフッ
	トかオーフンの時は緑色に点灯し、インフットかクロースで LED か消
PFL ホタン	インフット 1-12 の pre か post フェーターをヘッドフォンでモニター
	するための有効/非有効の不夕ンです。
リニア・フェーター	インノット 1-12 のホストノエーターレベルを低いレイテンシー ビゴン
	+16dB までコントロールできます。
	合ナヤンイルのリーアフェータークインはミキリーの Input Setting 画 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
	面に衣示されます。 SYSTEM > Fauer/Part Calibration メニューで、
	ノエーターの UUD 111 世で史止 しさま 9 。
	インプット 1-12 の フセグメントの LED で pro th port のフェーダー
	インノット 1-12 の、アビクスノトの LED C pie か post のフェーター レベルとロミッターを表示します
Right: ボタンと HP エンコーダ

ミキシング・サーフェースの右部分には、トランスポート・コントロールとさまざまな機能にすばやく アクセスするためのボタンがあります。 ボタン類は共通の機能にそってグループ分けされて配置され ています。

Info: ミキサーごとの詳細な情報については、CL-12 Comparison Chart を参照ください。

機能	詳細	ネーム	詳細
トランスポート・		Record	CL-12 が装着されていて、ミキサーのトラ
コントロール			ンスポート・コントロールが通常モードで、
			録音を開始するとバックライトの点灯が切
			り替わります。
		Stop	録音や再生の停止をするとバックライトの
			点灯が切り替わります。また、停止中にネ
			クスト・テイクのファイル名を見るために
			STOPを押します。
チャンネル		Info: チャン	ノネルセレクトルーツは、現在選択されている
セレクト ツール	$[\bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc \bigcirc$	チャンネルを	
		ON	
			ON の時、ON LED か更巴に只知します。
		ARIM	
		NAME	小、(ଲ/) 06 9。 現在選択されているチャンネルのトラック
		NAME	ネームを表示・編集するために押します。
			このネームは録音されたファイルのメタデ
			ータに反映されます。
			Info: この機能は1つのインプットが選択さ
			れているときだけです。複数のインプットが
			選択されている時に NAME ボタンを押す
			と、警告画面(インプットを1つだけ選ぶよう
			に)が表示されます。
		HPF	ハイパスフィルターの On / Off をトグル
			切替します。
		Phase	フェーズ(位相反転)の On / Off をトグ
		(φ)	ル切替します。 反転すると、PHASE ボタ
			ンがオレンジ色に点灯します。

機能	詳細	ネーム	詳細
メタデータ コントロール		Info: CL-12 画面上のバー	? の背面に市販の USB キーボードを接続するか、 -チャルキーボードを使って、メタデータ入力を編
	BCENE TAKE WOTES	集することがて	<i>ぎきます。</i>
		すべての編集 アップデートさ	は、ファイルの中のメタデータとファイルネームへ れます。
	2-1. Dolte	SCENE	録音中に押されると、現在のシーンネーム
			を表示・編集できます。停止中に押される
			と、次のシーンネームを編集できます。
			SCENE をもう 及押すて補未が適用され ます。
		TAKE	録音中に押されると、現在のテイク番号を
			表示・編集できます。停止中に押されると、
			次のテイク番号を編集できます。TAKE を
		NOTEC	もう一度おすと編集が適用されます。
		NOTES	球目中に押されるこ、現任のテイクノート を表示・編集できます。停止中に押される
			と、次のテイクノートを編集できます。
			NOTES をもう一度押すと編集が適用され
			ます。
			Info: NOTES ボタンを 1 秒間押し結ける
			と、フレーズリストが表示されます。
		INC	ボタンが押されると、File Storage >
			Scene Increment Mode で設定された法
			則でシーンネームが増えます。
		FALSE	最後のテイクを False Takes フォルタに移 動し、次のテイク番号が1つ減らされます。
		@	現在のテイクのサークル状態をトグル切替
			します。サークル状態になるとファイルネ
			ームにしょークかうき、メタテータにも circled が記述されます。
ファースト	\frown	U1, U2, U3	ユーザーが設定できるボタンです。これら
アクセス			は CL-12 のサブメニューでさまざまな機
			能を割り当てることができます。
	(T) 🛛 (T)	SuperSlot	SL-6 レシーバーオブションか装着されて
			に表示します。
		ТС	Timecode Jam メニューをディスプレイに
			表示します。
COM & Return		RTN A,	押されたボタンに相当するリターン入力を
	RTN A RTN B RTN C	RTN B,	ハットノオンビモ_ダーするごとかどきま す
		COM RTN	 ヘッドフォンで COM リターン入力をモニ
			ターすることができます。
		COM1,	選択された COM (1 か 2) を有効にします。
	(COM 1) (COM 2)	COM2	Infor両方同時に姆作すスマンセブキキ
			11110. 回り回回に床TF9ることもできま す。
Meters &		METERS	ミキサーにある METERS ボタンと同じ役
Menu	(METERE) 🚱 (MENU)		割です。
		MENU	ミキサーにある MENU ホタンと同じ役割 です
			C 7 °

変更される機能

CL-12が6シリーズミキサーに接続されたとき、いくつかのミキサーの機能が変更されます。次の表は、 影響を受けるミキサーと機能について示しています。

機能	688	664	633
CL-12 サブメニュー。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
ロータリーフェーダー(1-6)の無効。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
ロータリーフェーダー(7-12) が(7-12)のトリム調整になる。	\checkmark	-	該当せず
SELECT エンコーダによる L, R, X1, X2 の調整が無効。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
CL-6 ロータリーフェーダー(7-12) の無効。	\checkmark	\checkmark	該当せず

機能比較表

CL-12 機能	688	664	633
リニア・フェーダーの数	12	12	6
Micro USB 電源接続による DC Boost	可	必要	必要
3-band セミパラメトリック イコライザー	\checkmark	-	_
MixAssist メーターとコントロール	\checkmark	-	-
SuperSlot コントロール	\checkmark	-	-
COMs	1 & 2	1	-
Returns	A,B,C	A,B,C	А
Slate + Tone (ユーザー定義ボタンによる)	\checkmark	\checkmark	\checkmark
SL-6 ルーティング (ユーザー定義ボタンによる)	\checkmark	-	-
LR, X1, X2 トラックレベルのメーターとコントロール	\checkmark	\checkmark	\checkmark
LR, X1, X2 出力レベルのフィジカルコントロールとメーター	\checkmark	_	-
7 セグメント PFL メーター と Limiter 動作表示	\checkmark	\checkmark	\checkmark
チャンネルの On / Off	\checkmark	\checkmark	\checkmark
ヘッドフォンレベルとプリセット	\checkmark	\checkmark	\checkmark
HPF コントロール	\checkmark	7-12 のみ	\checkmark
インプット・フェーズ コントロール	\checkmark	Ch 2,4,6	Ch 2
インプット PFL と SEL コントロール	\checkmark	\checkmark	\checkmark
LR,X1, X2 へのインプット・ルーティング	\checkmark	\checkmark	\checkmark
Menu コントロール	\checkmark	\checkmark	\checkmark
メタデータコントロール	\checkmark	\checkmark	\checkmark
トラックアーミングとネーミング	\checkmark	\checkmark	\checkmark
トランスポートコントロール	\checkmark	\checkmark	\checkmark
USB ペリフェラル (照明とキーボード)	\checkmark	\checkmark	~
ユーザー定義ボタン (U1,U2, U3)	\checkmark	\checkmark	\checkmark

CL-12 サブメニュー

CL-12 がミキサーに接続されている時、Main メニューには新たに CL-12 サブメニューが追加されます。 メニューの中のオプションは接続されるミキサーの型番によって変わります。 例えば、下図の左は 688 に接続されたときのものです。 右側は 664 または 633 に接続されたときのものです。

CL-	12 🛱	CL-12	B
1. L-X2 Level Controls	Adjust Output Level	1. User Button 1	Take List
2. L-X2 Metering	Meter Output Level	2. User Button 2	Take List
3. EQ		3. User Button 3	Take List
4. User Button 1	Take List	4. LED Brightness	60 %
5. User Button 2	Take List	5. SEL follows PFL	Enable
6. User Button 3	Take List		
7. LED Brightness	60 %		
8. SEL Follows PFL	Enable		

機能	詳細
L- X2 Level Controls	レベルコントロール・ノブを output か track のどちらのレベルを調整
	するか設定します。
L- X2 Metering	LED メーターに表示されるソースを、output か track のどちらかに設
	定します。
EQ	EQ に関するサブメニューを表示します。
User Button 1	U1 ボタンの機能を設定します。
User Button 2	U2 ボタンの機能を設定します。
User Button 3	U3 ボタンの機能を設定します。
LED Brightness	CL-12 の LED 輝度を設定します。
SEL follows PFL	PFL ボタンが押されたときに、そのインプットチャンネルを自動的に選
	択するかを設定します。Enabled に設定すると、PFL が押された時に
	PFL ボタンと SEL ボタンの両方が点灯します。

1つ以上のインプットチャンネルを選択

インプットチャンネルは個別に選択することと、まとめて調整するためにグループとして選択することができます。 1つか複数のインプットチャンネルを、グループに選択されたものに追加することができます。 インプットチャンネル (1つ)の SEL ボタンが選択された時に調整できるパラメータは、ON, ARM, NAME, HPF, PHASE, EQ, (L,R,X1,X2 への)ルーティング です。

Info: NAMEとEQは、1つのチャンネルだけしか調整できません。

インプットチャンネル(1つ)を選択するには:

- ➢ SELボタンを押します。
 - Info: SEL ボタンをもう一度押すか、他のチャンネルの SEL ボタンを押すと、最初に選択されたチャンネルの選択が解除されます。

複数のチャンネルを選択するには、つぎのいずれかを操作します:

- ▶ 複数の SEL ボタンを同時に押します。
- ▶ SEL ボタンを1つ押したまま、複数選択したい他のインプットの SEL を押します。

Info: 点灯している SEL ボタンを1つ押すこと、グループが同時に解除されます。

選択されたグループへさらにインプットチャンネルを追加するには:

▶ 点灯している SEL ボタンのどれか1つを押しながら、追加したい SEL ボタンを押します。

PFL の使用

Pre-か Post-フェーダーリッスンは、1つのインプットが有効になります。

インプットの PFL をモニターするには:

PFLボタンを押します。

PFL の動作モードは2つあります: モーメンタリとラッチ

機能	詳細
モーメンタリ	PFL ボタンを1秒以上押し続けると、PFL ボタンがリリースされない限
	り PFL モニターがアクティブのまま保持されます。 ミキサーの LCD デ
	ィスプレイは変更されません。
ラッチ	PFL ボタンがすばやくタップされると、PFL がもう一度タップされるま
	でラッチされます。 PFL 機能が有効になると、PFL ボタンが点灯し、
	PFL ボタンの押されたチャンネルの入力設定画面が LCD 画面に表示さ
	れます。

PFL に SEL 選択を追従させる設定

CL-12 は、PFL ボタンが押された時にそのインプットチャンネルが自動的に選択されるよう SEL ボタン が追従するように設定できます。 PFL に SEL が追従することで、PFL、入力設定画面、EQ、ルーティ ング、チャンネルセレクトツールにすばやくアクセスできるようになります。 この機能を無効にする こともでき、PFL と SEL が独立するように設定できます。

PFL に SEL が追従するモードの設定:

- 1. MENU を押します。
- 2. CL-12 > SEL follow PFL を選択します。
- 3. オプションで、Enable か Disable を選択します。

6 シリーズでの Trim レベル調整

688 か 664 でインプット 1~6 は、CL-12 が接続されていても Trim レベルはミキサー本体で調整され ます。 同じように、633 のインプット 1~3 も CL-12 が接続されていても Trim レベルはミキサー本体 で調整されます。

しかし、他のインプットに関しては、CL-12 が接続されているときに、6 シリーズミキサーごとに異なる設計になっています。 例えば、688 のインプット 7 の Trim 調整方法は、664 のそれとは異なります。

688 のインプット 7-12、664 のインプット 7-12、633 のインプット 4-6 の Trim レベル調整の詳細に ついては、後述の章で説明します。

Trim レベルの調整 (688 only)

CL-12 が 688 に接続されている時、688 のミニ・フェーダーは Input 7-12 のトリムコントロールとして機能します。

Input 7-12のトリムレベルを調整するには:

- 688の任意のミニ・フェーダーを回します。トリムゲイン値は LCD 画面に表示される入力設定画面で確認することができます。
 - Info: インプット1-6用のトリムは、CL-12の 接続に関係なく688本体のトリムコン トロール・ノブで調整します。



Trim レベルの調整 (664 only)

CL-12 が 664 に接続されている時に Input 7-12 のトリムレベルを調整するには、入力設定画面から SELECT エンコーダを使用します。

Input 7-12 のトリムレベルを調整するには:

- 1. 688 の PFL スイッチを操作して、入力設定画面に入ります。(SELECT ノブを押す必要があるかも しれません。)
- 2. SELECT エンコーダを回して、トリムレベルを調整します。 トリムゲインの値はミキサーの LCD 画面に表示されます。

Trim レベルの調整 (633 only)

CL-12 が 633 に接続されている時、633 のミニ・フェーダーは Input 4-6 のトリムコントロールとして機能します。

Input 4-6 のトリムレベルを調整するには:

- 633の任意のミニ・フェーダーを回します。トリムゲイン値は LCD 画面に表示される入力設定画面で確認することができます。
 - Info: インプット1-3 用のトリムは、CL-12の 接続に関係なく633本体のトリムコン トロール・ノブで調整します。



インプットチャンネルのルーティング

CL-12 で、インプットチャンネルからミキシングバス(L, R, X1, X2)へすばやく簡単にルーティング することができます。

1つのチャンネルまたは複数チャンネルをルーティングするには:

- 1. 次のどちらかを操作します。
 - ▶ インプットチャンネルの SEL ボタンを押します。
 - ▶ SELボタンを複数押した状態にして、複数チャンネルを選択します。
- 2. L, R, X1, X2 のアウトプット・ノブを押して、それぞれのバスヘルーティングします。

X1 と X2 に関して、ピックアップポイントを pre-か post-フェーダーに設定できます。X1 かX2 のアウトプット・ノブを何度も押すことで、 Off, Pre-Fade, Post-Fade の設定が順繰りに変わります。 プリフェーダーでルーティングすると、X1 と X2 の LED が緑色に点灯し、ポストフェーダーでルーティングすると黄色に点灯します。

- Info: アウトプット・ノブの L, R, X1, X2 のいずれか1つを押しながら、インプットの SEL を押すことでもルー ティングすることができます。
- Info: 688 上の PAN コントロールは、インプット 1-6 が常に L と R の両方のバスにルーティングされてい るので、常にパンニング操作できます。 つまり、CL-12 が 688 に接続されることに関わらず、イン プットの PAN ノブの角度が常に影響します。

Output か Track のレベル調整

CL-12 は、OUTPUTS とラベルされた4つのロータリー・コントロールがあり、アウトプットかトラックのレベルのどちらかを調整するよう、メニューから設定することができます。

633 と 664 では、CL-12 の出力レベルコントロールが、L, R, X1, X2 のトラックレベルコントロール に使用されます。

688 では、CL-12 の出力レベルコントロールを、L,R,X1,X2 のトラックレベルまたは出力レベルのどちらかに設定することができます。

CL-12 アウトプット・ノブの機能を設定するには:

- 1. MENU を押して、688 のメイン Menu にアクセスします。
- 2. CL-12 > L X2 Level Controls を選択します。
- 3. 2つのオプションから選択します。: Adjust Output level か Adjust Track Level



レベルを調整するには:

(L, R, X1, X2 の) 調整したいレベルに相当するアウトプット・ノブを回します。調整中のレベル値は、LCD 画面のヘッドフォン・フィールド上に表示されます。

Info: L と R がリンクされている時、L のノブが L/R アウトプットペアのレベルをコントロールします。X1 と X2 がリンクされている時、X1 のノブが X1/X2 両方をコントロールします。リンクされている時は、R と X2 のノブは無効です。(アウトプット・リンクの設定は OUTPUT メニューで行います。)

出力メーターの設定 (688 only)

CL-12の LED アウトプットメーターは、L, R, X1, X2のアウトプットかトラックのどちらかのレベル 表示に設定できます。

CL-12 アウトプットメーターを設定するには:

- 1. MENU ボタンを押して、688 のメイン Menu にアクセスします。
- 2. **CL-12 > L X2 Metering** を選択します。
- 3. 2 つのオプションのどちらかを選択します。: Meter Output Level か Meter Track Level

Output コントロールの無効

CL-12 が接続された 6 シリーズミキサーは、不意な誤操作によるレベルが変わることを防ぐために、 Menu オプションから、CL-12 上の L, R, X1, X2 の出力レベルコントロール用ロータリーノブを無効に することができます。

CL-12のOutput コントロールを無効にするには:



- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. CL-12 > L-X2 Gain Pots を選択します。
- 3. Off を選択します。 工場出荷時設定は On です。
 - Info: 「無効」に設定したとしても、コントロール・ポッドを押しての L, R, X1, X2 へのルーティング設定は まだ可能です。 また CL-12 Output コントロールの無効がミキサー上のコントロールには影響を 与えません。ミキサー本体からの操作で出力をアッテネートすることができます。

L, R, X1, X2 トラックのアーミング

CL-12 で、L, R, X1, X2 を録音用のアーム、あるいは非アームに設定することができます。

L, R, X1, X2 トラックを録音用にアームするには:

- 1. ARM ボタンを押したまま、
- 2. アームしたいアウトプットトラックに相当するアウトプット・ノブを押します。 アームされると、レベルメーターの左側にある ARM LED が赤く点灯します。

3 バンド EQ の使用 (688 only)

CL-12 を接続すると、688 で 3 バンド EQ を使用でき、CL-12 から EQ を調整することができます。 EQ はサンプルレートが 48.048 kHz 以下でのみ使用できます。

- ・ LF は +/- 12 dB ゲイン調整可能です。 デフォルトは 100Hz に設定されていますが、EQ サブメ ニューで、60~300Hz まで 10Hz ステップでチャンネルごとに周波数を変更することができます。
- ・ MID は +/- 12 dB ゲイン調整可能で、周波数は 100Hz ステップで 400Hz~6kHz まで FREQ ノ ブにより調整できます。
- ・ HFは +/- 12 dB ゲイン調整可能で、デフォルトは 10kHz に設定されていますが、EQ サブメニ ューで、8k~16kHz まで 1kHz ステップでチャンネルごとに周波数を変更することができます。
 - Info: 688 から CL-12 の USB ケーブルを抜いたとしても、EQ セッティングは保持されたまま調整できな い状態になります。 LCD 画面の "Press OK to continue without the CL-12" のメッセージが消 えると、EQ 無し(CL-12 無し)の 688 単品で動作します。

選択されたインプットの EQ を調整するには、次のいずれかの操作をします:

- ▶ 低域 EQ ゲインを調整するために、LF エンコーダを回します。
- 中域 EQ の周波数を調整するために、FREQ エンコーダを回します。
- ▶ 中域 EQ ゲインを調整するために、MID GAIN エンコーダを回します。
- ▶ 高域 EQ ゲインを調整するために、HF エンコーダを回します。

3 バンドの EQ のいずれかのゲインがゼロではない時、各インプットの SEL ボタンの上にある EQ LED が青色に点灯して、チャンネルに EQ がかかっていることを示します。

インプットに LF の EQ 効果がある場合、 LF LED がオレンジ色に点灯します。

インプットに MID の EQ 効果がある場合、 MID LED が黄色に点灯します。

インプットに HF の EQ 効果がある場合、 HF LED が緑色に点灯します。



154

インプットに EQ 効果がある場合、SEL ボタンの押されたチャンネルの EQ 情報がミキサーの LCD 画面 にも表示されます。 下図の例では、Channel-1 に EQ が適用されていて、LF が +10dB、MID EQ が バイパスされ、HF が -10dB です。この例では、ハイパスフィルターはオフ、Q ファクターは 1.0 で、 LF と HF の両方の設定は(シェルビングではなく)ピーキングです。



複数のインプットに関して EQ を同時に調整することはできません。 複数チャンネルの SEL が選択されている時、EQ の調整は、最後にグループに追加されたチャンネルにだけ反映されます。

Info:

EQの状態を変更せずに EQ グラフだけ確認したい場合は、インプットの SEL ボタンを押しながら EQ エンコーダのいずれかを押してください。

Info: EQ の状態を変更せずに EQ グラフだけ確認したい場合は、インプットの SEL ボタンを押しながら EQ エンコーダのいずれかを押してください。

EQ のサブメニューヘアクセス

Q ファクター、EQ ルーティングなど EQ に関するさまざまな設定は、EQ サブメニューで設定することができます。

EQ サブメニューにアクセスするには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. **CL-12 > EQ** を選択すると、EQ サブメニューが表示されます。

EQ	E
1. Q-Factor	1.0
2. LF Freq	
3. HF Freq	
4. LF Filter Type	
5. HF Filter Type	
6. EQ Routing	Prefade

機能	詳細
Q ファクター	設定値は 0.707, 1.0, 1.414, 2.0 の4種です。設定はすべての EQ バ
	ンドに反映されます。
LF 周波数	可変範囲は、60Hz~300Hz です。 デフォルトは 100Hz です。 チャ
	ンネルごとに個々に設定できます。
HF 周波数	可変範囲は、8kHz~16kHz です。 デフォルトは 10kHz です。 チャ
	ンネルごとに個々に設定できます。
LF フィルタータイプ	Peaking か Shelving に設定できます。 チャンネルごとに個々に設定
	できます。
HF フィルタータイプ	Peaking か Shelving に設定できます。 チャンネルごとに個々に設定
	できます。
EQ ルーティング	Pre-fade か Post-fade に設定できます。 設定はすべてのチャンネル
	に反映されます。

EQ のバイパス

必要に応じて、ゲイン値をゼロに戻さずに、テンポラリーにすばやく EQ を無効にすることができます。 EQ 画面には、バイパスされたバンドに BYPASSED ラベルが表示されます。

EQ をバイパスするには次のいずれかを操作します。:

- ▶ LF エンコーダを押します。
- > FREQ か GAIN のエンコーダを押します。
- ➢ HF エンコーダを押します。

これらの操作によって、バイパス(=ゲイン 0dB)と最後の EQ 設定値 をトグル切替します。同じエンコーダが 2回押されると、その EQ バンドのバイパスが解除されて元の EQ 設定値に戻ります。 EQ バンドがバイパスされると、押されたエンコーダの近くの LED が消灯します。

Q ファクターの設定

Qファクターは、イコライザーによってブースト/カットされる周波数帯域幅をコントロールします。

Q ファクターを設定するには:

- 1. MENU を押します。
- 2. **CL-12 > EQ > Q-Factor** を選択します。
- 3. つぎのオプションから1つを選択します: 0.701, 10, 1.414, 2.0

Q ファクターの数値が小さいと広いバンドワイズとなり、EQ による効果が広い周波数帯域に影響します。 数値が大きいと狭いバンドワイズとなり、EQ 調整がより幅狭くなります。

例えば、下の2つの図は、CH-1 に 10dB LF ピーキングフィルターが適用されたものです。 しかし、 左図は Q ファクターが 0.701 で、右図は 2.0 です。



LFとHP周波数のデフォルト値

LF のデフォルトは 100Hz で、HF のデフォルトは 10kHz です。しかし、両方の周波数設定は個々の インプットごとに EQ サブメニューで調整することができます。

LFとHF周波数を調整するには:

- 1. MENU を押します。
- 2. **CL-12 > EQ** を選択します。
- 3. 次のいずれかを操作します。
 - ▶ LF Freq を選択し、新しい値を設定します。 設定値は、60Hz~300Hz まで 10Hz ステップで調整できます。
 - ▶ HF Freq を選択し、新しい値を設定します。 設定値は、8kHz~16kHz まで 1kHz ステップで調整できます。

LF と HF のフィルタータイプ

CL-12の EQ には、ピーキングとシェルビングの2タイプのフィルターがあります。これらはチャンネルごとに個々に設定することができます。

機能	詳細	詳細
Peaking	HPEOFF CH-1: EQ	ピーキングフィルターは、(台形かピークカーブの)ブーストか、特定の周波数域をカットすることができます。ピークの広がりは Q ファクター値に依存します。
Shelving	LF: 10dB 3.2kHz MID 0dB HF: 10dB	 シェルビングフィルターは、特定の周波数ポイントから上(または下)に傾斜したまま、ブースト/カットのレベルが保持されます。 参考図は、シェルビング(LF)とピーキング(HF)の両方を示しています。

LF と HF フィルターのタイプを設定するには:

- 1. MENU を押します。
- 2. **CL-12 > EQ** を選択します。
- 3. 次のいずれかを操作します。
 - ▶ LF Filter Type を選択し、各インプットを Peaking か Shelving に設定します。
 - ▶ HF Filter Type を選択し、各インプットを Peaking か Shelving に設定します。

EQ ルーティングの設定

EQ は、pre-fade か post-fade に適用されます。 この設定はすべてのインプットにグローバルに影響します。

EQ ルーティングを設定するには:

- 1. MENU を押します。
- 2. **CL-12 > EQ > EQ Routing** を選択し、Pre-fade か Post-fade のどちらかに設定します。

High-pass フィルターの使用

CL-12 のハイパスフィルター(HPF)ボタンは、フィルター機能の On / Off をトグル切替します。選択されたインプットで HPF を On にすると、設定されている HPF 値のフィルター効果がかかります。 ハイパスフィルターの周波数は、688 のチャンネルの入力設定画面から調整することができます。

HPFのOn/Off と周波数の調整:

- 1. SEL ボタンを押して、HPF を設定するチャンネルを選択します。
- 2. HPF ボタンを押します。 (HPF 機能を有効にすると、HPF ボタンが点灯します。)
- 3. ハイパスフィルターが有効になると、ミキサーの LCD 画面に EQ 画面が表示されます。 HP エン コーダを回すと HPF の周波数値が変更され、EQ 画面の中の情報や入力設定画面の HPF 設定値に 反映されます。

Info: HPF ボタンをもう一度押すと、ハイパスフィルターをオフ(無効)にできます。

トラックのネーム

インプットチャンネルはそれぞれのアイソレートトラックに直結して変更できません。インプットネームは同時にトラックネームです。 ネーミング機能は一度に1つの選択されたインプットにだけ適用されます。 複数のインプットが選択された状態でネーム変更しようとすると、「続けるには1つのインプットを選択してください」とメッセージが表示されます。

録音中に、現在のテイクのトラックネームを変更することができます。現在のテイクのトラックネームへの編集内容は、次のテイクとそれに引き続く録音にも適用されます。 録音停止した後にトラックネームを編集すると、Next Take に反映されます。

トラックネームの編集に入るには:

- 1. インプットを1つ選択してから、NAME ボタンを押します。 LCD 画面のメータービューに、トラックネームリストが表示されます。
- 2. つぎのいずれかを操作します。
 - ▶ 現在のエントリーを編集するために、Edit Entry を選択します。
 - ▶ 新しいトラックネームを入力するために、Add New entry を選択します。
 - ▶ リストからネームを選択します。

ユーザーボタンへの機能割り当て

CL-12 には3つのユーザーボタンがあり、さまざまな機能とメニューにすばやくアクセスできるように プログラムすることができます。

U1 – U3 ボタンにプログラムするには:

- 1. MENU を押します。
- 2. CL-12 > User 1-3 buttons を選択します。
- 3. ボタンに、割り当てたい機能を設定します。

機能	詳細	688	664	633
Take List	テイクリストの画面を表示。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
File List	ファイルリスト画面を表示。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
Play	PLAY と Pause を切替。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
FFWD	FF(早送り)か Next File(次のファイル)	\checkmark	\checkmark	\checkmark
REW	REW(早戻し)か Previous File(前のファイル)	\checkmark	\checkmark	\checkmark
Slate	スレートの On / Off	\checkmark	\checkmark	\checkmark
Tone	トーンの On / Off	\checkmark	\checkmark	\checkmark
FAV	688 本体の FAV スイッチと同じ。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
Select	688 本体の Select エンコーダ押しと同じ。	\checkmark		\checkmark
Default Playback Card	ショートカット: FILES STORAGE > Default Playback	\checkmark	\checkmark	\checkmark
	Card			
Power Menu	POWER 設定の表示。	\checkmark		\checkmark
Input Delays	インプットディレイ画面の表示。	\checkmark		\checkmark
Output Delays	アウトプットディレイ画面の表示。	\checkmark		\checkmark
LR Linking	LとRのリンク切替。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
X1/x2 Linking	X1 と X2 のリンク切替。	\checkmark	\checkmark	\checkmark
Auto Mixer	MixAssit か Dugan の On / Off	\checkmark		\checkmark
Return Loopback	3つのオプション: RTN A, B, C のいずれかでリターンル	\checkmark		\checkmark
Mode A-C	ープバックモードに入る。			
SALTE ROUTING	スレート・ルーティング画面の表示。	\checkmark	\checkmark	\checkmark

Info: 収録作業中にすばやくトラックネームを設定するために、事前にネームリストに登録しておくとよい でしょう。

機能	詳細	688	664	633
TONE ROUTING	トーン・ルーティング画面の表示。	\checkmark		\checkmark
Timecode Menu	Timecode/Sync メニュー画面の表示	\checkmark	\checkmark	\sim
Daylight Mode	デイライトモードの切替(サマータイム)	\checkmark	\checkmark	~
Create Sound Report	(.CSV)ファイルによるサウンドレポートの作成	\checkmark	\checkmark	~
Sound Report Info	サウンドレポート情報の表示。	\checkmark	\checkmark	\sim
X1-X6 Routing	SL-6 ルーティング画面の表示。	\checkmark		(~)
AES Routing	AES アウトプットルーティング画面の表示。	\checkmark	\checkmark	\sim
EQ Menu	ショートカット : CL-12 > EQ サブメニュー	\checkmark		
LF Freq	EQ LF 周波数設定の表示。	\checkmark		
HP Freq	EQ HF 周波数設定の表示。	\checkmark		

CL-12の LED 輝度調整

CL-12の操作環境(照明や天候)にあわせて、CL-12上で点灯する LED の輝度を調整することができます。

LED 輝度を調整するには:

- 1. MENU ボタンを押します。
- 2. LED Brightness を選択します。
- 3. HP エンコーダを回して、5%~100%まで 1%ステップで調整します。

Info: CL-12の背面パネルにあるDC Boost Input ポートに外部電源としてUSB 5V ソースを接続する と、LED の明るさが増します。(LED Brightness の調整範囲が感覚的に 25%~120% に増幅さ れます。)

仕様

	詳細	
外部電源	ミキサーから(USB ケーブルを介して)電源供給されます。	
	外部ペリフェラル用の 5VDC ブースト用 micro USB ポート	
消費電流	90 mA @5V typical	
Light	100 mA (688 による給電時)	
	500 mA (micro USB ポートによるブースト時)	
サイズ (高 x 幅 x 奥行)	CL-12 (standard)	CL-12 Alaia
	37.3cm X 28.7cm X 9.6cm	38.6cm X 28.7cm X 9.6cm
重量	2.27 kg	2.27 kg



Sound Devices, LLC E7556 Road 23 and 33 Reedsburg, Wisconsin USA

+1 (608) 524-0625 Fax: +1 (608) 524-0655

Customer Support

Toll Free: (800) 505-0625

support@sounddevices.com http://www.sounddevices.com/support http://forum.sounddevices.com

Product Information

For more information about products and accessories, visit us on the web at www.sounddevices.com